

北海道立埋蔵文化財センター

年報 12

平成22(2010)年度

北海道立埋蔵文化財センター

年報 12

平成22(2010)年度



斜里町朱円周堤墓群現地確認（重要遺跡確認調査）



斜里町朱円周堤墓群測量調査（重要遺跡確認調査）

目 次

1	設置の目的	1
2	沿 革	1
3	施設の概要	1
(1)	工 期	1
(2)	面 積	1
(3)	組 織 図	2
(4)	職員名簿	2
4	調査研究事業の概要	2
(1)	重要遺跡確認調査	2
(2)	研修・情報収集	9
a	平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	
b	文化財保存修復学会第32回大会	
c	第1回文化財写真技術研究会	
d	平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 北海道・東北ブロック会議	
(3)	埋蔵文化財に関する調査研究	13
(4)	分析・鑑定・保存処理等	15
a	分析・鑑定	
b	保存処理等	
(5)	市町村教育委員会支援	16
a	指導・協力等	
b	委員会等出席依頼	
c	埋蔵文化財担当職員出前研修会	
d	埋蔵文化財担当職員研修会	
5	収蔵保管事業の概要	18
(1)	収蔵資料目録	18
6	普及・啓発事業の概要	20
(1)	展示活動	20
a	常設展示「掘り出された北の歴史」	
b	企画展示	
	「わかる考古学5 縄文生活体験ひろば」展	
	「北海道遺跡百選3	
	千歳市キウス4 遺跡と国指定史跡キウス周堤墓群 縄文大工事・盛土と周堤墓」展	
	財団法人北海道埋蔵文化財センター平成21年度発掘調査成果展	
	世界遺産をめざす北の縄文展	
(2)	資料の特別利用等	25
a	特別利用一覧	
b	模写品等刊行承認一覧	
c	資料貸出承認一覧	

(3) 考古学教室	27
a 考古学入門講座 考古学情報探索(中級編)	
b ガラス玉づくり	
c 竪穴住居模型づくり	
d 石器づくり	
e 拓本講座	
(4) 子ども考古学教室	28
a 親子ガラス玉づくり	
b 夏休み親子考古学教室 第1回・第2回	
c 写生会「ビビちゃんと描く縄文の世界」	
d 冬休み縄文生活体験ひろば	
e 冬休み親子写真撮影会	
f 冬休み親子考古学教室 第1回・第2回	
(5) 市町村出前講座	29
a 事業目的	
b 事業内容	
c 実施市町村一覧	
(6) 講演会・報告会	31
a 財団法人北海道埋蔵文化財センター平成21年度発掘調査報告会	
b 秋季講演会 「ぼくとわたしの考古学 麦わら帽子の記憶」(菅本啓子氏)	
c 冬季講演会 「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 苫小牧市」(佐藤一夫氏)	
(7) 教育連携講座	32
(8) 共催・協力など	32
a 財団法人北海道生涯学習協会 「ほっかいどう学」かでの移動講座	
b 北海道文化財保護協会 「子どもの文化財愛護推進事業」	
c 講師派遣	
(9) 周辺施設との連携	34
a 文京台地区道立教育3施設連携	
b あつまれ!森林公園クイズラリー2010	
c 野幌総合運動公園運営連絡協議会	
d かるちやるnet(文化施設連絡協議会)	
7 利用状況など	36
(1) 入館者一覧	36
(2) 団体利用者対応	38
(3) 実習等	39
8 図書資料	40
(1) 購入図書一覧	40
(2) 受領刊行物一覧	40
9 講演会要旨	46
(1) 秋季講演会 「ぼくとわたしの考古学 麦わら帽子の記憶」	46
(2) 冬季講演会 「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 苫小牧市」	54

1 設置の目的

北海道には貴重な埋蔵文化財が数多く発見されており、これらの埋蔵文化財の保護、保存・活用を図るため、調査研究を行うとともに、出土文化財等の収蔵保管、展示公開並びに文化財保護思想の普及啓発を図る総合的な機能を有する道立の埋蔵文化財センターを設置する。

2 沿革

平成7年

3月 北海道立埋蔵文化財センター（仮称）基本構想策定

平成8年

9月 本館基本設計完了

平成9年

3月 本館実施設計完了

10月 本館建設工事着手

12月 別館（整理作業所）基本設計完了

平成10年

3月 別館（整理作業所）実施設計完了

9月 別館（整理作業所）建設工事着工

平成11年

3月 本館建設工事竣工

4月 北海道立埋蔵文化財センター開設

8月 別館（整理作業所）建設工事竣工

11月 一般公開

3 施設の概要

(1) 工期

[本館工事] 平成9年10月31日着工

平成11年3月18日竣工

[別館工事] 平成10年9月10日着工

平成11年8月18日竣工

[外構工事] 平成11年7月28日着工

平成11年12月10日竣工

(2) 面積

[敷地面積] 18,599.50㎡

[延床面積]

本館：5,063.02㎡（鉄筋コンクリート造・2階建）

別館：2,081.80㎡（鉄筋造・3階建；整理作業所）（渡り廊下含む）

[部屋別面積]

本館1階

調査研究室（253㎡）

保存科学室（167㎡）

観測・計測・修復室（47㎡）

金属製品処理室（31㎡）

分析室（48㎡）

実験室（53㎡）

撮影室・暗室（105㎡）

図書室（177㎡）

一般収蔵庫（399㎡）

展示収蔵庫（321㎡）

展示室（310㎡）

本館2階

所長室（47㎡）

事務室（241㎡）

特別収蔵庫（227㎡）

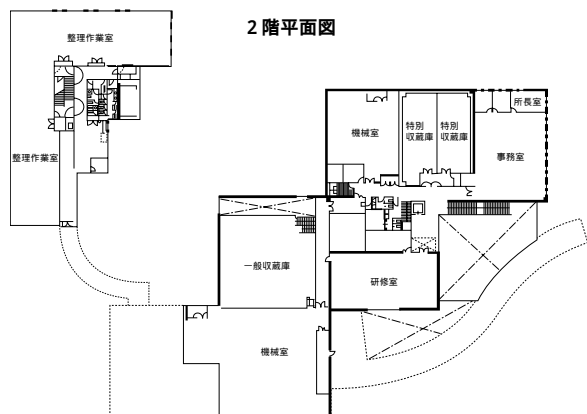
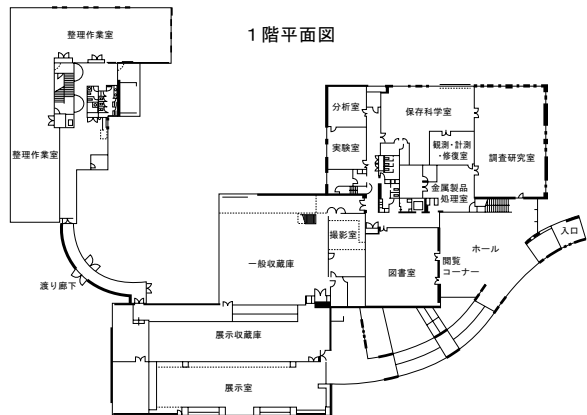
研修室（196㎡）

一般収蔵庫（319㎡）

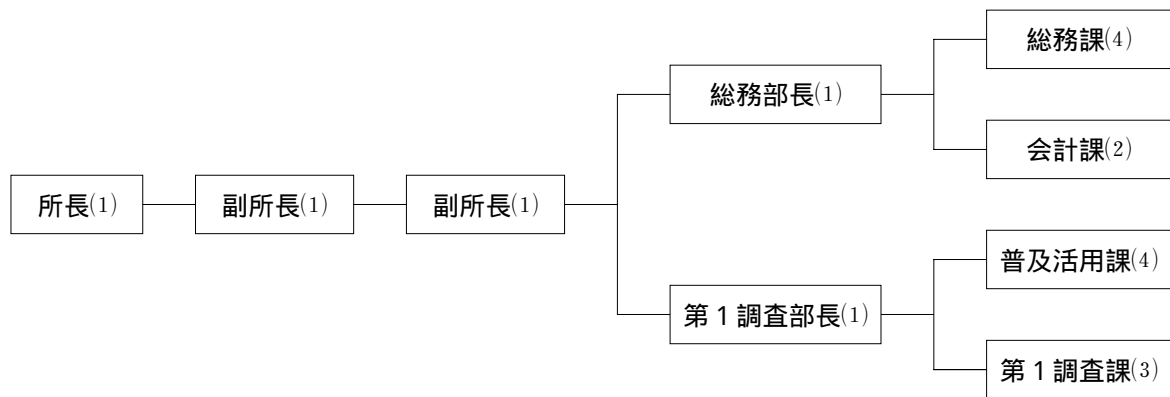
別館1階：整理作業室（520㎡）

別館2階：整理作業室（540㎡）

別館3階：整理作業室（220㎡）



(3) 組織図



(4) 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
所長	坂本 均	総務部長	中田 仁	第1調査部長	千葉 英一
副所長	松本 昭一	総務課長	葛西 宏昭	普及活用課長	鎌田 望
副所長	畑 宏明	総務課主査	小杉 充	普及活用課主査	藤本 昌子
		総務課参与	北浦 満	普及活用課主査	倉橋 直孝
		総務課参与	前田 克己	普及活用課主査	藤井 浩
		会計課長	礪田 千秋	第1調査課長	田口 尚
		会計課主任	中村 貴志	第1調査課主査	花岡 正光
				第1調査課主任	吉田裕吏洋



4 調査研究事業の概要

(1) 重要遺跡確認調査

1 重要遺跡確認調査について

北海道教育委員会では、北海道史をたどる上で重要と考えられる50遺跡を選定している。

北海道立埋蔵文化財センターでは、これらの遺跡を対象にした重要遺跡確認調査を実施してきた。これまでに平成12年度に小樽市・余市町所在の西崎山ストーンサークル、平成13・14年度に奥尻町青苗砂丘遺跡、平成15・16年度に恵山町（現

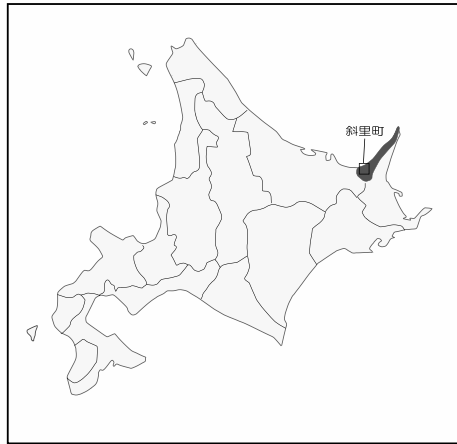
函館市）恵山貝塚、平成17～21年度には幌延町・豊富町に所在する音類竪穴群で実施した。

今年度は北海道立埋蔵文化財センター指定管理業務2期目の初年度に当たり、北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課文化財担当課長から「重要遺跡確認調査について（通知）」（平成22年8月9日付教文ス第1362号）が送付された。

その別紙「平成22～25年度重要遺跡確認調査実施要領」により、平成22・23年度は斜里町朱円周堤墓群（道指定史跡：指定名称「斜里朱円周堤墓及び出土遺物」）、平成24・25年度は芦別市野花南

位置図

S=1:60000

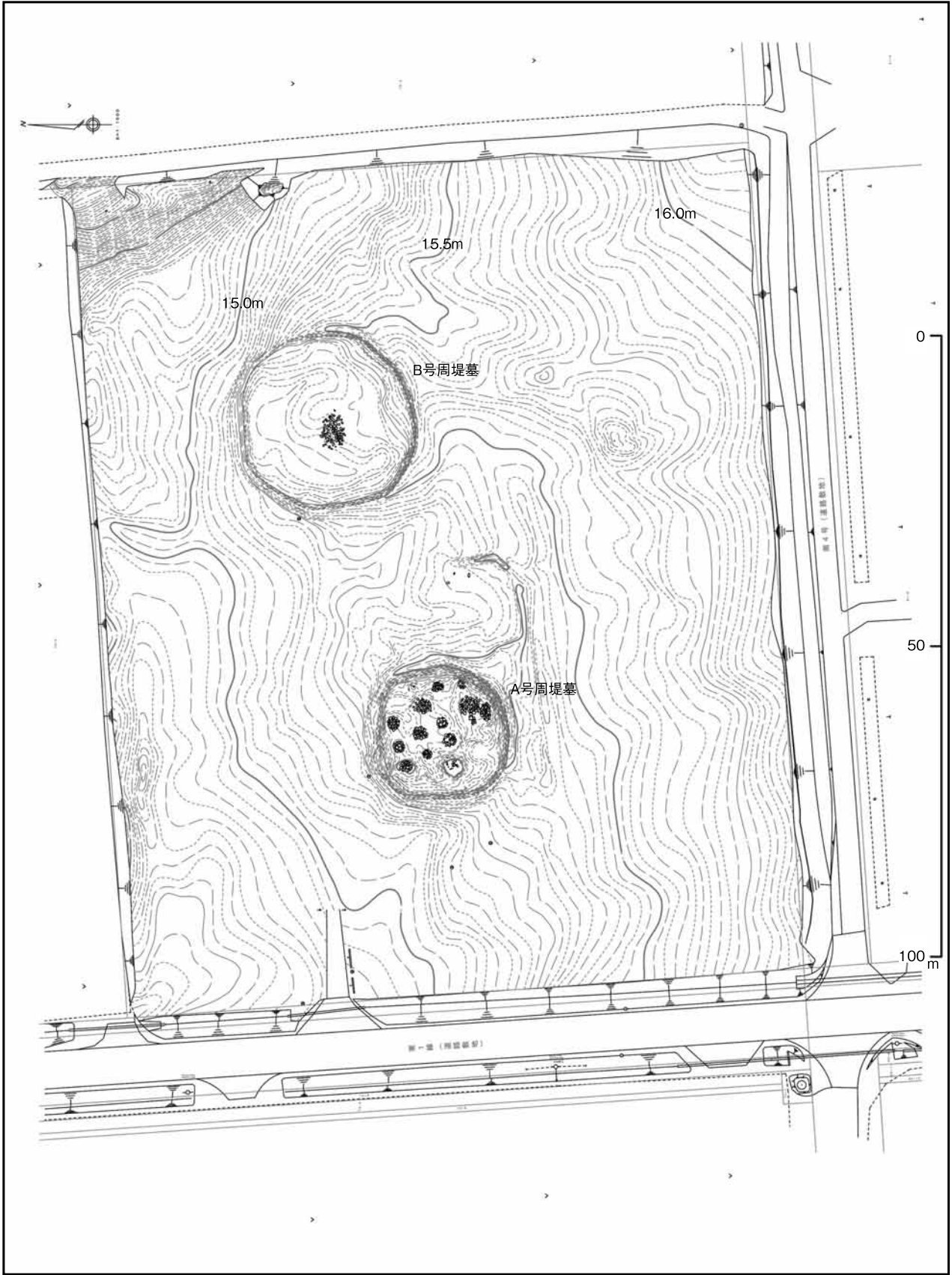


平成22年度調査箇所



斜里朱円周堤墓の位置

この図は国土地理院五万分の一地形図「斜里」から作成した。



斜里朱円周堤墓 (平成22年度地形測量による)

周堤墓群（道指定史跡：指定名称「野花南周堤墓群」）が重要遺跡確認調査対象遺跡として示された。

2 斜里朱円周堤墓の調査

今年度及び次年度にかけて、斜里町斜里朱円周堤墓の調査を行うこととなった。

【遺跡の位置】

所在地は斜里郡斜里町字朱円西76番地。オホーツク海に流入するオクシベツ川左岸、旧アッカベツ川右岸の標高約15mの台地（栗沢台地）上に立地する。

【調査歴と北海道指定史跡】

昭和23年10月、昭和24年7月および10月に河野広道氏により行われた調査が最初である。遺跡は2基の周堤墓と、周堤墓内の配石が主体であるが、調査によって配石下の墓坑が明らかになった。

昭和32年1月29日に北海道指定史跡に指定された。当時の指定名称は「史跡斜里朱円環状土籬及び出土遺物」で、平成13年に「史跡斜里朱円周堤墓及び出土遺物」に変更され現在に至っている。指定範囲の面積は14850㎡を測る。

なお、北海道教育委員会に登載されている名称は斜里朱円周堤墓である（登載番号I-08-38）。

【調査の方針：遺跡と遺物の分離】

8月24日（火）北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課において打ち合わせを行った。ここでは平成22・23年度の重要遺跡確認調査が、「斜里朱円周堤墓及び出土遺物」を史跡と有形文化財に分けるための資料を作成することが目的で、その目的のために 測量調査、写真撮影、出土品の資料化、発掘調査を行うよう指示があった。さらに昭和23・24年の河野広道氏による発掘調査の状況について、当時の調査参加者から聞き取り調査を行うよう指示があった。

また、9月9・10日（木・金）斜里町朱円周堤墓と斜里町立知床博物館において知床博物館学芸主幹松田功氏による指導、案内の下、現地確認を行った。遺跡の現況及び出土遺物の保存状況を確認し、今後の調査計画に関する諸条件について打ち合わせを行った。

3 遺跡の測量調査

【調査期間】

平成22年11月10日（水）～11月19日（金）

【現状変更の許可】

遺跡は道指定史跡にあたるため、測量調査の実施にあたっては現状変更許可申請が必要とされた。平成22年11月9日付け教文ス第2206号指令により、地形測量と遺物調査についての現状変更が許可された。

【測量調査】

11月10日～19日には現地での測量調査を実施した。実施要領に則り、史跡範囲内の基準点測量、史跡現状地形測量調査、遺構現況地形測量調査、配石平面図測量調査を行った。

【基準点測量】

測量の基準として有限会社藤原工産に委託して、基準点測量を行った。指定範囲内に6箇所6cm角のプラスチック杭を基準杭として設置した。杭間は40mとし、各基準杭については4級水準測量を行った。

【史跡現況測量調査】

史跡範囲の平面図及び地形の測量を行い、縮尺1/200で図化した（周堤墓平面図）。等高線は50cm間隔とした。

【遺構現況地形測量調査】

周堤墓AとBについては、レーザー計測を用いて、平面図及び地形の測量を行い、縮尺1/50で図化した。また、各周堤墓内の配石についても、平面図の測量を行い、縮尺1/10で図化した。レーザー計測で得られた3次元データを基に3Dシミュレーションを作成した。

なお、周堤墓外の配石の可能性のある礫についても「独立配石」として実測を行った。

【その他作成図面】

その他、縮尺1/1000で地形地籍合成図を作成した。全ての図面についてはデジタルマッピングデータを作成し保管している。

4 出土遺物の資料化

【調査期間】

平成22年11月10日～平成23年9月（予定・現状

変更申請期間)

【知床博物館所蔵の出土遺物】

史跡に指定されている朱円周堤墓出土の遺物は昭和23・24年に河野広道氏による発掘調査の際に出土したもので、現在はすべて斜里町知床博物館に展示、保管されている。

11月10日に所在を確認した遺物は、土器（復元個体・ミニチュア土器を含む）11点、石器2点、土製品1点、石製品（玉、石棒など）12点、繊維製品1点、漆製品3点、サメの歯3点、人骨片2件、人歯3件、赤色顔料4件、炭化材1件、炭化物塊1点、炭化種子1件である。

これらについては遺構同様に現状変更の許可を受けた後、11月19日（金）に資料化作業のため、すべて北海道立埋蔵文化財センターに移動し、保管している。

また、知床博物館所蔵の朱円周堤墓についての写真資料（河野氏調査時及び1970年撮影時の写真）を借用複製した。さらに佐藤隆広氏作成の遺物実測図を参考関連資料として保管し、報告書の掲載を予定している（昭和24年調査時撮影 斜里朱円周堤墓）。

【土器・石器・製品等の資料化作業について】

土器11点については保存状況を観察し、再接合、再復元についての計画を作成している。全てについて現状の写真撮影を行い、実測図を作成している。その内4点については文様展開図と接合破片の展開図を作成している。

石器・土製品・石製品については土器同様に保存状況を確認した後、現状写真の撮影と新たに実測図の作成を行っている。

その他、繊維製品、歯、骨などの自然遺物については現状写真撮影を行い、保存状態に応じて実測図を作成する予定である。

【分析・鑑定等について】

分析・鑑定については、人骨、歯、漆製品、赤色顔料、繊維製品、黒曜石製遺物（原産地同定）、石器石材、炭化種子について行う予定である。

今年度は、人骨・歯と黒曜石製遺物、石器石材についての分析鑑定を行った。

人骨・歯については札幌医科大学の松村博文准

教授に鑑定をしていただき、黒曜石製遺物と石器石材の一部については明治大学文化財研究施設、杉原重夫教授に分析を依頼した。

【関連資料調査 旭川市博物館】

平成23年2月23日（水）今年度は朱円周堤墓調査に携わった河野広道氏に関わる河野コレクションを所蔵する旭川市博物館にて、周堤墓に係る資料の所在、特に「河野広道ノート」に掲載されている遺物の確認を行った。

その結果、旭川資料には「朱円」「朱円栗沢台地」などの注記が見られるものの、「河野広道ノート」に記載がなく、注記以外の情報もないため、朱円周堤墓との直接的な関連を証明するには困難であると思われた。参考関連資料として報告書に掲載することを検討したい。

5 平成23年度の調査

平成23年度は遺物の資料化作業と並行して、空撮による現地の写真撮影、発掘調査、聞き取り調査を行い、報告書を刊行する予定となっている。

【発掘調査】

発掘調査は、過去の調査状況の確認、竪穴、周堤の構築状況の確認、配石、墓坑の確認を行うことが目的である。A号、B号の各周堤、配石を対象にトレンチによる調査を行う予定である。

【文献】

河野広道 1950 「朱円ストーンサークル」

『北海道郷土研究会会報』第1号

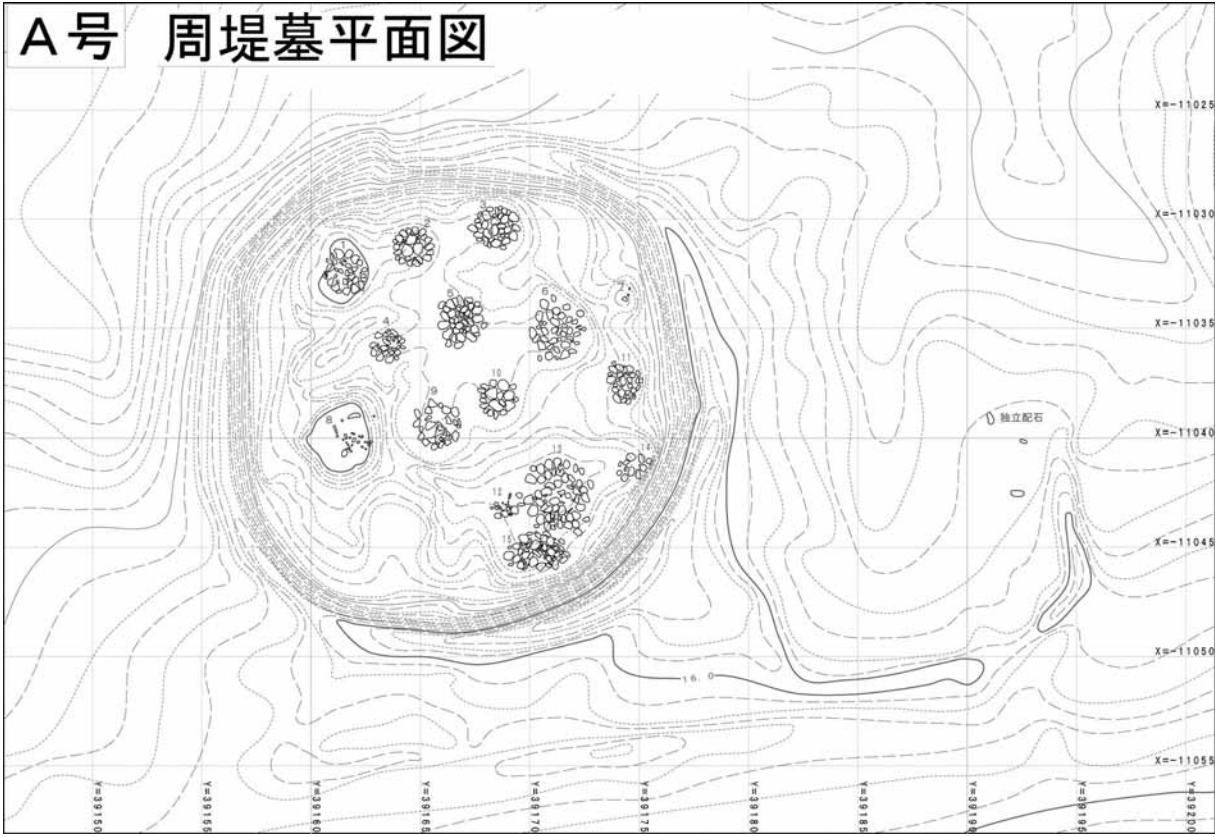
河野広道 1955 「25 朱円西区栗沢台地 栗沢喜重郎所有畑地」『斜里町史』

河野広道 1960 『斜里朱円環状土籬および出土遺物』（北海道文化財シリーズ2）

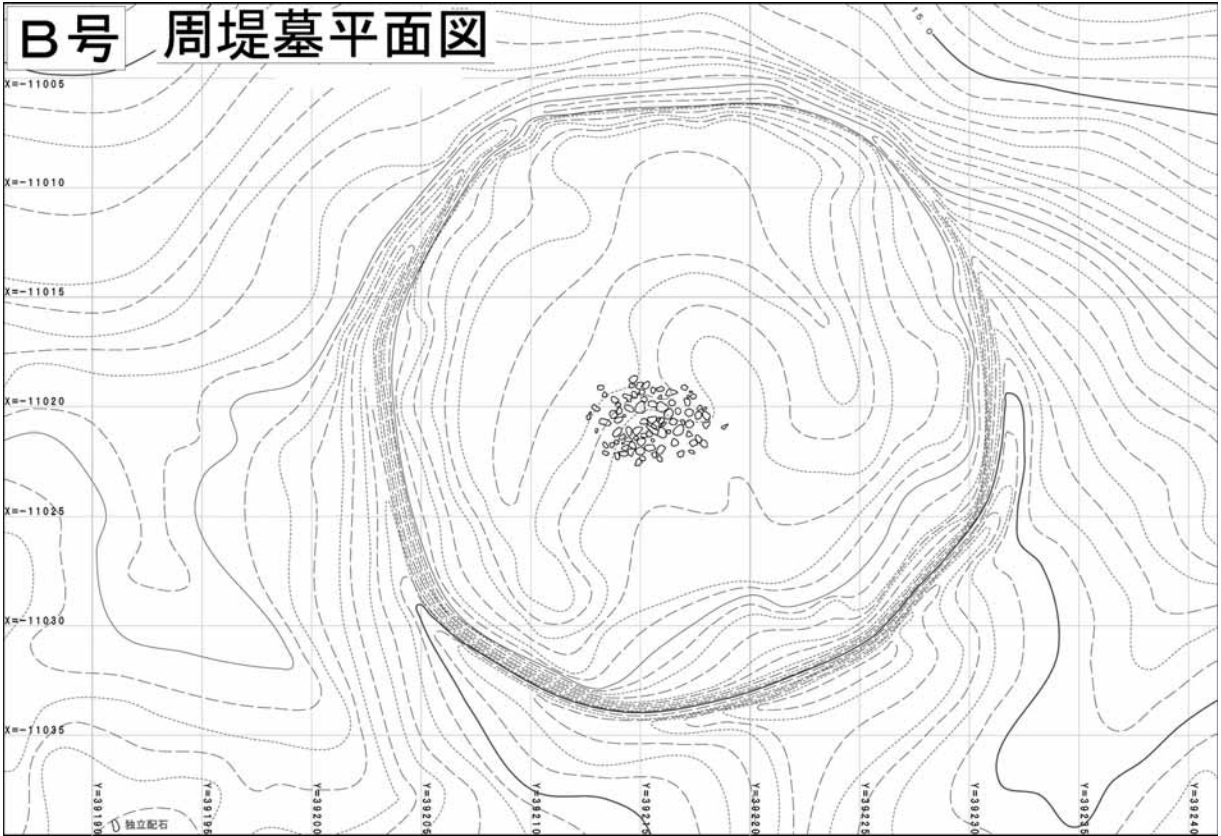
河野広道 1961 『道指定有形文化財斜里朱円環状土籬出土遺物』（北海道文化財シリーズ3）

宇田川洋編 1981 『河野広道ノート 考古篇1 - 北海道東北部の考古学的調査 - 』

A号 周堤墓平面図



B号 周堤墓平面図



周堤墓平面図 平成22年度地形測量による 1グリットは5m四方、図の上が北を示す。）



史跡全景



B号周堤墓 1号墓



A号周堤墓 1、2、3号墓



A号周堤墓 5号墓



A号周堤墓 6号墓



A号周堤墓 8号墓



A号周堤墓 9号墓



A号周堤墓 10号墓

昭和24年調査時撮影 斜里朱円周堤墓 配石墓

(2) 研修・情報収集

a 平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会

期 日：5月27日(木)～5月28日(金)

会 場：山口県山口市湯田温泉町3丁目
セントコア山口

参加者：総務部長 中田 仁、会計課長 礪田千秋
内 容：

議事1 新規会員の加入について

宮崎市生目の杜遊古館から、平成22年6月18日付で入会申請があり、役員会で了承し、総会で承認された。

議事2 会員の退会について

総社市埋蔵文化財学習の館、栗東市出土文化財センターから、平成21年度末をもって退会したいとの届出があり、役員会で了承し、総会で承認された。

議事3 平成21年度事業報告について

平成21年度総会の開催等について事務局から報告があり、承認された。

ア．総会の開催

5月21日(木)～5月22日(金)、福岡県北九州市
30機関、40名出席

イ．研修会の開催

11月19日(木)～11月20日(金)、鳥取県鳥取市
31機関、39名出席

テーマ「弥生建築研究の現在」

ウ．役員会の開催

第1回：5月21日(木)、福岡県北九州市

第2回：11月6日(木)、東京都

エ．機関誌の発行

「公立埋文協会報」第43・44号を発行

議事4 平成21年度収支決算について

平成21年度収支決算について、事務局から報告があり、承認された。

議事5 監査報告

平成22年度第1回役員会に先立ち、平成21年度収支決算を監事による監査が行われ、適正に執行していることが報告された。

議事6 平成22年度事業計画について

平成22年度事業計画について、事務局から提案があり、原案の通り承認された。

議事7 平成22年度収支予算(案)について

平成22年度収支予算(案)について、事務局か

ら提案があり、原案の通り承認された。

議事8 新規加盟組織の勧誘について

全国36の未加入機関及び所管する教育委員会に対し、勧誘案内を送付しているとの報告があった。

議事9 平成23年度総会・役員会及び研修会開催地について

総会及び第1回役員会は、長野市埋蔵文化財センターが、第2回役員会は、近畿ブロック会長職機関(会場東京都)が開催機関となることについて、承認された。

議事10 発掘された日本列島2010展について

準備関係者として参加している山梨県埋蔵文化財センター小野正文所長から、これまでの協議内容と、今年度から当協議会も全国埋蔵文化財法人連絡協議会、全国史跡整備市町村協議会と連携して、活動内容等を紹介するパネル展示を行うこととなった旨の報告があった。

記念講演

文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官 禰宜田佳男氏から、「埋蔵文化財行政の現状と課題」と題しての記念講演があった。

1点目は、今年3月に刊行した集落遺跡に関する「発掘調査の手引き」について、積極的に活用してほしいこと、今後は、墳墓、寺院、城郭、生産遺構などを予定している旨の話があった。

2点目は、会計検査院が、国土交通省の道路関係の発掘調査に関し、原因者負担の範囲がどこまでか、詳細に実態も把握しているようであり、今後の動向によっては、埋蔵文化財保護行政に影響することも懸念されるところであった。

3点目は、都道府県の専門職員が減ってきており、都道府県が主体となって実施する発掘調査をどうしていくのか、議論を深めてほしいとの話があった。

視察見学

総会の翌日、国指定史跡「大内氏館跡」、国重要文化財「龍福寺本堂」、国指定史跡「長登銅山跡」、「美祢市長登銅山文化交流館」の視察を行った。

b 文化財保存修復学会第32回大会

期 日：6月11日(金)～6月13日(日)

会 場 岐阜県岐阜市長良福光2695 - 2

長良川国際会議場

参加者：第1調査部第1調査課長 田口 尚
内容：口頭発表は内容ごとにセッション ~
に区分され、25件の発表があった。ポスターセッ
ションは117件掲示され、解説時間が設けられた。
いずれも積極的な質疑、意見交換が行われた。

大会関連事業

今回は大会に先だち、関連行事として、「ミュージアムと保存 身近なことから、ところから」と題して研究会が開催された。これは岐阜県博物館協会、愛知県博物館協会、三重県博物館協会の共催事業である。東海三県の330館以上の博物館、資料館、美術館はそれぞれの県の博物館協会に加盟している。全国的に予算削減など活動の諸条件が厳しくなっている現在、互いの状況を理解し合い、相互協力し、努力するための情報交換が急務とのことで企画された。その中で学芸員が直面している諸問題、問題解決にどのような知恵やアイデアで対応をしているかを各施設の事例をもとに議論された。

「ミュージアムと保存 身近なことから、ところから 明治村の取り組み」西尾雅敏（博物館 明治村）

「アンケート集計結果報告」（事前に3県の博物館協会を通じて、アンケート調査を実施）可児光生（美濃加茂市民ミュージアム）

『事例報告』

ア．お金がない！「身近なものが博物館保存に」
田村 哲（愛知県陶磁資料館）

イ．専門知識がない！人手が足りない！「NPO法人やボランティア活動等、館外の協力者」長屋菜津子（愛知県美術館）

ウ．海外ではどうしているの？「アメリカの大きな美術館・小さな美術館」井口智子（名古屋ポストーン美術館）

以上の発表や討論で、先ず感じたのは、は関東、東海、関西地域では、保存科学機関が周辺に存在し、協力が得られやすいことである。現在、北海道では対応できる機関が無く、残念ながら当センターの保存処理施設や分析機器は、市町村依頼の埋蔵文化財関連の対応しか許されていない。

は常時点灯している非常灯を利用した害虫捕虫

駆除箱である。早速、同様のものを製作し、カメラシ駆除等に効果が得られた。は古典的手法で製作されたものは、新素材の保存材料との相性が悪い場合も多く、新素材は劣化をしないため通常の経年劣化や色調変化と風合いが一体とならない。安価な素材で早急な修復は、後で大きな損失となることである。はアンケート集計結果での議論である。保存業務が十分ではないとの回答が92%あり、全体として機会や時間があれば保存業務について学習したいとの回答は71%もあった。しかし、保存業務については、若手・中堅学芸員の多くが、担当として保存業務に関わりをもつことに拒否反応が見られ、外部の専門家の仕事としてとらえているようである。逆にベテラン世代では、資料や施設に関わることは、すべて学芸員の職務一部としてとらえ、積極的に実践し、情報収集を行っているとの結果であった。この状況は埋蔵文化財調査においても同様かもしれない。は学会や文化庁が製作した『文化財ウイール』の認知度の低さであり、知らないが73%もあった。道内では、旧南茅部発掘調査事務所の火災事件もあり、道埋文担当者会議の参加者に配布していたと記憶しているがご存じであろうか。

以下、業務との関連で参考となる発表を列挙する。

口頭発表

小規模収蔵スペースや展示ケースの利用形態を考慮した環境改善装置の開発2～特別展示などによる来館者の急増が展示ケース内の環境に与える影響とその改善[松井敏也(筑波大学)他]阿修羅立像梱包箱の防振効果[和田 浩(東京国立博物館)他]

保存施設稼働時の高松塚古墳石室内の温湿度変動の解析～吸放熱パネルへの送水温度および入室が石室内温湿度変気象条件の影響[小椋大介(京都大学)他]

分子生物学的手法による歴史的木造建築物の生物劣化調査[杉山智昭(北海道開拓記念館)他]などがある。

ポスターセッション

P079：脆弱な出土金属製品を取上げる際の保護処理の一手法 有機溶剤に対する溶解性が異なる

アクリル樹脂の利用 [今西寿光(株 京都科学 池)]
P 081: 江戸時代製鎧の骨牌札に使われた鋼板の
金属組織 [釘屋奈都子(東京芸術大学)他]
P 107: 金属製遺物に付随する乾燥木材の樹種同
定 刀剣類の柄と鞘の用材選択 [西尾太加二(静
岡県埋蔵文化財調査研究所)]

c 第1回文化財写真技術研究会

期 日: 7月2日(金)~7月4日(日)

会 場: 奈良県奈良市佐紀町

奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂

参加者: 第1調査部第1調査課主任 吉田裕吏洋

内 容:

7月2日(金)

議案1号 平成21年度事業報告

編集委員会・普及委員会・白黒部会・デジタル
部会の各部会から平成21年度活動報告と今後の活
動予定についての説明があった。

議案2号 平成21年度会計報告

事務局より平成21年度決算報告と、監事からの
会計検査結果報告がなされた。

議案3号 会則変更について

研究会名称変更に伴う会則変更についての提案
がなされ承認された。

議案4号 役員改選について

役員改選について事務局提案があり、承認され
た。

議案5号 平成22年度予算案

事務局より平成22年度予算案についての提案が
あり承認された。

議案6号 平成22年度新入会員紹介

個人会員・会友各1名、賛助会員1社の紹介が
あった。

研究会 文化財写真の実際

「埋蔵文化財と写真~『発掘調査のてびき』から~」

牛嶋 茂(文化財写真技術研究会顧問)

埋蔵文化財写真の経緯と『発掘調査のてびき』
編集時に留意した部分とその補足説明がなされた。

「写真と文化財~彫刻写真~」

金井杜道(文化財写真技術研究会顧問)

仏像写真の歴史から見る、撮影やライティング
の技術の変遷についての発表であった。

7月3日(土)

「記録写真にみる平城宮第一次大極殿復元工事」

杉本和樹・中村一郎(奈良文化財研究所)

大極殿復元工事の進行状況を撮影した写真を元
に、記録写真としての重要性や撮影時における留
意点などについての説明がなされた。

研究会 写真画像の入力から出力まで

「写真図版を取り巻く環境の変化」

玉内公一(ティーコア)

デジタル入稿時の注意点などについての発表が
中心となった。デジタル入稿が主流になり、原稿
製作の責任が発注者側へと移行している。入稿か
ら印刷まで円滑に行う為には、今まで以上にデジ
タルに対する正しい知識と技術の習得が大切であ
るとの話があった。

「モニターカラーマネジメントの重要性」

玉内公一(ティーコア)

デジタル画像を扱う上で重要となるカラーマ
ネジメントの重要性とカラーマネジメントモ
ニターの必要性についての発表となった。写真の
デジタル化のにおいての重要な位置を占めるのはパ
ソコンのモニターである。事務処理用のモニター
とは異なり、階調表示能力、色再現範囲、表示面
積などが求められる。画像を扱う上ではキャリブ
レーション機器により調整可能なカラーマネジ
メントモニターが必要となる。

キャリブレーターにより色温度や白色点の調
整、モニターの経時変化に伴う劣化の補正などを
行い、常にモニターを一定の状態に保っておくこ
とが大切である。

「フィルムスキャンからプリント出力までの注意点」

岩本康平(セイコーエプソン株式会社)

カラーマネジメントを中心にスキャナー・ソ
フト・プリンターの詳細設定についての発表と
なった。

入力から出力までカラーマネジメントされた
システムで作業を行うことが必要であり、注意点
として以下のことがあげられた。

・出来るだけ同クラスの業務用機器を使う

- ・カラーエンジンは1つだけ動かす
- ・モニター接続はデジタル接続する
- ・各機器やソフトのカラースペースやガンマ値の設定を統一する

d 平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 北海道・東北ブロック会議

期 日：10月21日（木）～10月22日（金）

会 場：北海道札幌市中央区北2条西7丁目

かでの2・7 510会議室ほか

参加者：北海道立埋蔵文化財センター：副所長

畑 宏明、総務部長 中田 仁、第1調査部長

千葉英一、第2調査部長 西田 茂、総務課長

葛西宏昭、総務課主査 小杉 充、普及活用課長

鎌田 望、普及活用課主査 倉橋直孝

内 容：10月21日（木）は札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 510会議室において会議を行った。10月22日（金）は8：45から12：00まで、札幌市指定有形文化財 清華亭、北海道大学総合博物館、北海道大学埋蔵文化財調査室の視察を行った。

協議事項：

議事1 北海道・東北ブロック会議開催地輪番制について

前年度のブロック会議で、諸事情からブロック会議を開催できない機関があるとのことから、当時の議長機関であった秋田県が中心となって対応を検討していたもので、提案について全会一致で承認された。

秋田県が整理した案は、昨年度までのローテーションを活かすが、開催できない機関については、そのローテーションに入れないこととし、北海道で1年度、東北で2年度連続の開催という形はそのまま、開催不可能な機関が北海道であれば北海道地区のほかの機関、東北地区であれば東北地区のほかの機関が調整して開催する、というものである。

平成23～32年度までの開催機関は以下の通り。

平成23年度 二戸市埋蔵文化財センター

平成24年度 多賀城市埋蔵文化財調査センター

平成25年度 釧路市埋蔵文化財調査センター

平成26年度 北上市埋蔵文化財センター

平成27年度 奥州市埋蔵文化財調査センター

平成28年度 札幌市埋蔵文化財センター

平成29年度 盛岡市遺跡の学び館

平成30年度 青森県埋蔵文化財センター

平成31年度 北海道立埋蔵文化財センター

平成32年度 秋田県埋蔵文化財センター

今後、変更する要素が出てくれば、その都度検討し対応することとした。

議事2 平成23・24年度北海道・東北ブロック幹事について

平成23・24年度のブロック幹事については、全国会議で推薦することとなるが、過去の例から北海道地区、東北地区からそれぞれ各1機関を推薦することとしたいとの説明を北海道が行った。それぞれの地区の現幹事から推薦された機関の意向を確認してブロック幹事として推薦することとした。北海道地区の現幹事である札幌市から、次期幹事として北海道を推薦する旨提案があり、北海道も了解した。東北地区の現幹事である多賀城市からは、「東北地区として現在推薦機関をまとめているところであり、まとまり次第連絡することとする」旨の報告があり、北海道地区の推薦を含め、全会一致で承認された。代表幹事については、幹事に推薦された機関で話し合い、決定することとした。

照会事項：以下のア～オ事項について、照会機関の趣旨説明のあと、出席機関から回答内容の補足説明があった。

ア．発掘現場作業員及び整理作業員等の雇用方法、選考基準、選考結果の取扱いについて

（照会機関：札幌市埋蔵文化財センター）

イ．雇用保険法改正に伴う雇用事務量の増加に対する対応について

（照会機関：札幌市埋蔵文化財センター）

ウ．発掘調査に係る調査委託について

（照会機関：青森県埋蔵文化財センター）

エ．掘削作業を重機で行う場合の契約について

（照会機関：青森県埋蔵文化財センター）

オ．写真機材のリースについて

（照会機関：秋田県埋蔵文化財センター）

会議出席者は他機関8名、北海道立埋蔵文化財センター8名の計16名、視察参加者は他機関6名、北海道立埋蔵文化財センター3名の計9名である。

(3) 埋蔵文化財に関する調査研究

保管出土品を活用した研究

「保管遺物の材質、原産地等についての整理」

【調査研究計画】

指定管理者第1期においては保管遺物についての基礎的、一次的なデータの整理作業を行った。第2期においてはこのデータ整理を継続しつつ、新たな属性項目を追加し、情報を付加していくことを計画した。今期は特に、遺物の保管、保存について重要な課題である素材・原材に着目し、材質分析及び原産地分析に関する情報収集、集成について行うことにした。

【情報収集・集成】

初年度は、保管遺物に関わる分析データを内容毎に、集成し、整理することから開始した。特に、石材や黒曜石に関する原産地分析のデータについては優先して抜き出しを行った。

利用可能な分析データは3種類ある。(1)これまでに財団センターまたは道立センターで行った分析のデータ、(2)財団センターが調査時に依頼、委託して行った分析のもの、(3)道立センターでの特別利用や資料貸出の際に行われた分析のものである。

(1)(2)については刊行された報告書からデータを抜き出す作業を行い、継続中である。(3)については公表されているが、対象が限られている場合もあり、情報提供いただいたものである。

【道立センター保管遺物利用の分析】

道立センターでの特別利用や資料貸出の際の分析で、石材、原産地に関わるものは、これまでにキウス5遺跡出土の玉類(北海道教育大学 菅原いよ氏・岡村聡氏)、千歳市美々3遺跡出土の石斧(斜里町知床博物館 合地信生氏)、千歳市美々4遺跡、美々2遺跡、キウス4遺跡出土の黒曜石製遺物(明治大学文化財研究施設 杉原重夫氏、金成太郎氏)などの例がある。

【黒曜石原産地分析データの整理】

本年度報告では、上記の分析データの中から、特に今年度貸出、分析依頼のあった明治大学文化財研究施設より提供のあった調査結果を整理し、データ活用の方向性を考える材料としたい。

なお、黒曜石製遺物の原産地推定は、明治大学文化財研究施設に設置されている「黒曜石原産地推定システム」で行った。推定結果については情報提供というかたちで協力をいただいた。

【美々2遺跡 石器の原産地推定結果より】

今回測定したのは、北海道千歳市美々2遺跡(縄文時代晩期末)から出土した黒曜石製遺物である。

遺物は縄文時代晩期末の竪穴住居跡及び第 黒色土層、第 黒色土層から抜き出したもので、測定した点数は504点であり、原産地が判別できた遺物は437点であった。

原産地推定の結果は、白滝地区赤石山系が308点(70.5%)と7割以上を占めた。続いて十勝地区上士幌・美蔓系Aが77点(17.6%)であり、他に置戸地区所山系が21点、赤井川地区赤井川系が19点、白滝地区十勝石沢系が10点、ケショマップ地区ケショマップ系が2点認められた。

遺跡から直線距離で最短の赤井川系が少なく、約200km弱離れた白滝地区を始め、十勝地区や置戸地区など遠距離の原産地が多用されていることが明らかになった。これは同地域の黒曜石利用を考える上で有益なデータとなる。

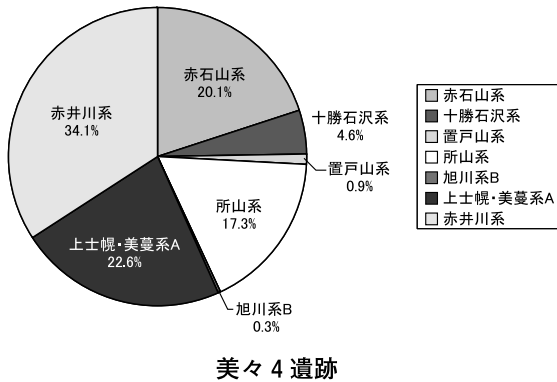
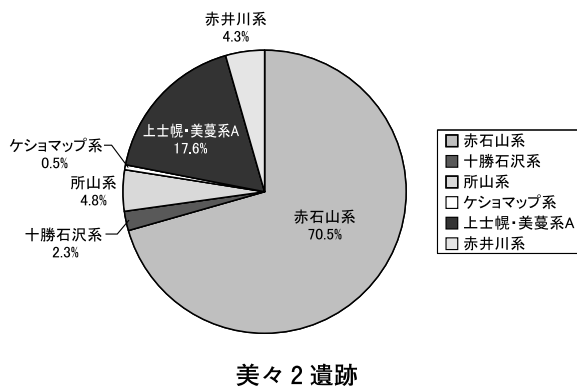
【美々4遺跡の原産地推定結果より】

測定対象は北海道千歳市美々4遺跡(縄文時代前期～晩期末)から出土した黒曜石製遺物である。遺物は中期、後期の竪穴住居跡、及び遺物包含層から抜き出したものである。測定した遺物は371点であり、原産地が判別した遺物は323点であった。

原産地推定の結果は、赤井川地区赤井川系が110点(34.1%)であり、十勝地区上士幌・美蔓系Aが73点(22.6%)と続き、白滝地区赤石山系が65点(20.1%)であり、置戸地区所山系が56点(17.3%)であった。この他、白滝地区十勝石沢

系が15点、置戸地区置戸山系が3点、旭川地区旭川系Bが1点認められた。

原産地構成では、白滝地区や十勝地区など100km以上離れた原産地の黒曜石を多用しており、遺跡からの距離に比例していないことが認められる。今後の分析データの蓄積を待って検討する必要がある。



【今後の計画・目標】

遺物の材質、素材に関する情報は保管方法などに関して有用なだけではなく、特に産地分析などにおいては、当時の人々の動きを知るうえで重要である。分散しがちな情報を一元的に整理することで今後の遺跡調査における分析の方針や意義、目的を考えるうえでのバックボーンとなるような資料の作成を目指したい。各市町村における文化財保護事業においても有用であると考えられる。

遺跡名		測定点数	判別点数	判別不可	
美々2遺跡		504	437	67	
赤石山系	十勝石沢系	所山系	ケショマップ系	上土幌・美蔓系A	赤井川系
308	10	21	2	77	19

遺跡名		時代	測定点数	判別点数	判別不可	
美々4遺跡		縄文時代前期～晩期末	371	323	48	
赤石山系	十勝石沢系	置戸山系	所山系	旭川系B	上土幌・美蔓系A	赤井川系
65	15	3	56	1	73	110



明治大学文化財研究施設での分析状況

(4) 分析・鑑定・保存処理等

a 分析・鑑定

今年度は保管遺物である赤色漆塗櫛、黒色漆塗弓などの塗膜分析。依頼では恵庭市ユカンボシE11遺跡出土の矢柄（炭化材）の樹種同定。

b 保存処理等

重要文化財美々8遺跡出土品の修理

対象：木製品4点、金属製品2点、計6点。

記録票番号254 火鑽板（ニレ属）

記録票番号257 火鑽板（ヒノキ？アスナロ？）

記録票番号583 袋式鉄斧柄（ハシドイ属）

記録票番号700 車権受台部（モミ属）

記録票番号1070 天禧通宝（青銅）

記録票番号1072 内耳鉄鍋（鉄・鋳造）

期間：平成23年3月1日～3月25日

場所：財団法人北海道埋蔵文化財センター
保存科学室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

修理方法の概略

記録票番号254・257

資料劣化状況の肉眼観察および保存処理前の写真撮影を行う。X線透過撮影による内部劣化状況（空隙部分・樹脂含浸状況など）を観察する。

析出した結晶などをブラシやキムタオルを用いて除去し、100%エタノールで拭き取る。エタノールによる拭き取りによって失われたマンニトール+PEG4000樹脂を表層部に塗布含浸し、-40以下に急速冷凍する。真空凍結乾燥を行い、表面に残った余分な樹脂を拭き取る。色調変化、収縮、変形を実測図などと比較観察し、経過を記録する。保存修復後の写真撮影を行う。

薄葉紙に包み、中性紙の紙箱および木箱に収納する。温湿度管理された特別収蔵庫に保管する。

記録票番号583・700

資料劣化状況の肉眼観察および保存処理前の写真撮影を行う。X線透過撮影による内部劣化状況（空隙部分・樹脂含浸状況など）を観察する。

剥落した破片は実測図をもとにエポキシ樹脂+マイクロバルーンで接着し、捲れあがった隙間はエポキシ樹脂+マイクロバルーンを充填して接

着・強化する。充填・接着によってはみ出し、硬化したエポキシ樹脂は、彫刻電動加工機や手術用メスによって違和感の無いように除去し、クリーニングする。クリーニングしたエポキシ樹脂表面はアクリル絵の具（アクリルガッシュ）により、修復を認識できる程度の古色付けをする。

色調変化、収縮、変形を実測図などと比較観察し、経過を記録する。保存修復後の写真撮影を行う。薄葉紙に包み、中性紙の紙箱および木箱に収納する。温湿度管理された特別収蔵庫に保管する。

記録票番号1070

資料劣化状況の肉眼観察および実体顕微鏡観察、保存処理前の写真撮影を行う。X線透過撮影によって亀裂の進行状況（空隙部分・樹脂含浸状況など）を観察する。高温高圧脱塩装置にて脱塩し、十分に乾燥させる。表面の樹脂を拭き取り、更にトルエン、アセトン溶液に浸漬して、アクリル樹脂パラロイドB72、ベンゾトリアゾール（BTA）、トアインクラック樹脂などを除去する。100%エタノール溶液中で超音波洗浄し、十分に乾燥させたのち折損部を再度顕微鏡する。

BTA+トルエン+アセトン+B72溶液を3回減圧含浸し、折損部を接着する。エタノールで拭き取り、表面光沢を抑え、十分に乾燥させる。

色調変化、収縮、変形を実測図などと比較観察し、経過を記録する。資料を脱酸素剤（RPシステム）で封入する。温湿度管理された特別収蔵庫に保管する。

記録票番号1072

資料劣化状況の肉眼観察および実体顕微鏡観察、保存処理前の写真撮影を行う。X線透過撮影によって亀裂の進行状況（空隙部分・樹脂含浸状況など）を観察する。接合部に析出した白色物質を化学分析し、特定する。析出した白色物質をエタノール等で拭き取り除去し、更に充填したエポキシ樹脂上に塗彩されたアクリル絵の具をリムーバー液で拭き取り、十分に乾燥させる。クリーニングした周辺は、パラロイドNAD10を塗布含浸し、色調や光沢を整える。エポキシ樹脂表面にはアクリル絵の具（アクリルガッシュ）

により、修復を認識できる程度の古色付けをする。
色調変化、収縮、変形を実測図などと比較観察し、経過を記録する。資料を脱酸素剤（R P システム）で封入する。温湿度管理された特別収蔵庫に保管する。

保存処理等の指導・協力については次の(5)市町村教育委員会支援で記述した。

(5) 市町村教育委員会支援

a 指導・協力等

収集資料・標本の保存処理協力

依頼元：北海道開拓記念館

対象：植物及び動物資料の標本作成

期間：平成22年7月1日（木）

～平成23年3月31日（木）

場所：北海道開拓記念館および北海道立埋蔵文化財センター保存科学室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

遺構の移築・造形保存の指導

依頼元：国立大学法人北海道大学埋蔵文化財運営委員会

対象：竪穴住居址付属カマド並びに煙道（擦文文化前期、8世紀頃）

期間：平成22年6月～継続中

場所：K39遺跡（附属図書館増築地点）

札幌市北区北8条西6丁目（北大構内）

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

樹種同定

依頼元：恵庭市郷土資料館

対象：恵庭市ユカンボシE11遺跡出土炭化材（矢柄 縄文時代中期）

期間：平成22年12月24日～平成23年2月22日

場所：北海道立埋蔵文化財センター保存科学室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

遺物の保存処理指導

依頼元：北海道大学埋蔵文化財調査室

対象：札幌市K39遺跡（附属図書館本館増築地点）出土竪穴住居柱先端部、札幌市K435

遺跡（南新川外溝地点）出土板状木製品

期間：平成23年2月～継続中

場所：北海道大学埋蔵文化財調査室

担当者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

b 委員会等出席依頼

縄文の漆複製プロジェクト第2回検討委員会

依頼元：NPO法人三内丸山縄文発信の会

日時：平成22年9月6日（月）

場所：岩手県八幡平市立安代若者センター会議室

出席者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

縄文の漆複製プロジェクト第3回検討委員会

依頼元：NPO法人三内丸山縄文発信の会

日時：平成22年11月15日（月）

場所：NPO法人三内丸山縄文発信の会事務局会議室

出席者：第1調査部第1調査課長 田口 尚

c 埋蔵文化財担当職員出前研修会

「中近世遺跡の遺構と遺物 松前町福山城調査と福山城下町遺跡など」

目的：発掘調査に携わっている市町村職員を対象に、中近世遺跡の発掘調査ならびに整理作業時における遺構・遺物の取り扱いについて専門的な研修を行い、今後の調査、普及啓発活動に寄与することを目的とする。

講師：

松前町教育委員会 学芸員 前田正憲 氏
財団法人北海道埋蔵文化財センター

第1調査部第3調査課長 鈴木 信 氏

日時：平成22年9月30日（木）、10月1日（金）

会場：松前町福山城下町遺跡（財団法人北海道埋蔵文化財センター調査遺跡）、松前町郷土資料館、福山城石切場、大館、福山城

内容：今回は、財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査中の松前町福山城下町遺跡で、発掘調査現場での中近世遺構調査の実際と、木製品の取り上げや養生、一次整理について研修を行った。また、文献や松前屏風などに記された内容と史跡整備の調査で得られた成果について検討を進めてきた松前町の担当者に講義をしていただいた。

[日 程]

第1日目：9月30日（木）

13：50 受付開始

13：55 研修開始・オリエンテーション

14：00 研修1「福山城下町遺跡」

講師：鈴木 信 氏

14：30 福山城下町遺跡出発（徒歩で移動）

14：50 松前町郷土資料館着

15：00 研修2「講義 松前藩の歴史・松前町郷土資料館」

講師：前田正憲 氏

17：30 講義・研修第1日目終了

第2日目：10月1日（金）

8：30 研修3「福山城石切場・大館（ゴローニン幽閉先など）・福山城」

講師：前田正憲 氏

10：30 研修終了・終了式

10：40 解散

[参加者] 市町村職員4名、センター職員8名

市町村出前研修参加者一覧(センター職員を除く)

	氏 名	振興局	所 属
1	野村 祐一	渡島	函館市教育委員会
2	山田 央	渡島	七飯町歴史館
3	斉藤 邦典	檜山	上ノ国町教育委員会
4	天方 博章	胆振	厚真町教育委員会

d 埋蔵文化財担当職員研修会

「陶磁器分類の実際」

[目 的] 発掘調査に携わっている市町村職員を対象に、現場ならびに整理作業時における陶磁

器の分類について、専門的な研修を行い、今後の調査、普及啓発活動に寄与することを目的とする。

[講 師]

市立函館博物館 館長 田原良信 氏

函館市北方民族資料館 学芸員 松崎水穂 氏

財団法人北海道埋蔵文化財センター

第1調査部第3調査課長 鈴木 信 氏

[日 時] 平成23年2月4日（金）

[会 場] 2階研修室

[内 容] 陶磁器分類に関する基礎知識について研修を行うとともに、北海道における陶磁器研究の現状と課題について検討した。また、総合討論・質疑応答では、松前町福山城下町遺跡出土の陶磁器を実見しながら意見交換を行った。

[日 程]

10：00 受付開始

10：30 研修開始・オリエンテーション

10：40 研修1「函館市内遺跡と周辺遺跡出土の陶磁器」「19世紀の陶磁器」

講師：田原良信 氏

12：10 昼食

13：10 研修2「上ノ国町内遺跡および道南地域出土の陶磁器」

講師：松崎水穂 氏

14：40 休憩

14：50 研修3「道央部・道東部出土の陶磁器」

講師：鈴木 信 氏

16：00 総合討論・質疑応答

16：30 研修終了・解散

[参加者] 市町村職員等23名、センター職員22名

平成22年度埋蔵文化財担当職員研修会参加者一覧(センター職員を除く)

	氏 名	振興局	所 属		氏 名	振興局	所 属
1	榊 田 朋 広	石狩	札幌市教育委員会	13	松 田 宏 介	胆振	室蘭市教育委員会
2	石 橋 孝 夫	石狩	石狩市教育委員会	14	菅 野 修 広	胆振	登別市教育委員会
3	石 神 敏	後志	小樽市教育委員会	15	宮 浦 優 作	胆振	安平町教育委員会
4	小 川 康 和	後志	余市町町教育委員会	16	荻 野 幸 男	胆振	厚真町教育委員会
5	野 村 祐 一	渡島	函館市教育委員会	17	山 田 和 史	胆振	厚真町教育委員会
6	山 田 央	渡島	七飯町教育委員会	18	森 岡 健 治	日高	平取町教育委員会
7	高 橋 毅	渡島	森町教育委員会	19	川内谷 修	日高	日高町教育委員会
8	塚 田 直 哉	檜山	上ノ国町教育委員会	20	小野寺 聡	日高	新ひだか町教育委員会
9	宮 本 雅 通	檜山	今金町教育委員会	21	大 橋 毅	十勝	芽室町教育委員会
10	石 井 淳 平	檜山	厚沢部町教育委員会	22	坪 岡 始	釧路	標茶町教育委員会
11	高 畠 孝 宗	宗谷	枝幸町教育委員会	23	中 田 裕 香		北海道教育委員会
12	八重柏 誠	網走	美幌町教育委員会				

5 収蔵保管事業の概要

(1) 収蔵資料目録

出土文化財を北海道出土文化財取扱要綱（平成13年4月11日付け教育庁・出納局長通知）等に則して保管し、いつでも活用できるよう管理を行い、整理作業を進めている。今年度新たに収蔵した資料はない。

	シリーズ名称	発行年度	報告書名	所在地	遺跡名	掲載遺物コ ンテナ数	その他コ ンテナ数	復元土器 個体数		
1	道教委	1	昭和52	1977	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	5	140	1
2	道教委	1	昭和52	1977	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々5	1	1	0
3	道教委	3	昭和54	1979	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	3	152	15
4	道教委	3	昭和54	1979	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々5	11	74	0
5	道教委	3	昭和54	1979	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々6	2	13	0
6	道教委	3	昭和54	1979	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々7	7	42	0
7	北埋調報	3	昭和55	1980	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	6	365	108
8	北埋調報	3	昭和55	1980	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々5	3	50	5
9	北埋調報	3	昭和55	1980	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々6	2	16	3
10	北埋調報	3	昭和55	1980	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々7	1	4	3
11	北埋調報	7	昭和56	1981	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	1	91	117
12	北埋調報	8	昭和57	1982	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	1	5	9
13	北埋調報	9	昭和57	1982	ママチ遺跡	千歳市	ママチ	9	161	73
14	北埋調報	14	昭和58	1983	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	9	166	143
15	北埋調報	14	昭和58	1983	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々9	1	2	4
16	北埋調報	17	昭和59	1984	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	3	33	32
17	北埋調報	17	昭和59	1984	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々5	1	5	0
18	北埋調報	24	昭和60	1985	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々2	9	53	4
19	北埋調報	24	昭和60	1985	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	5	57	0
20	北埋調報	24	昭和60	1985	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	1	7	5
21	北埋調報	35	昭和61	1986	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々3	2	13	4
22	北埋調報	36	昭和61	1986	ママチ遺跡	千歳市	ママチ	8	84	75
23	北埋調報	44	昭和62	1987	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	2	42	27
24	北埋調報	62	平成1	1989	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々3	2	39	7
25	北埋調報	62	平成1	1989	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	1	42	72
26	北埋調報	69	平成2	1990	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々3	14	134	34
27	北埋調報	69	平成2	1990	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8低湿部	0	0	0
28	北埋調報	77	平成3	1991	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々3	4	10	31
29	北埋調報	77	平成3	1991	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々7	3	14	12
30	北埋調報	77	平成3	1991	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	3	37	16
31	北埋調報	77	平成3	1991	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8低湿部	1	0	2
32	北埋調報	83	平成4	1992	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々7	3	11	7
33	北埋調報	83	平成4	1992	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	2	59	72
34	北埋調報	83	平成4	1992	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8低湿部	1	0	1
35	北埋調報	86	平成5	1993	ユカンボシC2遺跡	千歳市	ユカンボシC2	4	24	14
36	北埋調報	89	平成5	1993	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	1	0	84
37	北埋調報	90	平成5	1993	オサツトー1・キウス7遺跡	千歳市	オサツトー1	1	0	0
38	北埋調報	90	平成5	1993	オサツトー1・キウス7遺跡	千歳市	キウス7	4	14	13
39	北埋調報	92	平成6	1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	キウス5	9	33	12
40	北埋調報	92	平成6	1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	キウス7	1	5	7
41	北埋調報	92	平成6	1994	キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡	千歳市	ケネフチ8	1	5	0
42	北埋調報	96	平成6	1994	オサツ2・14遺跡	千歳市	オサツ2	4	20	117
43	北埋調報	96	平成6	1994	オサツ2・14遺跡	千歳市	オサツ14	7	31	16
44	北埋調報	100	平成7	1995	ユカンボシC9遺跡	千歳市	ユカンボシC9	3	25	33
45	北埋調報	102	平成7	1995	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8	0	0	14
46	北埋調報	102	平成7	1995	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8低湿部	2	168	10
47	北埋調報	103	平成7	1995	オサツ2遺跡(2)	千歳市	オサツ2	5	0	30
48	北埋調報	104	平成7	1995	キウス5遺跡(2)	千歳市	キウス5	9	89	18
49	北埋調報	105	平成7	1995	キウス7遺跡(3)	千歳市	キウス7	15	97	110
50	北埋調報	113	平成8	1996	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々4	12	343	229
51	北埋調報	114	平成8	1996	美沢川流域の遺跡群	千歳市	美々8低湿部	1	0	0
52	北埋調報	115	平成8	1996	キウス5遺跡(3)	千歳市	キウス5	17	113	254
53	北埋調報	116	平成8	1996	キウス5遺跡(4)B・C地区	千歳市	キウス5	9	24	17
54	北埋調報	117	平成8	1996	キウス7遺跡(4)	千歳市	キウス7	8	29	0
55	北埋調報	119	平成8	1996	キウス4遺跡	千歳市	キウス4	4	37	1
56	北埋調報	124	平成9	1997	キウス4遺跡(2)	千歳市	キウス4	24	377	121
57	北埋調報	125	平成9	1997	キウス5遺跡(5)A2地区	千歳市	キウス5	11	151	159
58	北埋調報	126	平成9	1997	キウス5遺跡(6)B・C地区	千歳市	キウス5	4	46	1
59	北埋調報	127	平成9	1997	キウス7遺跡(5)	千歳市	キウス7	6	16	5
60	北埋調報	128	平成9	1997	ユカンボシC15遺跡(1)	千歳市	ユカンボシC15	3	36	81

	シリーズ名称	発行年度	報告書名	所在地	遺跡名	掲載遺物コ ンテナ数	その他コ ンテナ数	復元土器 個体数		
61	北埋調報 133	平成10	1998	ユカンボシC15遺跡(2)	千歳市	ユカンボシC15	14	283	63	
62	北埋調報 134	平成10	1998	キウス4遺跡(3)A H K I地区	千歳市	キウス4	42	302	234	
63	北埋調報 135	平成10	1998	キウス4遺跡(4)A 2地区	千歳市	キウス4	5	39	14	
64	北埋調報 136	平成10	1998	キウス5(7)キウス7(6)遺跡	千歳市	キウス5	1	0	0	
65	北埋調報 136	平成10	1998	キウス5(7)キウス7(6)遺跡	千歳市	キウス7	1	1	0	
66	北埋調報 138	平成11	1999	柏台1遺跡	千歳市	柏台1	26	22	0	
67	北埋調報 144	平成11	1999	キウス4遺跡(5)	千歳市	キウス4	11	33	40	
68	北埋調報 146	平成11	1999	ユカンボシC15遺跡(3)	千歳市	ユカンボシC15	1	46	14	
69	北埋調報 147	平成11	1999	対雁2遺跡(1)	江別市	対雁2	2	42	14	
70	北埋調報 148	平成11	1999	キウス4遺跡(6)	千歳市	キウス4	7	16	2	
71	北埋調報 152	平成12	2000	キウス4遺跡(7)	千歳市	キウス4	18	109	45	
72	北埋調報 157	平成12	2000	キウス4遺跡(8)	千歳市	キウス4	49	519	380	
73	北埋調報 159	平成12	2000	ユカンボシC15遺跡(4)	千歳市	ユカンボシC15	1	1	3	
74	北埋調報 160	平成12	2000	対雁2遺跡(2)	江別市	対雁2	5	32	41	
75	北埋調報 173	平成13	2001	チブニー1・チブニー2遺跡	千歳市	チブニー1	4	14	33	
76	北埋調報 173	平成13	2001	チブニー1・チブニー2遺跡	千歳市	チブニー2	1	5	0	
77	北埋調報 174	平成13	2001	ケネフチ9遺跡	千歳市	ケネフチ9	2	10	1	
78	北埋調報 176	平成13	2001	ユカンボシC15遺跡(5)	千歳市	ユカンボシC15	0	0	0	
79	北埋調報 177	平成13	2001	対雁2遺跡(3)	江別市	対雁2	1	6	69	
80	北埋調報 178	平成14	2002	西島松5遺跡	恵庭市	西島松5	68	218	97	
81	北埋調報 180	平成14	2002	キウス4遺跡(9)	千歳市	キウス4	90	1623	696	
82	北埋調報 187	平成14	2002	キウス4遺跡(10)	千歳市	キウス4	0	0	0	
83	北埋調報 188	平成14	2002	オルイカ1遺跡	千歳市	オルイカ1	2	32	2	
84	北埋調報 189	平成14	2002	オルイカ2遺跡	千歳市	オルイカ2	5	17	4	
85	北埋調報 192	平成14	2002	ユカンボシC15遺跡(6)	千歳市	ユカンボシC15	0	59	0	
86	北埋調報 193	平成14	2002	対雁2遺跡(4)	江別市	対雁2	41	81	36	
87	北埋調報 194	平成15	2003	西島松5遺跡(2)	恵庭市	西島松5	7	21	19	
88	北埋調報 204	平成15	2003	対雁2遺跡(5)	江別市	対雁2	3	5	11	
89	北埋調報 206	平成15	2003	オルイカ1遺跡(2)	千歳市	オルイカ1	1	2	2	
90	北埋調報 207	平成15	2003	チブニー2遺跡(2)	千歳市	チブニー2	2	12	12	
91	北埋調報 209	平成16	2004	西島松5遺跡(3)	恵庭市	西島松5	55	455	467	
92	北埋調報 215	平成16	2004	対雁2遺跡(6)	江別市	対雁2	0	1	0	
93	北埋調報 221	平成17	2005	オルイカ2遺跡(2)	千歳市	オルイカ2	23	34	10	
94	北埋調報 224	平成18	2006	西島松5遺跡(4)	恵庭市	西島松5	10	27	22	
95	北埋調報 225	平成17	2005	チブニー2遺跡(3)	千歳市	チブニー2	31	7	27	
96	北埋調報 226	平成17	2005	対雁2遺跡(7)	江別市	対雁2	16	38	41	
97	北埋調報 231	平成18	2006	対雁2遺跡(8)	江別市	対雁2	33	49	429	
98	北埋調報 238	平成18	2006	祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡	千歳市	梅川2	3	5	6	
99	北埋調報 238	平成18	2006	祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡	千歳市	祝梅川上田	5	9	4	
100	北埋調報 240	平成18	2006	対雁2遺跡(9)	江別市	対雁2	13	14	22	
101	北埋調報 248	平成20	2008	西島松3・5遺跡(5)	恵庭市	西島松5	33	486	140	
102	北埋調報 251	平成19	2007	キウス5遺跡(8)	千歳市	キウス5	3	17	10	
103	北埋調報 252	平成19	2007	キウス9遺跡	千歳市	キウス9	13	49	181	
104	北埋調報 253	平成20	2008	梅川4遺跡(1)	千歳市	梅川4	8	20	51	
105	北埋調報 255	平成19	2007	対雁2遺跡(10)	江別市	対雁2	1	2	4	
106	北埋調報 260	平成21	2009	西島松5遺跡(6)	恵庭市	西島松5	39	53	11	
107	北埋調報 265	平成21	2009	西島松2遺跡	恵庭市	西島松2	93	437	168	
108	北埋調報 267	平成21	2009	オルイカ2遺跡(3)	千歳市	オルイカ2	3	6	53	
109	北埋調報 268	平成21	2009	アンカリトロー7・9遺跡	千歳市	アンカリトロー7	3	10	3	
110	北埋調報 268	平成21	2009	アンカリトロー7・9遺跡	千歳市	アンカリトロー9	8	1	0	
111	北埋調報 269	平成21	2009	梅川4遺跡(2)	千歳市	梅川4	8	57	20	
(道教委・道埋文センター発掘調査分)						合	計	1103	8932	5729
1	保第 2	平成7	1995	ボンオサツ・ケネフチ5	千歳市	ボンオサツ	2	1	18	
2	保第 2	平成7	1995	ボンオサツ・ケネフチ5	千歳市	ケネフチ5	5	42	0	
3	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ15	1	14	1	
4	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ16	4	44	14	
5	保第 3	平成7	1995	オサツ15・16・18	千歳市	オサツ18	1	1	0	
6	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	ボンオサツ	1	1	0	
7	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	オサツ18	1	1	8	
8	保第 5	平成8	1996	ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2)	千歳市	ケネフチ5	5	14	2	
9	保第 6	平成8	1996	オサツ15(2)	千歳市	オサツ15	5	47	7	
10	保第 7	平成8	1996	オサツ16(2)	千歳市	オサツ16	13	28	8	
11	保第 8	平成9	1997	オサツ15(3)	千歳市	オサツ15	6	26	4	
12	保第 9	平成9	1997	オサツ16(3)	千歳市	オサツ16	2	14	0	
13	保第 10	平成9	1997	ケネフチ5(3)	千歳市	ケネフチ5	11	68	23	
(保護協会発掘調査分)						合	計	57	301	85
総 合 計								1160	9233	5814

6 普及・啓発事業の概要

(1) 展示活動

a 常設展示「掘り出された北の歴史」

展示にあたっては、国（文化庁）・函館市・北斗市・今金町・木古内町・余市町・長沼町・遠軽町・夕張市・七飯町の各教育委員会、市立函館博物館、知内町郷土資料館、芦別市星のふる里百年記念館に、展示品借用についての協力を得ている。

また、企画展示との関係から、展示室・ホールとの併用で展示を行っている。

【千歳市ママチ遺跡出土土面展示】

国指定重要文化財の「土面」（国保有、昭和63年6月6日指定）を常設展示している。「土面」は千歳市ママチ遺跡から昭和61年に出土、縄文時代晩期終末のもので、土面としては最も北方から出土したものである。

【遺跡調査と保護活用】

北海道内の遺跡分布、遺跡の調査・整理作業の実際、遺物の分析・保存処理の方法などについての解説。また国指定重要文化財の複製品も展示している。

【石の道具】

石は人類が最初に利用した素材の一つである。旧石器時代の石の道具は、破片の接合から高度な技術で製作されたことが明らかとなった。遠軽町（旧白滝村）白滝遺跡群、千歳市柏台1遺跡、今金町ピリカ遺跡（国指定史跡）、木古内町新道4遺跡出土の石器、接合資料などを展示した。また、縄文時代には用途に応じて、それに合う石材を利用し、様々な形の石器が作られた。その使用方法を図と復元模型でわかりやすく示している。

【木の道具】

木の道具は通常の遺跡では腐って残らないが、実際の生活の中では各所に使われていた。そのため低湿性遺跡など腐しにくい状況で出土した木の道具は、昔の人々の生活の様子を大変良く伝えてくれる。千歳市美々8遺跡低湿部のアイヌ文化期の遺物のほか、ユカンボシC15遺跡の丸木舟、キウス4遺跡の縄文時代後期の脚付き容器などを展示している。展示品は保存処理後の遺物である。

千歳市美々8遺跡低湿部出土品は、平成17年6月9日国指定重要文化財に指定され、その一部を常設展示している。また、美々8遺跡の「美々村（コタン）」復元模型を置いている。

【金属の道具】

金属の道具は人類が新しく手にしたものの一つである。刀・刀子・鍋等は交易品として北海道に入ってきたものが多く、それら道具類を手に入れるための交易が、北海道社会を変容させる一つの要因となった。

金属製品も腐食しやすい材質であり、展示品は保存処理を行っている。

【土の道具：土と火の造形】

粘土を成形し火で焼き上げた土器は、人類が最初に手に入れた火にかけられる容器である。土器の使用により、食材の利用範囲が大きく拡大し、縄文時代の安定がもたらされたと考えられている。土器には自由な造形ができる粘土を使用しているため、時代とともに文様や形が様々に変化しており、時には機能を超越した、変わった形態や美しさをももたすものがある。

【こころの道具】

「装いとこころ」：身を飾った装身具には、ヒスイ製、コハク製などの各種玉、珧状耳飾、土製の耳栓などがあり、当時の人々のおしゃれごころや精神生活の一端をみせてくれる。

「墓と副葬品」：墓の副葬品は、当時の生活用具をセットでみせてくれるとともに、当時の人々の「死」に対する恐れ、悲しみなど、「こころ」の一面をのぞかせてくれる。

「動物とひと」：動物意匠の土器、動物形石製品などは、人と動物とのふれあいを感じさせる。表現される動物たちに、何を感じ、何を求めていたのか、当時の人々の自然と対峙する生活の一端を考えさせられる。

【キウスの縄文ムラ】

千歳市キウス4遺跡の発掘調査から、周堤墓、盛土遺構、住居跡などをジオラマに復元、合成樹脂で剥ぎ取った盛土遺構土層断面を展示している。盛土遺構の出土遺物には、祭祀に使われたと考えられる赤彩の土器、特殊な形の土器・土製品、

玉類、土偶などがある。

[ビデオコーナー]

遺跡についてわかりやすく解説した『ビビちゃんとフクロウ博士の遺跡ってなーに』『ビビちゃんとフクロウ博士の発掘体験』『ビビちゃんとフクロウ博士の縄文生活体験』などを常時上映している。

[体験コーナー]

火おこし体験コーナー：きりもみ式、ひもぎり式、弓ぎり式、まいぎり式による火おこし体験。
 石器コーナー：石器を使ったドングリの皮むき、石器の接合、石器の紙切り体験。石器の材料となる石材見本展示。
 土器コーナー：土器拓本体験、煮炊きに使った復元土器の展示。

[常設展示点数一覧]

展 示 場 所 ・ コ ー ナ ー		遺物 点数	パネル・レプリカなど	合計 点数	
ホール・展示回廊		2	10	12	
常設展示室	受付・導入部分	3	11	14	
	「遺跡調査と保護活用」部分	遺跡調査	5	88	93
		遺物の保存と分析	1	110	111
	「石の道具」部分	旧石器時代の石器	87	10	97
		縄文時代の石器	181	15	196
	「木の道具」部分	縄文時代の木製品	6	15	21
		アイヌ文化期の木製品	44	38	82
	「金属の道具」部分	14	3	17	
	「骨の道具」部分	3	2	5	
	「土の道具」部分	140	28	168	
	「こころの道具」部分	装いとこころ	821	5	826
		墓と副葬品	105	3	108
		動物とひと	12	10	22
「キウスの縄文ムラ」部分	28	4	32		
「新しい時代へ」	17	2	19		
展示ホール	収蔵遺物の展示「美々4 こころの道具」	391	2	393	
屋外	エントランスひろば	0	1	1	
	中庭	0	1820	1820	
合 計		1860	2177	4037	

b 企画展示

「わかる考古学5

- 縄文生活体験ひろば -」展

会 期：平成22年7月10日(土)～10月11日(月)
 展示のねらい：勾玉づくりや土器づくりなどの体験学習や、拓本、写生による遺物の観察を通して、縄文時代の生活を学ぶことで埋蔵文化財への関心を高めることを目的とする。

[展示場所]：展示ホール、常設展示室、体験コーナー

[展示内容]

縄文時代の生活を具体的に紹介し、勾玉づくりや土器づくり、石器使用などの体験を通して埋蔵文化財をより身近なものとして体感できる場とする。

る。

【縄文工房】(ホール)

実物を観察し、「カタログ」や「レシピ(つくりかた手順)」を参考にして自分で素材や道具を選び、縄文アクセサリーや土器・土製品をつくる体験ができる。主に以下の内容で製作体験ができる

縄文ネックレスに挑戦：いろいろな種類の玉をつくり、組み合わせて腕輪やネックレスにする。

勾玉をつくる：滑石を磨いてミニチュア勾玉をつくる。

丸玉・管玉・白玉・小玉をつくる：滑石を磨いていろいろな種類の玉をつくる。

縄文ペンダントをつくる：滑石を磨いてペンダント(垂飾)をつくる。

土製の玉をつくる：木質粘土を使って、土製玉をつくる。

耳飾りに挑戦：粘土や滑石を用いて耳飾り、スタンプ形の飾りをつくる。

土製耳飾り・耳栓をつくる：木質粘土を使って、土製の耳飾りをつくる。

塊状耳飾をつくる：滑石を磨いて塊状耳飾をつくる。

土面・土偶をつくる：土面や土偶を展示室の実物を手本に粘土でつくる体験。

ミニチュア土器をつくる：ミニチュア土器を粘土でつくる体験

布を編む：復元された縄文時代の方法で布を編む体験。

【体感教室】(展示廊下から体験コーナー、常設展示室)

土器や石器等、縄文時代の各時期の遺物を揃え、触れて観察する場をつくる。また、レプリカを使って道具の使用法を体験する。

じょうもんタッチ：土器や石器に直接触れて観察する。

縄文模様図鑑をつくる：本物の縄文土器から模様を写しとる「拓本」に挑戦する。

火おこし：きりもみ式、ひもぎり式、弓ぎり式、まいぎり式による火おこし体験。

砂絵で土器を描こう：砂絵でいろいろな種類の土器を描きます。

石器を使う：ナイフで紙や皮を切り、たたき石で木の実をすりつぶすなどの体験

[展示企画] 藤井 浩



わかる考古学 - 縄文生活体験ひろば - 展

「北海道遺跡百選3

千歳市キウス4遺跡と国指定史跡キウス周堤墓群 縄文大工事・盛土と周堤墓」展

会 期： 平成22年10月30日(土)

～平成23年3月6日(日)

展示のねらい：北海道の代表的な遺跡を取り上げ、わかりやすく紹介することで、遺跡や埋蔵文化財への関心を高めることを目的とする。

「北海道遺跡百選」は、「遺跡との出会い」をテーマに北海道の代表的な遺跡を紹介するもので、今回は道内全域の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)を対象にしたアンケートで選出された遺跡から、千歳市のキウス4遺跡と国指定史跡キウス周堤墓群を取り上げた。

これまでの発掘調査の成果を紹介するとともに、北海道の縄文文化を特徴づけた周堤墓及び盛土出土の遺物群を主に展示する。

キウス4遺跡の調査は北海道横断自動車道の建設に伴い、平成7～10年度に行われた。その間、縄文時代の周堤墓、盛土遺構、住居跡や土壌などが確認され、縄文時代後期の大規模な遺跡の様相が明らかになった。これらの遺構に伴う遺物の数も膨大で土器や石器を含めて約600万点を数える。

今回の展示では、発掘調査の様子、周堤墓や盛土遺構から出土した膨大な遺物群を中心に展示し、縄文時代の人びとが成した作業のスケールの大きさを体感していただくとともに、赤彩土器や土偶、スタンプ形土製品やヒスイの玉類などの装飾品がもつ魅力にも触れていただきたい。



縄文大工事・盛土と周堤墓展

展示場所：展示ホール、常設展示室、体験コーナー

[展示内容]

i キウス4遺跡と国指定史跡キウス周堤墓群

発掘調査の歩みと遺構、遺物出土の様子を写真パネルで紹介する。

ii 盛土遺構

北側、南側各盛土遺構から出土した遺物を展示する。

iii 周堤墓

調査された周堤墓から出土した遺物を展示する。

iv キウス4に触れる

キウス4遺跡出土土器の拓本コーナーを用意した。

v キウス4をつくる

キウス4遺跡出土「スタンプ形土製品」の作成体験ができる。

(常設展示室体験コーナーにて実施)

[展示企画] 藤井 浩

**財団法人北海道埋蔵文化財センター平成21年度
発掘調査成果展**

会 期：平成22年3月27日(土)～6月6日(日)

展示のねらい：財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成21年度に実施した発掘調査成果について、出土した遺物や写真、パネルなどにより紹介した。

展示場所：常設展示室

[展示内容]

【遺物とパネルで紹介】

千歳市キウス5遺跡：擦文土器、縄文時代中期玉。

福島町館崎遺跡：縄文時代前期円筒土器下層式、縄文時代中期円筒土器上層式、玦状耳飾、石鏃・石槍などの石器。

木古内町蛇内2遺跡：縄文前期～後期の土器、垂飾、三角柱形石製品、三角形石製品。

木古内町大平遺跡：縄文時代前期円筒土器下層式、石冠、軽石製品。

木古内町大平4遺跡：頁岩剥片接合資料

富良野市学田三区2・3遺跡：縄文土器(中期、後期) 石器類



発掘調査成果展



発掘調査成果展 展示遺跡の位置

下川町サンル4線、北町J遺跡：石器接合資料
北見市北上4遺跡：旧石器時代石器。
鶴居村下幌呂1遺跡：四脚付浅鉢土器、小型注口土器、石器類。
釧路町天寧1遺跡：ヒラメ、シカ、イヌなど魚骨層出土の動物遺存体、縄文時代晩期～続縄文時代土器。
根室市トーサムポロ湖竪穴群：縄文時代前期押型文土器、石鏃・石槍等の石器類。

【パネル・写真で紹介】

苫小牧市美沢16遺跡、北斗市館野6遺跡、北斗市矢不來11遺跡

[展示企画] 財団法人北海道埋蔵文化財センター調査部

道県の動向の紹介、イベントなどの案内を行う。

[展示企画] 倉橋直孝



世界遺産をめざす北の縄文展

世界遺産をめざす北の縄文展

会 期：通年

(平成22年4月1日～平成25年3月31日)

展示のねらい：北海道は北東北3県と連携して「北の縄文文化回廊づくり」や遺跡群の世界文化遺産登録へ向けての取り組みを行っている。北海道立埋蔵文化財センターはこれに連携して、世界遺産登録をめざす北海道・北東北3県の縄文遺跡群についての展示を行い、広く道民や道外からの観光客に情報発信する。これにより、北海道の歴史的風土の理解を図るとともに、世界文化遺産登録推進の取り組みへの理解を深めていただく。

展示場所：アプローチ南側

[展示内容]

【常 設】

・「開催にあたって」「津軽海峡と縄文文化」「北日本文化圏」「世界遺産登録をめざして」など。

【展示遺跡】

北海道：北黄金貝塚、入江・高砂貝塚、鷲ノ木遺跡、大船遺跡

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、是川石器時代遺跡、長七谷地貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、二ツ森貝塚、大平山元 遺跡

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡など

* 展示遺跡・展示物品は随時更新する。また、各

(2) 資料の特別利用等

a 特別利用一覧

番号	利用者	使用目的	利用資料名	備考
1	関宿城博物館客員研究員 松井 哲洋	資料調査	千歳市ユカンボシC15遺跡出土板綴舟舷側板片2点、千歳市美々8遺跡出土板綴舟舷側板片2点	重要文化財指定物件を含むので注意を要する
2	明治大学文学部 飯田 茂雄・大塚 宣明	資料調査	千歳市アンカリト-7・9遺跡出土石器	
3	福井県立博物館 水村 信行	資料調査	千歳市柏台1遺跡出土顔料関連遺物	
4	東北大学 深澤 百合子	資料調査	千歳市ユカンボシC15遺跡出土鉄製品、千歳市オサツ2遺跡出土鉄製品、恵庭市西島松5遺跡出土鉄製品	
5	財元興寺文化財研究所 伊藤 健司	資料調査	千歳市美々8遺跡出土木製品・繊維製品等	重要文化財指定物件を含むので注意を要する
6	東京大学大学院 人文社会系研究科修士課程 役重 みゆき	資料調査	千歳市柏台1遺跡出土遺物(細石刃石器群)	
7	明治大学文化財研究施設 金成 太郎	資料調査	赤井川産黒曜石製石器	
8	明治大学 杉原 重夫	資料調査	赤井川産黒曜石製石器	
9	北海道大学 高倉 純	資料調査	白滝遺跡群出土石器	
10	八戸市教育委員会 是川縄文館準備室 小久保 拓也	資料調査	ママチ遺跡出土土面	
11	小川 忠博	資料調査	長沼町12区B遺跡出土異形環状土器、千歳市梅川4遺跡出土岩偶	
12	北海道大学 高倉 純	資料調査	白滝遺跡群出土石器	
13	酪農学園大学生命環境学科 生物多様性保全研究室 飯田 康貴	資料調査	千歳市美々4遺跡出土資料	
14	北海道大学 荒山 千恵	資料調査	千歳市美々8遺跡出土木製品、千歳市ユカンボシC15遺跡出土木製品	
15	札幌大学名誉教授 原子 修	資料調査	千歳市美々4遺跡出土土偶、千歳市ママチ遺跡出土土製仮面	
16	北海道大学 高倉 純	資料調査	白滝遺跡群出土石器	
17	明治大学博物館 島田 和高	資料調査	千歳市柏台1遺跡出土資料	
18	北海道教育委員会文化・スポーツ課 中田 裕香	資料調査	千歳市ユカンボシC15遺跡出土土器	
19	明治大学大学院生 大塚 宣明	資料調査	千歳市柏台1遺跡出土資料	
20	首都大学東京 出穂 雅実	資料調査	千歳市柏台1遺跡出土資料、千歳市アンカリト-7遺跡出土資料	
21	厚真町教育委員会 奈良 智法	資料調査	千歳市美々8遺跡出土青磁碗	重要文化財指定物件・注意を要する

b 模写品等使用承認一覧

番号	申請者	使用目的	利用資料名・点数	備考
1	新ひだか町静内郷土館 館長 阿部 晃二	新ひだか町静内郷土館企画展「発掘されたアイヌ文化」で使用のため	千歳市ユカンボシC15遺跡調査風景写真等 写真デジタルデータ 計26点	
2	江別市教育委員会 教育長 月田 健二	江別市郷土資料館開館20周年記念事業特別展「甦る縄文文化～かえてきた土偶たち」広報用ポスターに使用	千歳市ママチ遺跡出土土面写真 写真デジタルデータ 計1点	
3	株式会社メディアアトリエ 代表 板野 哲也	NHKハイビジョン特集「日本列島人の起源に迫る」(仮題)に使用	千歳市柏台1遺跡出土細石刃 ビデオ撮影 計1点	
4	株式会社メディアアトリエ 代表 板野 哲也	NHKハイビジョン特集「日本列島人の起源に迫る」(仮題)に使用	千歳市柏台1遺跡遠景ほか 写真デジタルデータ 計3点	
5	大阪府弥生文化博物館 館長 金関 恕	平成22年度夏季特別展『MASK 仮面の考古学』展示解説図録に使用	千歳市ママチ遺跡出土土面写真ほか 写真複写版 計2点	
6	株式会社メディアアトリエ 代表 板野 哲也	NHKハイビジョン特集「日本列島人の起源に迫る」(仮題)に使用	千歳市柏台1遺跡出土細石刃核写真 写真デジタルデータ 計3点	
7	江別市教育委員会 教育長 月田 健二	江別市郷土資料館開館20周年記念事業特別展「甦る縄文文化～かえてきた土偶たち」展示パネルに使用	千歳市美々4遺跡出土土偶出土状況写真、千歳市美々4遺跡出土動物型土製品出土状況写真、千歳市ママチ遺跡出土土面写真 写真デジタルデータ 計3点	
8	物流博物館 館長 濱中 昭一郎	全日本トラック協会広報誌『広報とらっく』2010年6月1日号に使用	遠軽町白滝遺跡群航空写真 写真デジタルデータ 1点	
9	伊達市噴火湾文化研究所 所長 大島 直行	朝日新聞「北の文化」欄に掲載	「史跡キウス周提墓群」 写真デジタルデータ 1点	
10	株式会社クレオ・ムイナス 代表取締役 今村 樹憲	室蘭開発建設部出前講座資料『わたしたちの川・鶴川』『わたしたちの川・沙流川』に使用	ポロモイチャシ跡写真、絵唐津大皿と内耳鉄鍋写真、漁獲具写真 写真デジタルデータ 計3点	
11	高木 章子	県立博物館10周年記念友の会主催マイコレクション展に使用	千歳市ママチ遺跡出土土面写真、美々4遺跡出土土偶写真、新道4遺跡出土土偶写真 写真デジタルデータ 計3点	
12	江別市教育委員会 教育長 月田 健二	江別市郷土資料館開館20周年記念事業特別展「甦る縄文文化～かえてきた土偶たち」リーフレットに使用	千歳市美々4遺跡出土土偶写真、江別市対雁遺跡出土熊形土製品写真、函館市著保内野遺跡出土土偶(複製品)写真 写真撮影 計3点	

番号	申請者	使用目的	利用資料名・点数	備考
13	標津町ボー川史跡自然公園 園長 楢田 光明	「ボー川史跡自然公園とヒグマ」展示パネルに使用	根室市穂香壑穴群出土クマ意匠縄文土器写真 芦別市滝里安井遺跡クマ石製品写真 写真デジタルデータ 計2点	
14	北海道開拓記念館 館長 堀 達也	第66回特別展「どんぐりコロコロ・どんぐりからつながる多くの命」に使用	キウス4遺跡S P-4136ドンぐリ出土状況写真 写真2点 写真デジタルデータ 計2点	
15	(株)小学館出版局歴史・美術 チーフプロデューサー 蔵 敏則	『Jr 日本の歴史』第1巻「国のなりたち」に使用	遠軽町上白滝2遺跡出土黒曜石接合資料写真ほか 写真デジタルデータ 計2点	
16	御所野縄文博物館 館長 高田 和徳	平成22年度企画展『描かれた縄文人 羽付き縄文人とその仲間たち』図録などに使用	木古内町新道4遺跡出土足形付土製品写真ほか 写真デジタルデータ 計4点	
17	株式会社 パルスクリエイティブ ハウス 代表取締役 野中 嘉員	『考古学絵事典(仮)』P H P 研究所発行予定に使用	今金町美利河1遺跡出土頁岩接合資料写真 写真転載 計1点	
18	(株)新泉社 代表取締役 石垣 雅設	大谷敏三『キウス周堤墓群』シリーズ遺跡を学ぶ 74に使用のため	千歳市美々々4遺跡出土動物形土製品写真ほか 写真デジタルデータ 計4点	
19	遠軽町教育委員会 教育長 河原 英男	白滝遺跡群出土品管理のため	遠軽町白滝遺跡群出土ナイフ形石器写真ほか 写真複写 計61点	
20	(株)新泉社 代表取締役 石垣 雅設	大谷敏三『キウス周堤墓群』シリーズ遺跡を学ぶ 74に使用	小樽市忍路土場遺跡出土黒漆塗櫛写真ほか 写真デジタルデータ 計5点	
21	(株)新泉社 代表取締役 石垣 雅設	大谷敏三『キウス周堤墓群』シリーズ遺跡を学ぶ 74に使用	『美々・美沢』所収写真 写真デジタルデータ 計12点	
22	遠軽町教育委員会 教育長 河原 英男	遠軽町埋蔵文化財センター常設展示に使用のため	遠軽町白滝遺跡群報告書口絵写真ほか 写真デジタルデータ 計9点	
23	遠軽町教育委員会 教育長 河原 英男	遠軽町埋蔵文化財センター常設展示に使用のため	千歳市柏台1遺跡報告書口絵写真ほか 写真デジタルデータ 計3点	
24	高橋 稔	『根室市勢要覧』に使用	根室市穂香壑穴群出土クマ意匠縄文土器写真ほか 写真デジタルデータ 計11点	
25	函館市教育委員会 教育長 多賀谷 智	縄文文化交流センター展示ケース内引き出し解説パネルに使用	千歳市キウス4遺跡出土垂飾・玉類写真ほか 写真デジタルデータ 計2点	
26	平取町教育委員会 教育長 斉藤 憲章	『沙流川歴史館年報』第12号に使用	千歳市祝梅川上田遺跡チセ完掘写真ほか 写真デジタルデータ 計60点	
27	日本旧石器学会広報委員会 広報委員長 堤 隆	日本旧石器学会Webサイトに使用	遠軽町白滝遺跡群写真ほか 写真デジタルデータ 計2点	
28	遠軽町長 佐々木 修一	経済産業省ホームページ日本ジオパーク紹介に使用	遠軽町白滝遺跡群写真ほか 写真デジタルデータ 計3点	
29	西脇 対名夫	北海道考古学会研究大会における発表に使用	北斗市矢不來7遺跡石器採集地点風景写真など 写真デジタルデータ 計7点	
30	北海道開拓記念館 館長 堀 達也	「北の土偶 縄文の祈りと心」展の図録、ポスター、広報に使用	千歳市美々々4遺跡出土土偶写真など 写真デジタルデータ 計6点	事業延期
31	八戸市教育委員会 教育長 松山 隆豊	是川縄文館常設展示に使用のため	忍路土場遺跡出土カゴ写真ほか 写真デジタルデータ 計30点	
32	千歳市埋蔵文化財センター 文化財調査係長 高橋 理	3・4年社会科副読本『わたしたちの千歳』(13訂版)に使用	千歳市キウス周堤墓群1号周堤墓写真 写真デジタルデータ 1点	
33	青森市総務部総務課 市史編さん室長 工藤 朝彦	『新青森市史』通史第1巻に掲載のため	北斗市茂別遺跡動物意匠土器集合写真 写真デジタルデータ 1点	

c 資料貸出承認一覧

番号	申請者	使用目的	貸出資料名・点数	備考
1	新ひだか町静内郷土館 館長 阿部 晃二	シャクシャイン没後340年記念特別展「発掘されたアイヌ文化」で展示のため	千歳市ユカンボシC15遺跡出土資料79点、千歳市オサツ2遺跡出土資料3点、千歳市美々々8遺跡出土資料(複製)1点	
2	森町教育委員会 教育長 磯邊 吉隆	企画展「世界遺産をめざして」において、展示するため	写真・解説パネル9枚	
3	江別市教育委員会 教育長 月田 健二	江別市郷土資料館開館20周年記念事業特別展「甦る縄文文化 -かえてきた土偶たち」にて展示のため	函館市著保内遺跡出土中空土器複製1点、千歳市美々々4遺跡出土土偶1点、江別市対雁2遺跡出土クマ形土製品1点、計3点	
4	北海道開拓記念館 館長 堀 達也	北海道開拓記念館第66回特別展「どんぐりコロコロ・どんぐりからつながる多くの命 -」にて展示のため	キウス4遺跡S P4136剥ぎ取り標本1点、キウス4遺跡S P4133柱穴出土のどんぐり1点、計2点	
5	北海道渡島総合振興局 局長 寺山 朗	「北の縄文パネル展」にて展示のため	解説パネル「東アジアの先史文化」ほか17点(B1サイズ横)	
6	富良野市生涯学習センター 所長 杉浦 重信	富良野市博物館特別展「森の神シマフクロウ」にて展示のため	千歳市美々々4遺跡出土フクロウ意匠のついた土器1点	
7	福井県立歴史博物館 館長 仁科 章	平成22年度特別展「赤の歴史」において展示のため	千歳市柏台1遺跡出土顔料関係遺物5点、同 台石5点、同 叩石1点、計11点	
8	福島町教育委員会 教育長 丁子谷 雅男	館崎遺跡発掘調査報告講演会会場での特別展示	写真パネル(北の縄文展)17枚(渡島総合振興局で開催の「北の縄文パネル展」で使用分)	
9	明治大学博物館 館長 杉原 重夫	蛍光X線分析装置による黒曜石製石器の原産地解明	千歳市美々々2遺跡出土黒曜石製石器35件(549点)入、千歳市美々々4遺跡出土黒曜石製石器27件(354点)入、計62件(903点)	
10	北の縄文文化を発信する会 代表 石森 秀三	北の縄文文化を発信する会講演会にて展示のため	美々々4遺跡出土土器ほか土器5点、出前講座セット土器一式、出前講座セット土器一式	
11	明治大学博物館 館長 杉原 重夫	蛍光X線分析装置による黒曜石製石器の原産地解明	千歳市キウス4遺跡出土黒曜石製石器877点、千歳市キウス9遺跡出土黒曜石製石器211点、千歳市チブニー1遺跡出土黒曜石製石器36点、千歳市チブニー2遺跡出土黒曜石製石器179点、計1303点	
12	北海道開拓記念館 館長 堀 達也	北海道開拓記念館「北の土偶 縄文の祈りと心」の展示資料としての利用	千歳市美々々4遺跡出土土偶1点、木古内町新道4遺跡出土土偶1点、重要文化財千歳市ママチ遺跡出土土面1点、計3点	事業延期

(3) 考古学教室

a 考古学入門講座 考古学情報探索(中級編)

[日 時] 平成22年5月15日(土)

13:30~15:30

[講 師] 財団法人北海道埋蔵文化財センター
普及活用課主査 倉橋直孝

[参加者] 30名(うち道民カレッジ講座参加者13名)

[内 容] 入館者の方から受ける質問事項に 遺跡があるのをどのように知るか、 考古学の用語について調べたい、 遺跡の報告書を探したい、がある。今回は文献やインターネットを利用して、これらの調べ方について解説した。昨年度の続編である。中学生~成人を対象とした。

b ガラス玉づくり

[日 時] 平成22年6月19日(土)

13:30~15:30

[講 師] 装飾タイル作家 宮崎幸子

[参加者] 15名(うち道民カレッジ講座参加者5名)

[内 容] 北海道の遺跡からは様々なガラス玉が出土する。ガラス玉がどのように作られていったのか、色の取り合わせがどのようになされるのかなどを解明するためには、製作技法を理解することが重要である。ガラス玉の歴史を学ぶとともに、ガスバーナーと市販のガラス棒を使った方法で、実際に丸い玉を作って、整形の難しさ、大きな玉を作ることの難しさなどを体験した。成人を対象とした。

今年度のガラス玉作りは一般を対象にしたものと親子を対象にしたものに分けて、ほぼ同内容で行った。いずれの講座においても、展示室及びバックヤードツアーを行った。



ガラス玉づくり



竪穴住居模型づくり

c 竪穴住居模型づくり

[日 時] 平成22年8月21日(土)

13:30~15:30

[講 師] 財団法人北海道埋蔵文化財センター
普及活用課主査 藤井 浩

[参加者] 6名(うち道民カレッジ講座参加者2名)

[内 容] スライドを用いて竪穴住居の仕組みや変遷、調査の方法などを学び、その理解の補助手段として模型づくりを行った。今回は実験的に屋根葺きの作業を加えた。成人を対象とした。

d 石器づくり

[日 時] 平成22年11月27日(土)

13:30~15:30

[講 師] 財団法人北海道埋蔵文化財センター
第1調査部第4調査課主任 直江康雄

[参加者] 13名(うち道民カレッジ講座参加者4名)

[内 容] 石器がどのようにつくられ、どのように使われてきたのかを実物を通して紹介し、実際に黒曜石を素材にした石器づくりを行った。手持



石器づくり

ちナイフを例として石器づくりの基本原理や刃部の作り方などの石器づくりの概要を説明した後、ナイフを作る実習と、両面調整による刃部の作出の実習を行った。

e 拓本講座

[日 時] 平成23年 3月12日(土)

13:30~15:30

[講師] 財団法人北海道埋蔵文化財センター
普及活用課主査 藤井 浩

[参加者] 9名(うち道民カレッジ講座参加者4名)

[内容] 墨と画仙紙を使って土器の文様を写しとる「拓本」の講座。乾拓と湿拓の違いを体験した後、拓本実習を行った。土器の破片から全体像を想像できること、時期によって様々な形や模様があることを知っていただくために復元土器の時代並べのクイズを行った後、縄文時代早期から擦文時代まで各時期の土器片の拓本に挑戦した。完成した拓本はオリジナルアルバムに整理・保管できるようにした。



拓本講座

(4) こども考古学教室

a 親子ガラス玉づくり

[日 時] 平成22年 6月26日(土)

13:30~15:30

[講師] 装飾タイル作家 宮崎幸子

[参加者] 20名(7家族)

[内容] 昨年度までは一般向けのガラス玉づくりを2回行っていましたが、今年度はそのうちの1回を親子対象にして行った。内容は一般向けのガラス玉づくりとほぼ同内容である。展示室及びバック

クヤードツアーを行った。



親子ガラス玉づくり

b 夏休み親子考古学教室 第1回・第2回

[日 時] 第1回 平成22年 7月24日(土)

第2回 平成22年 7月31日(土)

いずれも13:30から2時間程度

[参加者] 第1回 39名(うち中学生以下20名)

第2回 46名(うち中学生以下25名)

[内容] 火おこし体験と勾玉づくりを中心に、小中学生の親子向けの考古学入門講座。展示収蔵庫見学・バックヤードツアー・展示室探検オリエンテーリング・勾玉づくり・火おこし体験などを行った。

[企画] 藤井 浩



夏休み親子考古学教室

c 写生会「ビビちゃんと描く縄文の世界」

[期 日] 平成22年 7月24日(土)~ 8月29日(日)

[目的] 埋蔵文化財センターにある遺物や展示物などを写生することで、埋蔵文化財と深く触れあう機会を提供し、埋蔵文化財保護への理解を深めてもらう。

[参加者] 20名(22作品)

[内容] 絵の道具(水彩絵の具・クレヨン・鉛筆など)を持参してもらい、当方で用意した画用紙に埋蔵文化財センターにある土器・石器等の遺物、展示物を題材に写生会を実施した。作品は当センターにて展示させていただいた。

[企画] 藤井 浩

d 冬休み縄文生活体験ひろば

[期 日] 平成23年1月4日(火)~2月13日(日)

[目的] 体験学習を中心とした考古学入門講座を通して、埋蔵文化財への関心を高める。

[内容] 勾玉づくりやアクセサリーづくりなど、主に縄文時代の道具づくりを通して、当時の生活を体感する。実際には「カタログ」「レシピ(つくりかた手順)」を参考に、自分で選んだ素材や道具を用いて道具をつくる。主に以下の製作体験を準備した。「勾玉・丸玉・管玉・白玉・小玉をつくる」、「耳飾りに挑戦」、「土面や土偶をつくる」、「ミニチュア縄文土器づくりに挑戦」、「縄文時代の布編みに挑戦」、「拓本体験」、「火おこしに挑戦しよう」、「小さな小さな発掘体験」。

[企画] 藤井 浩

e 冬休み親子写真撮影会

[期 日] 平成23年1月4日(土)~2月13日(日)

[目的] 親子で埋蔵文化財センターにある遺物や展示物などを写真に撮影することで、埋蔵文化財と深く触れあう機会を提供し、埋蔵文化財保護への理解を深めてもらうことを目的とした。作品は当センターにて展示させていただいた。

[参加者] 13名(20作品)

[企画] 藤井 浩

f 冬休み親子考古学教室 第1回・第2回

[期 日] 第1回 平成23年1月8日(土)

第2回 平成23年1月15日(土)

[参加者] 第1回 11名(うち中学生以下6名)

第2回 33名(うち中学生以下18名)

[内容] 火おこし体験と勾玉づくりを中心にした、小中学生の親子向けの考古学入門講座。展示

収蔵庫見学・バックヤードツアー・展示室探検オリエンテーリング・勾玉づくり・火おこし体験などを行った。

[企画] 藤井 浩



冬休み親子考古学教室

(5) 市町村出前講座

a 事業目的

完全学校週5日制に対応し、土曜日や日曜日の休日に、市町村教育委員会との連携の下で、子供たちにとってわかりやすく地域の歴史や文化を説明するとともに、それらを大切にすることを養い、体験学習を通じて豊かな人間性や多様な個性を育む。

これまで、道立センター内で行ってきた考古学教室を、全道の市町村に出向いて地元教育委員会と連携を図って実施することにより、市町村独自事業実施の契機となるよう努める。

b 事業内容

地域の遺跡を学ぶ 実物にふれてみよう

地元市町村出土の遺物や北海道立埋蔵文化財センター保管の土器・石器類に実際に触れてもらいながら、地元市町村の埋蔵文化財についての説明を行う。あわせて、埋蔵文化財紹介のビデオ『遺跡ってなーに』を鑑賞する。

体験学習 勾玉づくり

子供たちの歴史・文化に対する関心をより高めるために、縄文時代等にアクセサリーとして使用されていた「勾玉」を、滑石を材料に紙ヤスリなどで実際に製作する。また、時間の許す限り、石器(黒曜石破片)での紙切り、火おこしなどの体験学習を行う。



福島町での出前講座



上ノ国町での出前講座



根室市での出前講座



標津町での出前講座

c 実施市町村一覧

考古学教室出前講座（事業分）

	市 町 村	実 施 場 所	実 施 日	参加人数	担 当	備 考
1	福島町	福島町福祉センター	平成22年 8 月 6 日(金)	38名	倉橋	学童保育
2	上ノ国町	上ノ国町総合福祉センター (ジョイ・じょぐら)	平成22年 8 月 7 日(土)	20名	倉橋	児童・親子・一般
3	本別町	本別町中央公民館	平成22年 8 月 7 日(土)	14名	藤井	夏休みわくわく講座
4	知内町	知内町郷土資料館	平成22年 8 月 8 日(日)	18名	倉橋	知内町ミュージアム・バル 「楽しい考古学教室」
5	根室市	根室市立北斗小学校	平成22年11月19日(金)	73名	藤井	学校授業(社会科)
6	厚岸町	厚岸町立真龍小学校	平成22年11月20日(土)	9名	藤井	考古学教室「まがたまづくり」
7	標津町	標津町ポー川史跡自然公園旧小学校校舎	平成22年11月21日(日)	40名	藤井	考古学教室「まがたまづくり」

考古学教室出前講座（依頼分）

	市 町 村	実 施 場 所	実 施 日	参加人数	担 当	備 考
1	小樽市	小樽市立桂岡小学校	平成22年 5 月 18 日(火)	27名	倉橋	6年生授業
2	江別市	江別市立対雁小学校	平成22年 7 月 8 日(木)	76名	鎌田・藤井	3年2組学級レクリエーション
3	北広島市	北広島市中央公民館	平成22年 7 月 11 日(日)	120名	藤井	第12回ワクワク公民館子どもまつり
4	当別町	当別町立当別小学校	平成22年10月16日(土)	22名	藤井	当別町地域子ども教室わくわくキッズこども考古学講座
5	江別市	江別市立対雁小学校	平成22年11月12日(金)	79名	藤井	3年3組授業内親子レクリエーション
6	北広島市	北広島市広葉中学校	平成23年 3 月 2 日(水)	8名	藤井	授業「縄文文化に触れる」

(6) 講演会・報告会

a 財団法人北海道埋蔵文化財センター 平成21年度発掘調査報告会

[日 時] 平成22年4月10日(土) 13:30~16:30

[会 場] 2階研修室

[内 容] 平成21年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査を行った遺跡のうち、次のからの遺跡について、スライドを使用して発掘成果の報告を行った。

また、3月27日(土)から開催している特別展示「財団法人北海道埋蔵文化財センター平成21年度発掘調査成果展」の会場である展示室では、報告者による展示解説を行った。

千歳市キウス5遺跡	広田 良成
木古内町大平・大平4遺跡	山中 文雄
木古内町蛇内2遺跡	酒井 秀治
北斗市館野6・矢不來11遺跡	大泰司 統
富良野市学田三区2・3遺跡、北見市北上4遺跡	熊谷 仁志
下川町サンル4線・北町J遺跡	笠原 興
鶴居村下幌呂1遺跡	阿部 明義
釧路市天寧1遺跡	鈴木 宏行
根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群	愛場 和人

[参加者] 93名(うち道民カレッジ講座参加者26名)

[企 画] (財)北海道埋蔵文化財センター調査部

b 秋季講演会

「ぼくとわたしの考古学 麦わら帽子の記憶」

[日 時] 平成22年10月2日(土) 13:30~15:30

[会 場] 2階研修室

[講 師] 兵庫県三田市まちづくり部生涯学習課
三田市立つつじが丘小学校学校博物館館長
菅本啓子 氏

[内 容] 兵庫県三田市は「おかあさんの考古学」の刊行など、独自の埋蔵文化財普及活動で知られている。現在行われている「箱地図プロジェクト」「学校博物館」や「ぼくとわたしの考古学」刊行などの新たな取り組みについて紹介していただいた。

[参加者] 62名(うち道民カレッジ9名)

[企 画] 藤井 浩

c 冬季講演会

「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 苫小牧市」

[日 時] 平成23年2月5日(土) 13:30~15:30

[会 場] 2階研修室

[講 師] 元苫小牧市埋蔵文化財調査センター
所長 佐藤一夫 氏

[内 容] 北海道の埋蔵文化財の緊急調査を支えた方々に、それぞれの担当した市町村での仕事をふりかえっていただくもの。今回は苫小牧市の緊急発掘について解説していただいた。

[参加者] 50名(うち道民カレッジ8名)

[企 画] 倉橋直孝



秋季講演会ポスター



冬季講演会ポスター

(7) 教育連携講座

小・中学校、大学及び社会教育団体等を対象とする体験型教育連携講座を11回実施した。内訳は小学校2回、中学校1回、大学4回、教育局1回、教育委員会3回である。収蔵庫・展示収蔵庫や展示室見学の後、勾玉づくり、土器の拓本制作、火おこし体験、ミニチュア土偶作り、砂絵体験、遺物分布地図作成など多岐にわたる体験講座を、2階研修室で実施した。実施日、事業名、内容、担当、参加人数については、下の「教育連携講座実施一覧」に記載した。表中の内容の欄には主な体験項目を記した。

(8) 共催・協力など

a 財団法人北海道生涯学習協会

「ほっかいどう学」かでの移動講座

移動講座全10回のうち8回目と10回目を、財団法人北海道生涯学習協会との共催で実施した。

「縄文文化に触れる 1 土器に学ぶ」

日時：平成22年8月18日（水）13：30～15：30
会場：2階研修室
内容：世界遺産登録をめざす北海道の縄文文化について、土器の拓本制作をとおして学んだ。
講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：39名

「縄文文化に触れる 2 勾玉に学ぶ」

日時：平成22年9月8日（水）13：30～15：30
会場：2階研修室
内容：世界遺産登録をめざす北海道の縄文文化について、勾玉づくりをとおして学んだ。
講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：28名

b 北海道文化財保護協会

「子どもの文化財愛護推進事業」

北海道文化財保護協会の「子どもの文化財愛護推進事業」に協力し、9月18日（土）に長万部町、10月23日（土）に蘭越町、1月29日（土）に木古内町で地元の遺跡・遺物の紹介と勾玉づくりを中心とした出前講座を実施した。

第2回長万部町わくわく体験塾

「勾玉づくりに挑戦」

日時：平成22年9月18日（土）13：00～16：00
会場：長万部町福祉センター
対象：小学3～6年生
内容：北海道文化財保護協会理事の矢吹俊男氏の講演「文化財を大切にしよう！～北海道の自然や歴史から学びましょう～」の後、北海道教育委員会のホームページ「北の遺跡案内」を使って長万部町内の遺跡を紹介し、勾玉づくりを通して縄文文化について学んだ。その後、町民センターに

教育連携講座実施一覧

番号	実施日	事業名	内容	担当	参加人数
1	平成22年5月28日（金）	石狩教育局初任者研修校外研修	勾玉	倉橋	28名
2	平成22年6月2日（水）	札幌市立小野幌小学校6年2組体験学習	拓本・火おこし	藤井	42名
	平成22年6月3日（木）	札幌市立小野幌小学校6年1組体験学習	拓本・火おこし	藤井	42名
	平成22年6月4日（金）	札幌市立小野幌小学校6年3組体験学習	拓本・火おこし	藤井	42名
3	平成22年6月26日（土）	長沼町教育委員会子どもチャレンジ教室体験学習	勾玉・拓本・火おこし	藤井	24名
4	平成22年7月6日（火）	江別市立上江別小学校体験学習	拓本・ミニチュア土偶	藤井	74名
5	平成22年7月11日（日）	北翔大学短期大学部こども学科2年「社会科指導法」	勾玉	倉橋	24名
6	平成22年9月2日（木）	江別市聚楽学園「江別学」講座体験学習	勾玉	藤井	42名
7	平成22年10月14日（木）	江別市立江陽中学校体験学習	拓本	藤井	31名
8	平成22年11月3日（水）	札幌大学スペシャルウィーク	勾玉	倉橋	36名
9	平成22年11月6日（土）	江別市郷土資料館子ども学芸員カレッジ講座	砂絵	倉橋	20名
10	平成22年12月5日（日）	北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科専門科目「社会科指導法」	地図作成	倉橋	43名
11	平成22年12月12日（日）	北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科専門科目「社会科指導法」	地図作成	倉橋	22名

展示中の町内遺跡出土遺物を手にとって観察し、埋蔵文化財に対する関心を高めた。

講師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝
参加者：34名

蘭越町土曜っ子チャレンジクラブ

日時：平成22年10月23日（土）9：00～12：00

会場：蘭越町町民センター

内容：北海道文化財保護協会理事の矢吹俊男氏が蘭越町の動・植物など、子どもたちにとって身近な話から、過去から現在、埋蔵文化財への興味・関心がひろがる話をした。その後、遺跡から実際に出土した勾玉や管玉などの玉類の観察と説明を行い、勾玉づくりを通して縄文文化について学んだ。

講師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝
参加者：65名

木古内町 無名塾「ウィンター・キャンプ」

日時：平成23年1月29日（土）

会場：木古内町中央公民館

対象：小学4～6年生

内容：北海道教育委員会のホームページ「北の遺跡案内」による木古内町や道内の遺跡の調べ方を紹介し、会場周辺の遺跡を示して埋蔵文化財への興味・関心をもっていただけるよう話をした。その後、勾玉づくりをとおして縄文文化について学んだ。

講師：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝
参加者：22名

c 講師派遣

まちを好きになる市民大学

「まるごときたひろ博物館員」養成課程

専門科目 歴史遺産特講1

依頼元：北広島市教育委員会

日時：平成22年9月4日（土）10：30～13：00

会場：北広島市東記念館及び現地

対象：市民大学受講生1期生

内容：埋蔵文化財・遺跡についての概要を説明した後、北広島市内の遺跡について、地形との関

連から説明した。バスにより市内に所在する遺跡の巡検を行い、中の沢チャシ跡、旧島松駅通所、恵庭市島松チャシ跡、島松川左岸チャシ跡などを訪れて現地で解説した。

講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：25名

まちを好きになる市民大学

「まるごときたひろ博物館員」養成課程

専門科目 歴史遺産特講2

依頼元：北広島市教育委員会

日時：平成22年9月11日（土）10：30～13：00

会場：北広島市中央公民館

対象：市民大学受講生1期生

内容：9月4日に行った『まちを好きになる市民大学 「まるごときたひろ博物館員」養成課程

専門科目 歴史遺産特講1』での巡検のまとめの後、埋蔵文化財や遺跡についての概要を説明した。また、土器や石器についての概要説明を行い、市内遺跡出土の遺物を観察して遺物に対する理解を深めていただいた。その後、市内遺跡出土の土器を見本にして、木質粘土を用いてミニチュア土器の製作体験を行った。

講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：23名

まちを好きになる市民大学

「まるごときたひろ博物館員」養成課程

必修科目 エコミュージアム資料論

考古学資料論

依頼元：北広島市教育委員会

日時：平成22年11月6日（土）10：30～15：00

会場：北広島市中央公民館、東記念館収蔵庫、中の沢チャシ跡

対象：市民大学受講生2期生

内容：考古学及び遺跡発掘調査についての概要説明の後、北広島市内の遺跡についての概要を説明した。その後、東記念館収蔵庫で北の里13遺跡出土資料を実見し、中の沢チャシ跡を見学した。

講師：第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：18名

平成22年度いきいき大学開校式（第5回学習会）ならびに学校支援ボランティア養成研修会

依頼元：長万部町教育委員会
 日 時：平成22年11月17日（水）
 会 場：長万部町学習文化センター
 対 象：60歳以上の町民及び、学校支援ボランティアに関心のある者
 演 題：主題；「長万部の魅力再発見」
 副題；「文化遺産を引き継ごう」
 講 師：副所長 畑 宏明

第4回北海道大学埋蔵文化財調査室調査成果報告会

依頼元：北海道大学埋蔵文化財調査室
 日 時：平成23年2月13日（日）13：00～15：30
 会 場：北海道大学学术交流会館
 対 象：一般市民
 内 容：札幌市K39遺跡、K435で発掘された遺構・遺物の保存処理方法
 講 師：第1調査部第1調査課長 田口 尚

(9) 周辺施設との連携

江別市から札幌市北東部に所在する各文化施設と、以下のa～dの連携を行っている。各連携参加状況および参加施設については、下の「周辺施設との連携参加一覧」の通りである。

a 文京台地区道立教育3施設連携

江別市文京台地区に設置されている北海道立図書館、北海道立教育研究所及び北海道立埋蔵文化財センターの3施設が、今後さらに地域に根ざし、開かれた「施設」を目指していくため、各施設の持つ機能の連携に努めるとともに、職員の親睦交流を通して相互理解と連帯意識を図ることを目的として平成15年から連携事業を行っている。

今年度も、「道立図書館、道立教育研究所及び埋蔵文化財センター（文京台地区道立教育施設）が連携して実施する地域開放事業のご案内について」と題した、7月以降に実施する事業を紹介する3施設連携の事業リーフレットを合同で作成した。このリーフレットは7月7日（水）に、文京台第1自治会（約280戸）文京台第2自治会（約900戸）文京台東町（約490戸）の計約1670戸に141部回覧した。

b あつまれ！森林公園クイズラリー2010

日 時：平成22年5月1日（土）～5月5日（水）
 場 所：北海道開拓記念館・北海道開拓の村・自然ふれあい交流館・北海道立図書館・北海道立埋蔵文化財センター
 内 容：今年度は、各施設で1問ずつ出題されるクイズに答えてチェックスタンプをもらい、5施設中の3施設を回ると記念品が貰え、5施設全て

周辺施設との連携参加一覧

名 称	集まれ！ 森林公園 クイズラリー2010	文京台地区 道立教育3施設	野幌総合運動公園 運営連絡協議会	かるちやるnet (文化施設連絡協議会)
江別市郷土資料館				
江別市スポーツ振興財団				
野幌自治会				
北海道情報大学				
野幌中学校				
江別市セラミックアートセンター				
野幌総合運動公園事務所				
酪農学園大学				
北海道立図書館				
北海道立教育研究所				
札幌学院大学				
北翔大学				
北海道立埋蔵文化財センター				
自然ふれあい交流館				
道立自然公園野幌森林公園				
北海道開拓記念館				
北海道開拓の村				
サンピアザ水族館				
札幌市青少年科学館				

回ると完走グッズが貰えるというルールで実施した。全体の参加者は960名、センター来館者は745名だった。

c 野幌総合運動公園運営連絡協議会

第4回野幌総合運動公園運営連絡協議会

日 時：平成22年7月21日（水）14：00～15：30
会 場：江別市セラミックアートセンター会議室
内 容：財団法人江別市スポーツ振興財団、北海道情報大学、野幌中学校、江別市セラミックアートセンター、野幌総合運動公園事務所、北翔大学、北海道立埋蔵文化財センターが出席し、情報交換を行った。その後、終戦65年企画「代用品が生み出された時」を観覧した。

第5回野幌総合運動公園運営連絡協議会

日 時：平成23年2月17日（木）14：00～15：30
会 場：道立野幌総合運動公園事務所 研修室A
内 容：財団法人江別市スポーツ振興財団、北海道情報大学、江別市セラミックアートセンター、野幌総合運動公園事務所、酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学、北海道立埋蔵文化財センター、北海道開拓の村が出席し、情報交換と連携事業についての意見交換を行った。

d かるちやるnet（文化施設連絡協議会）

新札幌から江別市南西には社会教育的文化施設が集中し、地域に暮らす人たちにとって恵まれた環境にある。各文化施設は地域文化の向上や知的財産の継承など重要な役目を担っているが、財政の悪化により運営・事業の見直しを迫られ、取り巻く情勢は厳しさを増している。このような状況を踏まえ、各施設が協力・連携を強化し、意見交換・連携事業・広報事業などの実施を協議する場として結成された。

平成21年に北海道がイオン北海道㈱との包括的連携協定を締結する際に北海道開拓記念館が企業側に提案した「道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業」を基礎とする。

かるちやるnet紹介展

日 時：

第1回目；平成22年4月14日（水）～4月20日（火）
第2回目；平成22年7月28日（水）～8月3日（火）
第3回目；平成22年10月6日（火）～10月12日（火）
会 場：

第1回目；イオン札幌苗穂ショッピングセンター
第2回目；ポスフル江別店
第3回目；イオン札幌発寒ショッピングセンター
対 象：一般
内 容：加盟各施設が実施する行事等をパネルで紹介し、パンフレット・チラシ類を置いて施設のPRを行った。また、交代で人員を配置して解説を行った。10月9日（土）には北海道開拓記念館、10月10日（日）には北海道開拓の村、10月11日（月）北海道立埋蔵文化財センターが体験イベントを行った。

2010「イオン・子ども歴史文化教室」

楽しい考古学「勾玉づくりに挑戦！」

日 時：平成22年5月15日（土）10：30～11：30
会 場：イオン平岡店イオンホール
対 象：小学生・親子
内 容：縄文時代のアクセサリーである勾玉を紹介し、実物を観察した後、滑石を使って勾玉づくり体験を行った。平成22年4月から平成23年3月まで、毎月1回土曜日に実施する「イオン子ども歴史文化教室」の2回目で、かるちやるnetに加盟する各施設が分担して実施した。

講 師：第1調査部普及活用課長 鎌田 望
第1調査部普及活用課主査 藤井 浩
参加者：28名

キラキラの砂で絵を描こう

日 時：平成22年10月11日（日）
会 場：イオン札幌発寒ショッピングセンター
対 象：幼児・小学生・親子
内 容：北海道開拓記念館と北海道立図書館の協力を得て、第3回かるちやるnet紹介展会場で、色砂を使って縄文土器の絵を描く体験イベントを行った。
講 師：第1調査部普及活用課長 鎌田 望
参加者：73名

7 利用状況など

今年度のセンター利用者は、前年度より一割ほど減少した。前年度よりも入館者が減少した月は4月、5月、7～9月、12～3月である。しかし、6月にはこれまでの6月の入館者数では最高の1597人を記録した。また、10月には1214人、11月には794人と、いずれも前年度の同月入館者数を凌駕している。

ゴールデンウィーク期間中に周辺施設（北海道開拓記念館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館、北海道立図書館）と連携して行った「集まれ！森林公園クイズラリー2010」期間中の来館者は745人である。20年度のクイズラリー期間中の入館者数は324人、同21年度は768人である。昨年度よりも若干減少している。

(1) 入館者数一覧

月別入館者数一覧

月	開館日数	大人(男性)	大人(女性)	子供	合計
平成22年4月	26	400	215	184	799
平成22年5月	27	689	505	561	1755
平成22年6月	26	524	537	536	1597
平成22年7月	27	396	266	455	1117
平成22年8月	26	373	262	347	982
平成22年9月	27	352	261	382	995
平成22年10月	27	445	310	459	1214
平成22年11月	25	336	290	168	794
平成22年12月	21	211	117	42	370
平成23年1月	24	146	127	71	344
平成23年2月	23	184	58	26	268
平成23年3月	23	230	217	64	511
合計	302	4286	3165	3295	10746

暦年入館者数一覧

月	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	合計
4月		758	656	545	538	831	595	830	669	904	1192	799	8317
5月		709	453	656	1081	964	716	1440	1228	1403	1978	1755	12383
6月		652	621	808	1299	1054	858	768	1099	1150	934	1597	10840
7月		527	303	633	922	828	1124	1138	1425	1126	1537	1117	10680
8月		673	388	662	789	747	851	1238	1517	1267	1370	982	10484
9月		544	374	631	762	1020	727	790	907	768	1169	995	8687
10月		650	302	649	991	1027	773	945	939	1267	1120	1214	9877
11月	1988	467	659	445	836	669	618	669	627	653	745	794	9170
12月	687	286	326	669	505	330	318	232	536	488	577	370	5324
1月	593	218	411	287	229	189	240	462	633	488	516	344	4610
2月	366	129	240	212	270	187	189	226	329	450	374	268	3240
3月	469	221	362	297	331	296	366	329	528	549	472	511	4731
合計	4103	5834	5095	6494	8553	8142	7375	9067	10437	10513	11984	10746	98343

は最多（平成11年度除く）

特別展示期間中の入館者

展 示 タ イ ト ル	期 間	入館者数
(財)北海道埋蔵文化財センター平成21年度発掘調査成果展	平成22年3月27日(土)~6月6日(日)	3345名
「わかる考古学 5 縄文生活体験ひろば」展	平成22年7月10日(土)~10月11日(月)	3140名
「北海道遺跡百選 3 千歳市キウス4遺跡と国指定史跡キウス周堤墓 縄文大工事・盛土と周堤墓」展	平成22年10月30日(土)~平成23年3月6日(日)	1918名
特別展示期間中の入館者数合計		8403名
世界遺産をめざす北の縄文展	平成22年4月1日(木)~平成23年3月31日(木)	10746名

報告会・講演会参加者

事 業 名	実 施 日	参加人数
(財)北海道埋蔵文化財センター平成21年度発掘調査報告会	平成22年4月10日(土)	93名
秋季講演会「ぼくとわたしの考古学 麦わら帽子の記憶」	平成22年10月2日(土)	62名
冬季講演会「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 苫小牧市」	平成23年2月5日(土)	50名

考古学講座・こども考古学教室参加者

事 業 名	実 施 日	参加人数
考古学入門講座	平成22年5月15日(土)	30名
ガラス玉作り	平成22年6月19日(土)	15名
竪穴住居模型づくり	平成22年8月21日(土)	6名
石器づくり	平成22年11月27日(土)	13名
拓本講座	平成23年3月12日(土)	9名
こども考古学教室親子ガラス玉作り	平成22年6月26日(土)	20名
こども考古学教室夏休み親子考古学教室第1回	平成22年7月24日(土)	39名
こども考古学教室夏休み親子考古学教室第2回	平成22年7月31日(土)	46名
こども考古学教室冬休み親子考古学教室第1回	平成23年1月8日(土)	11名
こども考古学教室冬休み親子考古学教室第2回	平成23年1月15日(土)	33名

考古学教室出前講座

事 業 名	実 施 日	参加人数
考古学教室出前講座1(福島町)	平成22年8月6日(金)	38名
考古学教室出前講座2(上ノ国町)	平成22年8月7日(土)	20名
考古学教室出前講座3(知内町)	平成22年8月8日(日)	18名
考古学教室出前講座4(本別町)	平成22年8月7日(土)	14名
考古学教室出前講座5(根室市)	平成22年11月19日(金)	73名
考古学教室出前講座6(厚岸町)	平成22年11月20日(土)	9名
考古学教室出前講座7(標津町)	平成22年11月21日(日)	40名

考古学教室出前講座(依頼分)

依 頼 元 ・ 実 施 場 所	実 施 日	参加人数
小樽市立桂岡小学校	平成22年5月18日(火)	27名
江別市立対雁小学校	平成22年7月8日(木)	76名
北広島市中央公民館	平成22年7月11日(日)	120名
当別町立当別小学校	平成22年10月16日(土)	24名
江別市立対雁小学校	平成22年11月12日(金)	79名
北広島市立広葉中学校	平成23年3月2日(水)	8名

(2) 団体利用者対応

施設見学のほか、小・中学校や大学、教育機関等の団体、その他の団体を対象に、勾玉づくり等の体験学習を21回行った。また、大学の学外授業や講座を8回、行った。団体利用者数は1398名である。

[小学校]

年	月日	曜日	団体名・見学・体験等	人数
平成22年	5月11日	(火)	江別市立大麻小学校施設見学	74名
	5月18日	(月)	石狩市立石狩小学校拓本体験学習	25名
	6月11日	(金)	岩見沢市立幌向小学校勾玉作り体験学習	70名
	6月16日	(水)	三笠市3校合同小学校修学旅行勾玉作り体験学習	27名
	7月14日	(水)	江別市立大麻小学校よつば学級施設見学	11名
	8月27日	(金)	月形町立月形小学校勾玉づくり体験学習	41名
	9月24日	(金)	江別市立大麻小学校よつば学級勾玉づくり体験学習	13名
	9月28日	(火)	札幌市立北陽小学校拓本体験学習	60名
	10月21日	(火)	江別市立対雁小学校体験学習	121名
	11月9日	(火)	江別市立文京台小学校5年1組親子レク勾玉づくり体験	64名
	11月19日	(金)	岩見沢市立幌向小学校教諭勾玉作り体験	15名

[中学校]

年	月日	曜日	団体名・見学・体験等	人数
平成22年	5月12日	(水)	積丹町立美国中学校勾玉作り体験学習	30名
	6月10日	(木)	札幌市立厚別北中学校勾玉作り体験学習	43名
	9月7日	(火)	札幌市立平岸中学校分教室澄川相談指導学級体験学習	6名

[高校]

年	月日	曜日	団体名・見学・体験等	人数
平成22年	4月17日	(土)	北海道札幌啓成高等学校剣道部施設見学	14名

[大学]

年	月日	曜日	団体名・見学・体験学習・学外授業等	人数
平成22年	5月16日	(日)	北翔大学短期大学部菊地先生講義利用	7名
	5月19日	(水)	札幌学院大学鶴丸先生講義利用	69名
	6月15日	(火)	北翔大学エクステンションセンター「人が集えば文殊の知恵袋講座」『第1回春の歴史探訪2010』	19名
	7月2日	(金)	韓国・全北大学校博物館施設見学	22名
	7月17日	(土)	札幌国際大学越田先生講義利用	24名
	10月20日	(水)	北翔大学渡部先生講義利用 1	9名
	10月27日	(水)	北翔大学渡部先生講義利用 2	8名
	12月4日	(土)	札幌国際大学畑先生講義利用(男性14名、女性9名、計23名)	23名
	12月18日	(土)	札幌大学博物館学ガラス玉作り実習	23名
平成23年	1月28日	(金)	札幌学院大学鶴丸先生引率韓国人留学生勾玉作り体験学習	46名

【教育機関等の団体】

年	月日	曜日	団体名・見学・体験等	人数
平成22年	6月23日	(水)	厚別教職員互助会勾玉づくり体験	12名
	7月7日	(水)	遠軽町教育委員会教育委員施設見学	6名
	7月8日	(木)	韓国伝統文化学校・鏡潭文化財研究所、(財)元興寺文化財研究所施設見学	4名
	8月5日	(木)	いわみざわ市民大学施設見学	38名
	9月3日	(金)	江別市郷土資料館博物館実習生施設見学	4名
	11月26日	(金)	北広島市市民大学施設見学	24名
	12月10日	(金)	中国遼寧省文物考古研究所施設見学	5名

【その他の団体】

年	月日	曜日	団体名・見学・体験等	人数
平成22年	4月24日	(土)	日通旅行「アイヌ民族文化の旅」施設見学	18名
	5月18日	(月)	絵手紙の会拓本体験	9名
	6月27日	(日)	大麻沢町16丁目自治会「歩こう会」施設見学	34名
	7月11日	(日)	手稲一万歩歩く会施設見学	77名
	7月14日	(水)	「雪嶺」俳句会施設見学	5名
	7月30日	(金)	こひつじ児童会勾玉づくり体験	47名
	8月6日	(金)	勤医協デイサービスセンター「花さか荘」施設見学	6名
	8月17日	(火)	北野少年消防クラブ勾玉づくり体験	18名
	8月21日	(土)	尚志会北海道支部施設見学	6名
	8月25日	(水)	厚別老人クラブ勾玉づくり体験	5名
	9月15日	(水)	野幌ひまわり児童センター勾玉づくり体験	11名
	10月10日	(日)	北海道文化財保護協会「栗山の縄文世界」施設見学	30名
	10月21日	(木)	江別ケアパークそよ風砂絵体験	19名
	10月21日	(木)	平成22年度法制事務研究会施設見学	14名
	11月19日	(金)	江別ケアパークそよ風施設見学	17名
	11月20日	(土)	江別ケアパークそよ風施設見学	15名
	11月23日	(火)	江別ケアパークそよ風施設見学	18名
	11月24日	(水)	江別ケアパークそよ風施設見学	15名
	11月25日	(木)	江別ケアパークそよ風施設見学	18名
	12月18日	(土)	南北野健康こども会勾玉作り体験	19名
平成23年	1月6日	(木)	江別ケアパークそよ風施設見学	18名
	1月14日	(金)	ベストフレンズ勾玉づくり体験	26名

(3) 実習等

大学院生の展示実習を1件(1名)、大学の図書館実習を1件(1名)、生涯学習体験実習を1件(2名)行った。

【実習等】

年	期間	大学名・実習種別	人数
平成22年	8月10日(火)～8月27日(金)	筑波大学大学院生展示等実習	1名
	9月1日(水)～9月3日(金)	藤女子大学3年生図書館実習	1名
平成23年	1月5日(水)～1月8日(土)	北翔大学3年生生涯学習体験実習	2名

8 図書資料

(1) 購入図書一覧

書名	編著者名	出版者
世界遺産縄文遺跡	小林達雄	同成社
図説帯広・十勝の歴史(北海道の歴史シリーズ)	後藤秀彦	郷土出版社
縄文の漆(ものが語る歴史20)	岡村道雄	同成社
よくわかる考古学(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)	松藤和人・門田誠一	ミネルヴァ書房
郷土の好古家・考古学者たち 西日本編	斎藤 忠	雄山閣出版
「聖岳」事件 報道被害と考古学論争	「聖岳」名誉毀損訴訟弁護団	雄山閣
民族考古学と縄文の耳飾り(ものが語る歴史19)	高山純	同成社
日本考古学文献ガイド(考古学調査ハンドブック3)	酒詰秀一	ニュー・サイエンス社
日本人とは何か 考古学がいま語れること	安斎正人	柏書房
北方世界の考古学	小松正夫	すいれん社
検証「前期旧石器遺跡発掘捏造事件」	松藤和人	雄山閣
倭の玉器 玉つくりと倭国の時代	河村好光	青木書店
海の底の考古学 水中に眠る財宝と文化遺産、そして過去からのメッセージ	井上たかひこ	舵社
0脚だったかもしれない縄文人 人骨は語る(歴史文化ライブラリー293)	谷畑美帆	吉川弘文館
旧石器時代の日本列島史	安藤政雄	学生社
文化財アーカイブの現場 前夜と現在、そのゆくえ	福森大二郎	勉誠出版
文化財のまもり手を育てる(文化財の保護と修復12)	文化財保存修復学会	クバプロ
土の文明史 ローマ帝国、マヤ文明を滅ぼし、米国、中国を衰退させる土の話	デイビッド・モントゴメリー	築地書館
海から見た日本人 海人で読む日本の歴史(講談社選書メチエ463)	後藤明	講談社
考古学がよくわかる事典 土にうもれた歴史をさぐる!発掘の方法から遺物の見方まで	國學院大學考古学研究室	PHP研究所
ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む	宇野隆夫	勉誠出版
日本辺境論(新潮新書336)	内田 樹	新潮社
日本中世都市遺跡の見方・歩き方「市」と「館」を手がかりに	鋤柄俊夫	昭和堂
東アジア内海文化圏の景観史と環境1 水辺の多様性	内山純蔵、カティ・リンドストロム	昭和堂
日本列島の野生動物と人	池谷和信	世界思想社
頭骨コレクション 骨が語る動物の暮らし	福田史夫	築地書館
麦の自然史 人と自然が育んだムギ農耕	佐藤洋一郎・加藤 謙司	北海道大学出版会
植物の生態図鑑 大自然のふしぎ 増補改訂	多田多恵子・田中肇	学研教育出版
日本古典博物事典 動物篇	小林祥次郎	勉誠出版
世界葬祭事典 改訂増補	松涛弘道	雄山閣
しごとば 続	鈴木のりたけ	ブロンズ新社
学術研究者になるには 人文・社会科学系 改訂版	小川秀樹	ベリかん社

(2) 受領刊行物一覧(*所在地市町村コード順に掲載)

[北海道]	
浦幌町立博物館	
浦幌町立博物館紀要 第10号	
浦幌町立博物館年報 第10号	
江別市郷土資料館	
江別ガイドブックシリーズ 江別の遺跡をめぐる	
江別市郷土資料館年報 Vol.9	
江別市セラミックアートセンター	
Ceramic Art Center 年報 平成21年度	
恵庭市郷土資料館	
恵庭市郷土資料館年報 16	
上士幌町ひがし大雪博物館	
上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第32号	
釧路市埋蔵文化財調査センター	
釧路市阿寒町地区埋蔵文化財分布調査報告書	
釧路市音別町地区埋蔵文化財分布調査報告書	
釧路市音別町地区埋蔵文化財分布調査報告書	
釧路市東釧路貝塚調査報告書	
釧路市幣舞2遺跡調査報告書	
札幌国際大学	
札幌国際大学紀要 第41号	
札幌大学文化学部	
第5回 アイヌ文化研究の今 シンポジウム&公開講座報告集 アイヌのモノと技の世界	
伝承から探るアイヌの歴史	
札幌市埋蔵文化財センター	
札幌市文化財調査報告書91 N533遺跡	
札幌市文化財調査報告書92 T71遺跡第3次調査	
市内遺跡発掘調査確認調査等報告書	

市立函館博物館
市立函館博物館 平成22年度 特別展 縄文の至宝 世界遺産をめざす15遺跡と土偶
道民カレッジ事務局
カレッジだより vol.18
日高町教育委員会
日高町埋蔵文化財調査報告書第2輯 ポロペチリ遺跡
美幌博物館
美幌町文化財調査報告24 みどり2遺跡
美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書
北海道開拓記念館
どんぐりコロコロ 第66回 特別展
北海道大学大学院文学研究科・文学部
古河講堂「旧標本庫」人骨問題 報告書
北海道大学総合博物館
アラスカの恐竜 アジアをめざした生命
マキシモヴィッチ・長ノ助・宮部 北海道大学総合博物館企画展示「花の日露交流史 幕末の箱館山を見た男 図鑑
北海道立文書館
赤れんが 北海道立文書館報 46
北海道立アイヌ民族文化研究センター
「北東日報」「釧路新聞」掲載アイヌ関係記事(1901~1942年):目録と紹介 北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書 6
アイヌ民族文化研究センターだより 32
アイヌ民族文化研究センターだより 33
北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第16号
北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2009
特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団
函館市 豊崎B・P遺跡 一般国道278号函館市尾札部道路工用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
函館市 八木A遺跡 平成21年度緊急雇用創出推進事業補助金交付要綱に基づく南芽部縄文遺跡群発掘調査事業
北翔大学短期大学部 菊地達夫
知的観光資源の有する情報認識の実態(抜刷)
中学校社会科地理的分野における地図活用のあり方と方向性(抜刷)
地理歴史科地理A・Bにおける内容と特色 平成21年高等学校学習指導要領を手がかりとして (抜刷)
二セコスキー観光地域における外国資本の進出と計画内容の影響(抜刷)
幼稚園・保育所における散歩活動の実践例とその特色(抜刷)
[青森県]
縄文遺跡群跡世界遺産登録推進本部
「世界遺産登録を目指す北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」リーフレット
縄文
仙台市富沢遺跡保存館
地底の森ミュージアム・縄文の森広場 研究報告2009
外ヶ浜町教育委員会 社会教育課
丑ヶ沢(2)遺跡 国道280号道路改築工事に伴う発掘調査報告書
[秋田県]
秋田県立博物館
秋田県立博物館 年報 平成22年
秋田県立博物館ニュース Museum News
[福島県]
福島県教育委員会
福島県文化財調査報告書第465集 国営隈戸川農業水利事業遺跡調査報告
福島県文化財調査報告書第467集 常盤自動車道調査報告 59
福島県文化財調査報告書第467集 常盤自動車道調査報告 59 (再刊)
[茨城県]
小美玉市玉里史料館
小美玉市史料館報 Vol.4
[栃木県]
足利市教育委員会
常見古墳群 足利を治めた首長たちの墓
掘り出された足利の歴史 調査報告第59集
[群馬県]
高崎市教育委員会
第221集 東国分薬師道南遺跡
第228集 下豊岡後原 遺跡
第230集 下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡
第232集 上中居遺跡郡
第233集 菅谷石塚 遺跡
第234集 倉賀野下新堀遺跡
第235集 平成20年度市内遺跡発掘調査報告書
第241集 新後閑遺跡 2

	第237集 新後閑遺跡
	第238集 萩原沖中遺跡第3次調査
	第239集 下佐野長者屋敷遺跡
	第240集 金古・庚申遺跡
	第242集 上里見新井遺跡
	第243集 萩原沖中遺跡 5
	第244集 高関高根遺跡
	第245集 生原・柊木遺跡
	第246集 綿貫・台新田遺跡
[埼玉県]	
	桶川市教育委員会
	平成21年度桶川市内遺跡発掘調査報告書
	宮ノ脇遺跡
	所沢市教育委員会
	所沢市埋蔵文化財調査報告書 第48集 市内遺跡調査報告16 和田遺跡第32次調査
	所沢市埋蔵文化財調査報告書 第49集 東の上遺跡 飛鳥・奈良・平安時代編
	所沢市埋蔵文化財調査報告書 第50集 宮林遺跡 第3次調査
	所沢市埋蔵文化財調査報告書 第51集 本村遺跡 第6次調査
	吉見町教育委員会 吉見町埋蔵文化財センター
	吉見町埋蔵文化財調査報告書 第8集 町内遺跡4 南間ノ田遺跡(第2地点)北間ノ田遺跡(第1地点)原遺跡(第2地点)番場通遺跡
	吉見町埋蔵文化財調査報告書 吉見町長谷 七ノ谷遺跡 工事建設に伴う発掘調査報告書
	吉見町埋蔵文化財調査報告書 吉見町東野 七軒遺跡 集合住宅建設に伴う発掘調査報告書
[東京都]	
	共和開発株式会社
	東京都渋谷区 鉢山町・猿楽町17番遺跡第4地点
	共和開発株式会社・白根記念渋谷区郷土博物館
	東京都渋谷区 豊沢貝塚 第11地点調査報告
	渋谷区教育委員会 生涯学習課文化財係
	東京都渋谷区 青山学院構内遺跡 第4地点
	物流博物館
	全日本トラック協会広報誌「広報とらっく」 2010年6月1日号
	文化環境研究所
	Cultivate 36号
	文環研レポート 第30号
	港区教育委員会
	港区埋蔵文化財調査年報 7 平成20年度の調査他
	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告書 43 増上寺土域第2遺跡発掘調査報告書 2006
	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告書 45 上行寺跡・上行寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書 2006
	港区立港郷土資料館
	研究紀要12
	港郷土資料館館報
	文部科学省 国立教育制作研究所 社会教育実践研究センター
	平成21年度 博物館に関する基礎資料
	(株)メディアアトリエ
	NHKハイビジョン「日本列島人の起原に迫る」CD-R
[神奈川県]	
	神奈川県教育委員会
	神奈川県埋蔵文化財センター 年報22 平成21年度
	神奈川県埋蔵文化財調査報告55 平成20年度神奈川県内埋蔵文化財発掘調査一覧
	(財)かながわ考古学財団
	かながわ考古学財団調査報告 262 川尻遺跡
	かながわ考古学財団調査報告259 下堀広坪遺跡 第1地点 下堀塚田町遺跡 第1地点・下堀道上町遺跡 第1地点
	かながわ考古学財団調査報告260 下糟屋・丸山遺跡(第6地点) 伊勢原都市計画 成瀬第二特定土地区画整理事業に伴う発掘調査
	掘り進められた神奈川の遺跡 旧石器から近代まで
[新潟県]	
	新潟市埋蔵文化財センター
	上浦A遺跡 第14次調査 市道結第6号市之瀬改良工事に伴う発掘調査報告書
	駒首瀧遺跡 第3・4次調査 大型小売店建設に伴う駒首瀧遺跡第3・4次調査報告書
	平成20年度 国史跡古津八幡山遺跡講演会記録集
	平成21年度 新潟市遺跡発掘調査報告会(パンフレット)
	結七島遺跡V 第19次調査 市営下興野中野線道路改良工事事業に伴う結七島遺跡第3次発掘調査報告書
	萱免遺跡 第2次調査 宅地造成に伴う萱免遺跡第2次調査報告書
	敬和学園大学 人文社会科学研究所
	人文社会科学研究所年報 8
	年報新発田学 創刊号
	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡 発掘調査報告X

〔富山県〕	
富山県埋蔵文化財センター	
	特別展 縄文土器の静と動
	富山県埋蔵文化財センター年報 平成21年度
	埋文とやま 第111号
	埋文とやま 第112号
	埋文とやま 第113号
〔福井県〕	
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	
	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡 発掘調査報告 X
〔山梨県〕	
笛吹市教育委員会	
	車地蔵遺跡・石動遺跡・北中原遺跡・中新居遺跡 一宮町末木地区畑総事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業 (笛吹市文化財調査報告書 第11集)
	塚田遺跡 一宮北部地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (笛吹市文化財調査報告書 第13集)
	物見塚遺跡 農林業魚要揮発税財源身替農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (笛吹市文化財調査報告書 第12集)
南アルプス市教育委員会 文化財課	
	祈りのよこがお
	南アルプス市埋蔵文化財ガイドブック第2集Ver2 堤の原風景
	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第17集 山梨県南アルプス市 豊小学校遺跡(第 地点) 豊小学校 屋内運動場改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第24集 山梨県南アルプス市 平成20年度埋蔵文化財試掘調査報告書 各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第25集 山梨県南アルプス市 榎形堤防 堤防遺跡の埋蔵文化財確認 調査報告書
	山梨県南アルプス市 文化財年報 平成21年度
山梨県立考古博物館	
	第28回特別展 発掘された女性の系譜
山梨県埋蔵文化財センター	
	年報25 2008年度(平成20年度)
	発掘調査のてびき 集落遺跡発掘編
	発掘調査のてびき 整理・報告書編
	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第265集 八幡神社遺跡
	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第266集 山梨県内分布調査報告書(平成21年1月~12月)
	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第267集 県指定史跡甲府城跡 平成21年度調査・整備報告書
	埋文やまなし 第33号
	埋文やまなし 第34号
	埋文やまなし 第35号
〔長野県〕	
長野県埋蔵文化財センター	
	長野市の埋蔵文化財第125集 浅川扇状地遺跡群 吉田町東遺跡 ⁽³⁾ 駒沢新町遺跡 ⁽³⁾
	長野市の埋蔵文化財第125集 小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡 ⁽⁵⁾ 中俣遺跡 ⁽⁴⁾
	長野市埋蔵文化財センター所報 20
〔静岡県〕	
伊東市教育委員会	
	伊東市埋蔵文化財調査報告静岡伊東市 市内遺跡試掘・確認調査報告書
磐田市教育委員会	
	特別史跡 遠江国分寺跡 平成21年度発掘調査のあらまし
	平成20年度 国庫及び県費補助事業に伴う市内遺跡発掘調査等事業 静岡県磐田市 市内遺跡確認調査報告書
	平成20年度 丁子遺跡発掘調査報告書
〔愛知県〕	
一宮市博物館	
	企画展 お釈迦様のものがたり 涅槃図から読本・草双紙まで
	くらしの道具今と昔(かいせつカード)
	茶の湯の浸透 茶進上仕りたく 解説書
	一宮市博物館だより No.46
〔滋賀県〕	
栗東市教育委員会	
	栗東市埋蔵文化財調査報告 2008(平成20)年度 年報
滋賀県教育課員会事務局文化財保護課	
	平成20年度 滋賀県文化財年報
	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書37-1 肥田城遺跡 肥田西遺跡 鶴田遺跡 彦根市肥田町
	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書37-2 金貝遺跡 東近江市野村町
	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書37-4 開津遺跡 大津市関津1丁目 第1冊分
	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書37-4 開津遺跡 大津市関津1丁目 第2冊分
	ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書37-4 開津遺跡 大津市関津1丁目 第3冊分
	開津遺跡 付図
(財)滋賀県文化財保護協会	
	シリーズ 近江の文化財001 甲賀郡中惣の政界 神と城そして武士

	第22回濱田青陵賞受賞式
	シリーズ 近江の文化財002 関津遺跡 近江の南の玄関口
	シリーズ 近江の文化財003 琵琶湖の港と船
	シリーズ 近江の文化財004 縄文人のエコロジーとエコノミー 琵琶湖の貝塚・粟津湖底遺跡が語る秘密
[京都府]	
	京都府教育委員会
	京都府埋蔵文化財調査報告書
	立命館大学考古学論集刊行会
	立命館大学考古学資料集第1冊 韓国無文土器時代の石器
	立命館大学考古学資料集第2冊 韓国新石器時代土器編年概説
	立命館大学考古学資料集第3冊 鹿角製刀剣装具
	立命館大学考古学論集 2010
[大阪府]	
	岸和田市教育委員会
	平成21年度発掘調査概要
[兵庫県]	
	姫路市埋蔵文化財センター
	発掘調査速報2010
[奈良県]	
	田原本町教育委員会 文化財保存課
	唐古・鍵考古学ミュージアム「ミュージアムコレクション」 Vol.3
[鳥取県]	
	鳥取県埋蔵文化財センター
	「調査研究紀要」3
	三朝町教育委員会
	町内遺跡発掘調査報告書
	名勝及び史跡 三徳山 発掘調査報告書
[島根県]	
	島根県埋蔵文化財調査センター
	「久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西 遺跡・草城西 遺跡・原浜遺跡」一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6
	「古代文化の郷出雲 史跡出雲国府跡」風土記の丘地内遺跡発掘調査速報 9
	「志谷 遺跡・安神本遺跡」中国横断自動車道尾道松前線埋蔵文化財調査報告20
	「庄遺跡・深坪遺跡」(仮称)宍道駅南団地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	「砂原車廻古墳群・砂原 遺跡」一般県道多伎インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	「大志戸 鉢跡 分析篇」中国横断自動車道尾道松前線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書17
	「堂々ノ内 遺跡・堂々ノ内 遺跡・堂々鉢跡」中国横断自動車道尾道松前線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書19
	「堂ノ上遺跡」一般県道久城インター線久城工区地域活性化力基盤創造交付金(改良)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	「梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡」一般国道9号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書3
	「道休畑遺跡」一般国道9号(浜田・三隅道路)建設予定地内発掘調査報告書1
	「山陰の近世・近代遺跡」山陰史跡ガイドブック5
	「山持遺跡 Vol.6」国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8
	石見路の言伝 特別号
	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報18
	島根大学ミュージアム
	島根大学旧奥谷宿舎
	ニュースレター「SHIMADAI MUSE」
	平成21年度 島根大学ミュージアム年報
[岡山県]	
	総社市教育委員会
	総社市埋蔵文化財調査年報19
	総社市埋蔵文化財調査年報21
	津山市教育委員会
	県営ほ場整備(久米地区)に伴う試掘確認調査報告書」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第80集
	津山城だより 14
	年報 津山弥生の里 第17号
	山根地A遺跡・下石屋遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第81集
[広島県]	
	広島県教育委員会事務局管理部文化財課
	平成20年度広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書
	(財)広島県教育事業団
	「ひろしまの遺跡」第103号
	財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第31集 曾川1号遺跡(L・M地区)
	財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第34集 国営備北丘陵公園整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 浅谷山西古墳・浅谷山1号遺跡・小深遺跡
	年報3
	年報4

	福津市文化財調査報告書 第2集 「手光於緑遺跡第2地点」
	年報5
	年報6
	ひろしまの遺跡 第104号
	広島県立歴史博物館
	広島県立歴史博物館ニュース 第83号
	広島県立歴史博物館ニュース 第84号
	広島県立歴史博物館ニュース 第85号
	[香川県]
	香川県埋蔵文化財センター
	一般国道11号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告別宮北遺跡・別宮北古墳群
	香川県埋蔵文化財センター年報 平成21年度
	弥生時代の大集落 - 旧練兵場遺跡の発掘調査 -
	[高知県]
	高知県教育委員会
	高知県埋蔵文化財年報 7 平成20年度
	埋文こうち 第23号
	[福岡県]
	福津市教育委員会
	[熊本県]
	熊本県立装飾古墳館
	秋季企画展「茨城県の装飾古墳～建借間命が遺したもの～」展示図録
	春季企画展「原口文庫」解説書
	熊本県文化財資料室
	熊本県文化財調査報告第250集 太郎丸遺跡 西屋敷遺跡 瀬萩遺跡 九州新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
	熊本県文化財調査報告第251集 舟渡城跡 一般県道相良人吉線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査
	熊本県文化財調査報告第252集 瀬田池ノ原遺跡 国土交通省立野ダム原石山事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
	熊本県文化財調査報告第253集 小園遺跡 九州新幹線新八代・博多間建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告
	熊本県文化財調査報告第254集 八代平野干拓遺跡群 高田手旧堤防・四百町開旧堤防 宮地小畑遺跡・宮地観光寺遺跡 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
	熊本県文化財調査報告第255集 上小田宮の前・養寺遺跡 県道瀬川玉東線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
	熊本県文化財調査報告第256集 二本木遺跡群 熊本合同庁舎A棟新宮工事に伴う二本木遺跡群春日地区第8次埋蔵文化財発掘調査報告書
	熊本県文化財調査報告第257集 小野原遺跡群 黒川広域基幹河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第1分冊
	熊本県文化財調査報告第257集 小野原遺跡群 黒川広域基幹河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 第2分冊
	文化財通信熊本 第28号 平成22年3月
	[鹿児島県]
	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書146 宮の上遺跡 南薩縦貫道(川辺道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書147 尾付野山遺跡 向井原遺跡 国道504号(薩摩道路)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書148 油免・本寺遺跡 国道226号特殊改良工事(万世拡幅)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書149 芝原遺跡1 中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書150 神水琉遺跡4 中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 縄文時代前期末から中期前半・補遺篇 第1分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書150 神水琉遺跡4 中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 縄文時代前期末から中期前半・補遺篇 第2分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書151 渡畑遺跡1 中小河川改修事業(万之瀬川)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書152 狩俣遺跡 建山遺跡 西原段 遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書153 定塚遺跡・稲村遺跡 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 付図
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書154 加治木堀遺跡 宮ノ本遺跡 椿山遺跡 柿木段遺跡 野方前段遺跡A地点 東九州自動車道建設(曾於弥五郎IC～末吉財部IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書155 栲城跡 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXX 第1分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書155 栲城跡 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXX 第2分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書155 栲城跡 南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXX 第3分冊
	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書155 付図

9 講演会要旨

(1) 秋季講演会『ぼくとわたしの考古学 - 麦わら帽子の記憶 - 』

講師：菅本啓子氏（三田市生涯学習課）

1 はじめに 自己紹介より

兵庫県三田市生涯学習課の菅本です。今回の講演では、三田市が取り組んでおります資料（考古資料、民俗資料）の活用方法として

- 1 箱地図プロジェクト
- 2 学校博物館
- 3 ぼくとわたしの考古学

の3つについてお話しさせていただきます。

迷いながらも進めているわたしたちの取り組みをみなさんに知っていただき、ご意見をいただけたら、また新しい資料の活用方法があるかと思い、お引き受けしました。拙い話ではありますがどうぞよろしくお願ひいたします。

みなさんの中には三田市という名を初めて聞かれる方もいらっしゃると思います。そこで少し三田市の紹介をさせていただきます。

三田市は兵庫県南東部に位置し、現在、人口約11万人で「人と自然がかがやくまち」をスローガンにしています。

江戸時代には、中国の青磁にも遜色をとらないといわれた三田青磁を生み出した町でもあります。残念ながら三田青磁は昭和初期に途絶えてしまいましたが、発掘した登り窯を三輪明神窯史跡公園として整備し、体験学習施設では青磁の伝承体験をおこなっています。

市の中央を武庫川が流れ、市街地が広がって



ます。また29年前にニュータウン（大阪駅までJRで約50分）が開発され、人口増加率も全国1位になりました。それに伴い、遺跡の調査も急増し、古代の三田市の姿も少しずつ明らかになってきました。

しかし、現在では大規模開発も少なくなり、圃場整備なども一段落、何年にもわたるような大規模調査はなくなりました。専門職員の数が減り、コンテナ約7000箱分の遺物が残りました。

この遺物コンテナを前に苦悩した結果、今回の講演に呼んでいただけるきっかけとなりました箱地図プロジェクトが生まれます。

2 箱地図プロジェクト - 遺物活用の模索 - 「このコンテナどうする気や」

2008年私は、屋敷町遺跡で発掘された遺物整理を行っていました。ある日生涯学習課長がやってきて、コンテナの中に埋もれるように仕事をしている私を見て、「このコンテナどうする気や」と聞いたのです。彼は三田市立有馬富士学習センターの創設に関わり、センターを県内有数の集客数を誇る施設にしています。今度は文化財を何とかするぞ！との思いでやって来られたのでした。

「どこでもコンテナ使ってるやろ。集めたらおもしろいやろなあ」「考える！」。考えてみると、発掘には欠かせないコンテナの中には遺物を収納するとともに発掘担当者の思いも入っているに違いありません。

「コンテナを展示するのでコンテナの中にあなたの思いを詰めてください。」とこんな依頼文を全国に送ることとなりました。卒業以来会った事もない友人や知り合いのそのまた知り合いとかを紹介してもらいお話ししていきました。こちらの調査部長の西田茂さんが夫の大学の先輩で、西田さんから藤井さん（展示室担当）を紹介していただきました。不安でいっぱいながらも最終的には、全国30都道府県から40個のコンテナが集まりました。

集まったコンテナを前に、皆さんの遺跡・遺物への思い、そして地域への愛着を強く感じました。だれもが自分が住んでいる地域の事を知ってもら



いたいし、その方法を考えているということです。

【各地のコンテナから】

各地のコンテナからは地域色豊かな香りがします。山口県下関市人類学ミュージアムからは「砂に守られた遺跡」というタイトルの文章と弥生人骨を守った砂を送っていただきました。沖縄県名護市から、発掘された貝殻とメッセージが寄せられました。また東京都埋蔵文化財センターからは、今すぐ授業ができそうなセットにして送られてきました。そして、北海道埋蔵文化財センターからは貴重な白滝産の黒曜石です。

発掘道具にも地域性があり、思わず「うまい！」と言ってしまったような工夫の凝らされたものもあり、調査員、作業員、補助員の方々の苦勞の末の道具であることがよくわかります。

【コンテナで日本列島をつくる】

これらのご協力で集まったコンテナを使って日本列島のモデルを作ります。実際にはコンテナの大きさにも違いがあり、なかなかうまくいきません。富士山をつかって高低をつける、川の位置を書くなど試行錯誤の末になんとか形にできました。

【造形作家との連携】

「箱地図プロジェクト」のもう一つの試みは、三田市内の造形作家との連携です。今回は4名の作家と神戸芸術工科大学教授山崎均氏にコーディネーターとして参加していただきました。「考古学」の世界(遺物・遺跡)を違う目で見てみたら、それはどんなものになるだろうか。作家の目を通して形にしてもらい、その作品を通してより多く

の人を引き付けたらそれも考古学へのきっかけの一つになると考えました。

【箱地図プロジェクトの反省と展開】

「箱地図プロジェクト」は平成21年10月1日から10月3日の3日間開催しました。三田祭りの日と合わせJR三田駅前の商業施設を展示場所とし、多くの人にきていただきたいと願いました。期間中500人の来場者がありました。

祭り当日の初日は、ワークショップを開催した事もあり多くの来場者がありましたが、それ以降は伸び悩みました。展示方法については、説明文を極力少なくした事もあり、スタッフが説明しないとよく意味が解らないというのが本音のようでした。来場者の多くが私達との会話の中で、「あっ、そーかぁ」「すごいねえ」と、発見していきました。しかし、この方法ではどこまで広く伝わるのかという不安は残りました。特に子どもたちには難しいとおもわれました。

展示を片付けながら次の活用法を考えます。全国各地からいただいたコンテナを、学校で子ども達向けに展示してみたいと考えました。



3 学校博物館

コンテナの日本列島を前にして、ますます、三田市出土の遺物を活用しなければと考えました。収蔵センターで待っているだけではだめ、学校の出前授業を宣伝してもさほど需要があるわけではなく、やっぱり待っているだけではだめなようです。積極的に出て行こう！まずは学校へということになりました。

ニュータウン開発が一段落し、人口も落ち着い

た三田市の小学校には、「余裕教室」ができてはじめてました。そこで教室を利用した資料の活用方法として学校博物館を提案しました。

【学校博物館のオープン】

学校博物館は平成21年11月30日、三田市立つつじが丘小学校新校舎2階に開館しました。

つつじが丘（ガーデンタウン）は三田市北部に位置し、車で5分も走れば日本六古窯の一つである立杭焼の里、丹波市今田町に隣接しているニュータウンです。

つつじが丘小学校は1991年に開校し1997年度には、児童数が1300人を超えたマンモス校でした。しかし、近年では380人前後の児童数になっています。当然余裕教室ができていました。

学校博物館は新校舎と呼ばれている別棟のプレハブ校舎で、内部は当時流行だったオープン教室になっています。廊下が教室と同じ広さで、間仕切りをとるとより広いスペースが確保できました。

【学校博物館のご案内】

学校博物館は大きく4つのコーナーで構成されています。

(1) 「昔の暮らし」体験コーナー

夏休み中に考古資料と民俗資料を運び込み、何年も使われていなかった教室を掃除すると、部屋の広さが気になりました。そこで、先ず有馬富士学習センターに展示されていた8畳の部屋を移築して昭和初期の部屋を再現しました。



内部の資料は市民から寄贈された生活用具です。ちゃぶ台を囲み、ご飯をよそい、電話を回したりと、当時の人々の生活を実感し、知恵や工夫を発見してほしいです。季節にあわせて、展示内

容の変更もしています。例えば、2月からは3年生の「昔の暮らし」に対応した内容になります。

(2) つつじが丘小学校ってどんなところ？

壁画と階段画でアピール

次は学校の許可を得て壁に直接絵を描くことにしました。スタッフが壁や窓を大きなキャンバスに見立ててどんどん書いていきます。学校だけでも、ここからは違う世界が始まるんだという、ワクワク感を増すために階段には大きな勾玉が出現します。



つつじが丘周辺は平安時代の一大窯業地帯です。大きな登り窯を書き、その下に灰原出土の土器をつんでみました。自分達が進学する中学校、利用する市民センターの場所が1000年前にはこんな風景でした。そして当時の人がさわった焼き物ですよ。1000年前の人が手にとったものを今あなたがたがまた手にとっている。過去が現在と繋がっている事を実感してほしいのです。

「そっとさわってみてください」のキャプションは千葉県埋蔵文化財センターからいただいた、関東ローム層の土をニカワでといた「縄文絵の



具」で書きました。ある日保護者が来られて「さわらないでください」という注意書きはみた事があるけれども、触ってくださいというのは知らないなあといわれました。

(3) 14000分の1の日本地図

この校舎には広い廊下があります。この廊下に日本列島を書いてしまおう。そうすれば箱地図プロジェクトもできるし、授業にも使えます。

でも、日本地図を書いただけではおもしろくない。やっぱりパズルをつくったらどうだろう。そのパズルを三田市指定のゴミ袋で作成することにしました。破れてもすぐに再生可能です。収納場所もとりません。作成時には子ども達も手伝ってくれました。限られた予算とスタッフで絞り出した知恵と工夫です。

(4) 発掘調査事務所

発掘調査の現場事務所も教室内につくってみました。当初の間仕切りを残し、アングル棚に資料を並べてコンテナと作業机を置きました。私たちの作業もこの調査事務所で行っています。先生との打ち合わせもこの場所で行いますが、夏は暑くてとてもこの事務所にはいられません。

【学校博物館始動】

11月30日いよいよオープンです。オープニングイベントとして「古代の暮らし体験」と題し、土器でご飯を炊き子ども達に試食してもらいました。それは火やご飯が炊ける匂い、そして土器が道具だったんだと実感することに繋がってほしいと思いました。

開館日は火・木・金で9:00~16:45としました。学校の子供達は20分休みと昼休みにやってきます。子ども達の学びを深める施設であるので、利用は事前申し込み制とし、学校と地域の団体のみの利用としました。

【活動報告 真の連携を目指して】

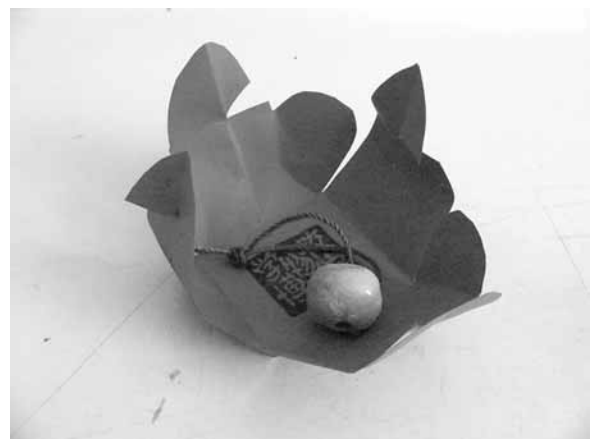
(1) つつじ焼

自然クラブの子ども達が、担当の先生に「これ粘土？」と土を持ってきた事が始まりです。子ども達は学校の裏山探検に行って「この土は？」と感じたのでしょう。先生から預かった土は200グラムほどの粘土のような土でした。試しに作って

それを消防訓練の時に焼いてみると、うまく焼けたのです。「さすが1000年前の一大窯業地帯だけのことあるやん！」と先生方と盛り上がりましたが、このつつじ焼が、自分達の地域を知るきっかけとなり、さらに、つつじが丘小学校オリジナルカリキュラムの作成へと展開していくきっかけとなりました。

自然クラブの子ども達が発見した粘土なので、自分達の手で焼き物を作ってもらいました。クラブ活動の時間を使い作成、乾燥、焼成（校庭で野焼き）を行いました。作る過程を大事にし、土器が自分達と繋がっているかもしれない古代の人々の生活の道具である事を感じてほしかったのです。子ども達にとって、自分が発見した土が形を変え道具となる。その中で感じたこと、発見した事、それが体験であり子ども達による地域遺産の再発見です。この小学校周辺の土は卒業記念品の「土玉」にもなりました。

古代の人々が玉に思いを込めたように、私達もそれぞれの思いを伝えたいと考えました。校長先生には「つつじ焼」の命名とデザインを考えていただき、教頭先生には「卒業おめでとう」と書いていただきました。担任の先生にはメッセージを書いてもらい、玉の制作と箱詰めは私達が行いました。私達の思いは卒業生たちに届いたでしょうか。この土玉を見て、自分が卒業した学校、そして地域をいつまでも思ってくれる事を願っています。



(2) つつじが丘小学校校内研究テーマ（平成22年度）に沿ったプログラム作り

地域にある学習素材を教材化し、体験活動として取り入れることから、学習への興味関心を掘り

起こし、追求・発見していく力を身に着ける事を目指します。そのための資料の提供、そしてプログラム開発を学校博物館が担当します。先生達と会話の中からプログラム化できそうな素材を提供し、授業で実践してカリキュラムとして完成することになります。

今までに実施した授業を紹介いたします。

「狛犬プロジェクト(学校、大学、博物館連携)」

つつじが丘小学校の校区にある大川瀬地区には室町時代に建てられた国重要文化財の本殿を持つ大川瀬住吉神社があります。

小学校の3年生は地域学習でこの神社を訪れますが、校長先生にはこの機会が子ども達の中で生かされていないことを気にされていました。行くだけで強く意識されることが無かったのです



三田市では三田の文化財シリーズ「三田の狛犬」を刊行しました。この本は市内の小学校に配布され図書室で利用されるはずでしたが、こども達が手に取ることはなく、先生の教材にも利用されませんでした。

そこでこれらを活用し、地域の文化財再発見のきっかけ作りとするために5年生の図画工作科の授業で「狛犬」を取り上げる事にしました。

学校博物館ができることは何か？図画工作科授業として取り組むためには、造形的な工夫も必要ではないかと考え、箱地図プロジェクトで知り合った神戸芸術工科大学山崎均教授に相談したところ学校、神戸芸術工科大学、学校博物館の連携事業を実施することになりました。

その結果、ダンボール箱を使って「狛犬」を作

ることになりました。一体につき100個(1クラス対=200個×2クラス)のダンボールを使い、狛犬を制作します。見込みでは高さ約160センチメートルの大型のものになりそうです。

製作に当たり、このプロジェクトの目的を整理しました。

1 自分達の生活の中でも目にする事が多い「狛犬」を題材にした造形表現を通して、地域文化財についての理解を深めること。

2 小学校、博物館、大学の三者連携により、単独では成し得ない授業を行うこととしました。

この目的のもとに、三者の役割について整理しました。特に学校博物館の役割は狛犬についての資料提供および三者間の連絡調整。大学の役割は教材研究の支援及び授業内容の提案と検証ということになりました。

このプロジェクトの学校授業としてのねらいも重要です。まずは平面による表現(版画)を行い、その次の展開として、「立体による表現」に取り組みます。製作に当たっては過程を重視し、その途中でのオリジナルな発見を引き出すため、狛犬の特徴をどのような形に表現するかは各グループで構想させ、実現のための試行錯誤を経験させることとしました。



実際の作成は4回に分けて行いました。

第1回 スタイロフォームでひながたを作る

第2回 段ボールを組み立てる

第3回 装飾をする(狛犬の要素を入れる)

第4回 装飾をする。まとめ

以上の通り、地域の文化財を活かした授業を行いました。今後、つつじが丘小学校にとどまら

ず、市内各学校の校区の文化財を活用した、幅広い授業プログラムの提案をめざしています。

「エコエコタイムスクープ」

次は箱地図プロジェクトの資料を活用した授業例を報告いたします。小学校4年生は環境を学ぶために、社会見学でゴミ処理場と水道施設に行ってきました。

その学びを深めるために、縄文時代・奈良時代・江戸時代の人々の暮らしに迫ります。

学校博物館には滋賀県粟津湖底遺跡出土の貝や千葉県の大塚の貝があります。これらは縄文時代の人々が残したものです。これらの遺物を使い、今の自分達の生活を考え、そして未来へと考えていく授業プログラムの提案を行いました。

授業は学校博物館で行われ、子ども達はここでタイムスリップしてそれぞれの時代に行くという設定をしました。私達が当時の暮らしを再現し、子ども達の質問に答えるというかたちです。

ここで私たちが伝えたいことは、いずれの時代の人々も、エコやリサイクルを考えながら生活をしていただけではなく、人が生きていくための知恵や工夫が、今となってそのように考えられているだけではないのかということです。いつの時代でもその当時の人々の知恵や工夫がある。とすれば、もちろん現代の生活の中にも人々の知恵や工夫を見いだすことができると思います。

第1回「縄文人の暮らし」

まだ歴史を学んでいない4年生なので、最初に時代年表で大まかな時代を頭に入れます。

当日はトライやるウィークの中学生4名も参加しました。これは兵庫県が行っている職場体験事業です。中学生は小学校の仕事を体験しに1週間来ていました。そこで彼らに体験学習の主役を演じてもらう事にしました。

火おこし、木の実をすりつぶす、土器作り、そして石で魚をさばく。

火おこしは、弓きりを使います。猛練習の末に火がつきました。

魚をさばく石は北海道の黒曜石です。埋文セン

ターから箱地図の時にいただいたものを使用します。三田ではほとんど出土していませんが、子ども達にとって石で魚をさばくことが驚きだったようです。石が道具なのだ実感してくれた瞬間でした。



このように縄文時代にタイムスリップしている間に、こども達の好奇心はどんどん広がります。

こどもたちは縄文時代においての亡くなった人たちの葬り方が気になりました。授業が終わり何人かが私のところへやってきて、そのことを質問します。そこで「それってどこへ行ったら見る事ができるの?」と聞いてくれました。「兵庫県立考古博物館へ行ったらいいよ」と説明しましたが、私にはそれがとてもうれしく思われました。子ども達の深い学びにつながる手助けができたと感じました。

第2回「奈良時代の暮らし」

子ども達はノートと文房具を持って学校博物館へやってきます。そこで今回は身近な文房具にスポットをあてました。

奈良時代の木簡の話をして、「せんとかん」で話題の平城京出土の木簡で盛り上がりました。子ども達にとっては木を削って再利用する行為よりも木を用意することが果たして自然に優しいのかという意見がでました。自分達なりに考えたのです。

私達が考えもしなかった質問もその時間内で次から次へと出てきます。「犬はどこで飼っていたのか・・家の中なのか外なのか?」など、今やっている内容と関係ないと思ってしまうのですが、子

ども達の頭の中ではみんな繋がっているようでした。

第3回「江戸時代の暮らし」

三田藩主、九鬼氏が住んでいた陣屋跡が今は三田市立三田小学校になっています。この陣屋を中心とした遺跡が屋敷町遺跡と天神遺跡です。

天神遺跡は三田の弥生時代を代表する遺跡ですが、江戸時代には武士の居住区でした。また屋敷町遺跡は、陣屋に近く上級武士の屋敷がありました。

この天神遺跡から出土した土器を使って江戸時代暮らしの一端を考えてみる事にしました。

使う土器は便壺です。ちゅうぎも出土していません。そこで便壺から江戸時代のリサイクル社会を考える事にしました。

当時の人々はエコやリサイクルという意識ではなく、自分達が生きていく中で何を大切にし、どうすればそれが守れるのかを生活する中で生み出した事、つまり知恵や工夫を伝えたいのです。

便壺から、し尿をくみ運び、野菜を育て、・・・というサイクルを再現したのですが(子ども達は「トイレ」「便」というと違うように盛り上がるのではと先生方と話していたのですが・・・)子ども達は、自分達でリサイクルの絵を描いていきました。今回、出土品を使いアカデミック(校長先生の評価では)に描く事で、子ども達は触れたい



けど触れたくないような世界にストレートに入る事ができたと感じました。ホンモノ(出土品)がもっている力を強く感じる事ができました。

「遺跡の土で土器づくり」

天神遺跡とならぶ三田市の弥生時代の代表的な



遺跡である三輪・餅田遺跡の土は真っ黒で粘土質です。その土で土器を作ってみよう。つつじ焼で土器作りに目覚めた私達は考えました。

遺跡から持って帰ってきた土を砕き、こして練ります。次はいよいよ土器作りです。製塩土器風を40個作りましたが、どこで焼こうかと考え、神戸市立博物館が夏休みに実施する野焼きの時に焼いてもらう事にしました。結果は博物館が作成した土器(子ども達作成)約60個は全滅で、三田の土器はすべて焼きあがりませんでした。原因は乾燥不足ではないかと思われましたが、不思議なことに神戸の粘土が、野焼き用として業者から購入したもので、とてもきめが細かくて作りやすい粘土だったことも要因にあったようです。

土器が焼けました。次は私達の生活に欠かせない塩作り(製塩土器)をしてみようということになりました。三田市内からは古墳時代と奈良時代の製塩土器片が出土しています。

海がない三田でどのように塩を手に入れていたのでしょうか。校庭で塩作りを行い、今の生活の中に当たり前にあるモノや食品をじっくり見るきっかけ作りになって欲しいと思いました。夏休み中に土器を焼き、保護者にも協力いただいて塩水を手に入れ、2学期に向けて試作します。これは5年生の授業に取り入れてもらうように準備中です。

【学校博物館の課題と今後の展開 学校博物館活用のひろがり】

現時点では、他校がつつじが丘小学校学校博物館に来館して、体験学習を行った事はありません。学校博物館のプログラムは市内小・中学校に公開

していますが、つつじが丘小学校のためだけの施設かという声が聞こえてくるのも現実です。

プログラムが充実し、授業にも取り入れられる事が増えればふえるほど、そんな声のでてきます。しかし、私達ができる事は、学校や先生の「地域の歴史を中心にして、過去の学習から自分の住む地域に愛着を持つ、そこから自分の未来や地域の未来を見通す子ども達を育てたい」という声に答え、学校と共に子ども達の学習を支え学ぶ意欲に火をつける。教師の教える意欲と楽しさを深めてもらう。そんなプログラムを共に作って行くことが学校博物館活用のひろがりにつながると考えています。そのために柔軟性のあるプログラムを開発し、学校との真の連携を目指していきたく考えています。

4 ぼくとわたしの考古学

～おかあさんの考古学・おっちゃんおばちゃん
の考古学・ぼくとわたしの考古学～



これらは三田市が発行している本のタイトルです。「考古学」をこれまでのものとは異なった視点で語った内容となっています。

「おかあさんの考古学」はその名のとおり、整理員・補助員さんとなったお母さんの目から見た「考古学」を描いています。

私がもう一度考古学の仕事をするきっかけとなったのが「おかあさんの考古学」です。家の本棚でたまたま見つけ、読み終わるとすぐに三田市文化財課に電話しました。このような視点で考古学を捉えている、こんな本を作った人達と仕事がしたい。そんな思いでした。

「おっちゃんおばちゃんのお考古学」は作業員さんにスポットをあてました。いずれも好評をいただいております。

3冊の中で「ぼくとわたしの考古学」がこれから刊行される予定のものです。私が編集を担当しております。今回は間に合いませんでしたが、「おっちゃんおばちゃんのお考古学」に登場する女の子が主人公です。少女の目を通して見た考古学、少女の成長とともに考古学を取り巻く状況の変化とリンクさせながら、大人となった未来の少女から見た考古学を描いています。



その中では箱地図プロジェクトや、学校博物館活動などお話しさせていただいた資料の活用、地域文化財の再発見などもとり入れる予定です。どうぞご期待ください。

5 おわりに

迷って悩んで、それでも何かを行わないといけないという、強迫観念にも似た感情で毎日本当に走っています。

そんな中で少しずつですが、先生達にも受け入れられ、部外者扱いされなくなった今、これらが正念場だと思っています。

子ども達がどこかの博物館に行って、「この土器の土の色ってつつじとちがうなあ」などと言ってくれたらどんなにうれしいでしょうか。

旅行で訪れた地で「狛犬」を見てきたよ！と教えてくれたら感激です。

三田市ではこれからも、子ども達が地域の歴史に目を向けるきっかけ作りができる、資料の活用方法を考えていきます。そして皆様にまた新しいご報告ができるようにがんばっていきます。

最後まで私の拙い話にお付き合いいただきましてありがとうございます。

また、このような機会を与えて下さいました北海道埋蔵文化財センターの皆様には感謝いたします。本日はありがとうございました。

(2) 冬季講演会「北海道埋蔵文化財行政の黎明期 - 苫小牧市 - 」

講師：佐藤一夫 氏（元 苫小牧市埋蔵文化財調査センター所長）

1. 苫小牧市の概要



苫小牧市の地球上の位置は、北緯42度37分53秒、東経141度36分34秒。札幌市は、北緯43度ライン。ミュンヘン、札幌、ミルウォーキー。北半球でビールが美味しいと有名な都市が、この北緯43度ラインに並んでいる。苫小牧市と同じ北緯ラインに並ぶのは、トルコのイスタンブール、イタリアのナポリで、世界の中で気候条件が良いといわれている都市があげられる。苫小牧市は、南北が23km。東西が約40km。横に長い。面積は560m²。あまり大きな面積ではない。

苫小牧の地名は、「ト」+「マコマイ」と合わさったアイヌ語が語源。「ト」は「沼」のことを指し、「マコマイ」は「山の方にむかって流れている川」という意味。あわせて、「沼から出ている川が山の方にむかって流れていく」という意味で、苫小牧の名前がつけられた。

気温が、年平均7度。湿度が、年平均80%。湿度が高いけれど、温度があがらない。空を見渡して、雲がなく晴れ渡っている「快晴日」は、年間50~60日しかない。1年の内、ほとんどが曇っている、もしくは雨が降っている街といえる。その理由は、苫小牧が太平洋岸に位置していることによる。ここで寒流と暖流がぶつかって、「ガス（霧）」が発生するためだ。霧の都といえば、北海道では釧路、世界ではロンドンだが、苫小牧もこれからの時期、2月の終わりから3月にかけてと4月から7月にかけての2回にわたり、海から「ガス」がかかり、陸上を覆ってしまう。気象条件が非常に悪いがゆえに、大きな開発もされず、昭和の半ばまで、大湿原が広がる街として残されたのだ。

2. 苫小牧の歴史

『日本書紀』

苫小牧市が歴史上に登場してくるのは、『日本書紀』。658（齊明天皇四）年に、「阿部臣比羅夫が180艘の船団をひきいて、蝦夷を伐った」という記述がある。さらに、翌年には「津軽や胆振^{いぶりさへ}の蝦夷を集めて、饗宴をした」とある。

「津軽」は今の青森地方であると考えられるが、問題になるのは、「胆振^{いぶりさへ}」の地名解釈。江戸時代から諸説を出されており、そのひとつに、河野広道などが提唱した苫小牧の勇払地域を指すという見解がある。この記事以前に、「ししりこ」や「後方羊蹄^{しりべし}」などの地名が出ており、「ししりこ」は千歳に該当する地名、「後方羊蹄」が羊蹄山付近だとすると、「胆振^{いぶりさへ}」は、羊蹄山南部の地域となるのではないかというものだ。この内容は、阿部比羅夫が北海道を治める役所をおいたというくだりに出てくる。

『吾妻鏡』と『新羅之記録』

次に歴史書に登場するのが、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』と、松前藩の記録書である『新羅之記録』。両書に鎌倉や京都で犯罪を犯した罪人を、蝦夷ヶ島に流したという記録がある。蝦夷ヶ島とは、鎌倉時代の「北海道」を指す言葉。この流された罪人は、西方余市、東方鶴川、石狩低地帯の南側に居住したという記載がある。苫小牧市は、東方鶴川の西手前になるため、その当時から人が住んでいた可能性がある。苫小牧市の発掘調査のなかで、鎌倉時代の資料とはっきり位置づけられるものは、残念ながらまだ出土していない。

「シコツ」の弁天社

江戸時代となり、松前藩がいろいろな記録を残すようになる。1780（安永9）年、松前広長が『福山秘府』を記した。蝦夷地の神社について記述した部分に、「シコツ」（今の千歳市）に弁天社を立てたという記録がある。この弁天社は、道南地方を除いた石狩低地帯では一番古い神社となる。

シャクシャインの戦い

1669（寛文9）年に、シャクシャインの戦いがおきる。この時に勇払の近くの真小牧で、船が襲われ、鷹匠が殺されるという記述が出てくる。

鷹匠の仕事は、鷹狩りを行うことだけではない。北海道は、鷹の産地として有名だったが、その中でも一番良いとされたのが、「マコマイ」のもの。当時、真小牧周辺は、鬱蒼たる森林地帯で、そこに鷹のオスとメスがペアになって巣をつくる。その巣を管理するのも、鷹匠となる。鷹匠が管理する場所を鷹場というが、オス、メス、ペアリングして巣ができると、巣めがけて木によじ登り、自分の刀の小柄こづかを巣の中に入れる。鷹の巣の所有を証明するため。鷹の子がかえると、松前藩に「どここの鷹の巣で、雛がかえった。それは自分の所有する物」と申請し、巣から飛び立つ直前に捕まえて、松前藩に売る。松前藩は、その鷹を各大名に売ったり、將軍家に献上したりした。それが金と並ぶ松前藩の大きな財源となった。

八王子千人同心

その後、1800（寛政12）年に、八王子千人同心が苦小牧に入植してくる。戦国大名だった武田家は、織田信長の時代から隆盛を極めたが、徳川の世になり、滅んでしまう。その際、徳川家康は、優秀な武田の家来をまとめ、普段は百姓をしながら生活し、有事の時は武士になることとし、八王子市の近くに住まわせることにした。

ところが、徳川幕府は265年の世となり、はじめのうちはよかったが、後半は、屋台骨が揺らいできた。長男は、家督を継ぐことができたが、次男、三男以下は、生活が立ちゆかなくなり、婿養子になるものがあらわれた。江戸八百八町、吉原や下町で悪さをするのは、八王子千人同心だという事態になり、原半左衛門という、その当時の組頭が、風雲急をつけていた蝦夷地に開拓、警備にしようという提案をした。そのような状況下で原半左衛門とその弟の原新助という2名が、100名の子弟を連れて勇払に入植する。その頃の勇払原野は、百姓をやろうと入植し、コメやイモを植えてみても、全く実らない土地であった。そのため、さらに鶴川の汐見に移住した。そこは大きなアイヌのコタンがあり、ある程度成功し、アイヌの人たちとも仲良くなるが、3年かからずして、失敗に終わる。現在、苦小牧に残っているのは、蝦夷地移住隊士の墓という20基ほどの墓碑だけで、そ

の中で千人同心のものは6基ほどしかない。

王子製紙の進出

明治時代、開拓使が国の事業として、ビール工場、麻工場、マッチ工場などの事業展開をし、このような官営事業と並行して、王子製紙の工場が苦小牧につくられた。支笏湖から流れる千歳川。ここに第1から第4までの水力発電所をつくり、電気エネルギーを作り出し、樽前山、風不死岳、恵庭岳の周辺には、エゾマツ、トドマツの原生林がつづいている。その木材を原料にし、広大な敷地に工場を建てた。明治43年に王子製紙が作られ、苦小牧市の経済的基盤が安定したといえる。

苦小牧工業港

次の画期となったのは、苦小牧工業港である。

昭和になるまで、苦小牧には「港」がなかった。普通、川は海に近づくと河口が開いていくが、苦小牧の場合、とくに勇払川の河口は、砂堤列が9本連なっていた。川が砂堤列にぶつかると、左か右にふれていく。勇払川の場合には、右側にふれていき、現在の苦小牧工業港に向かって平行に流れている。江戸時代には、そこに千石船が停泊し、天然の良港だった。

大正の頃、日本海と太平洋をむすぶ運河をつくらうという事業がもちあがる。最近は、いくつかわかってきているようだが、江戸時代には陸路というものがほとんどない。探検家や旅行者は、多くの場合内陸に入ると川を利用した。勇払の河口からさかのぼり、美々川を通して、陸路を少し歩き、千歳川をくぐると、日本海側に出ることが可能。これが江戸時代の主要な内陸水路で、いわゆる千歳越え、「ユウフツ越え」とよばれていたものである。これになぞるわけではないが、大正後期から昭和初期にかけて、北海道庁技師・林千秋により、石狩炭田の石炭積出港として計画された「勇払築港論」が登場した。しかし、日清、日露戦争や、第2次世界大戦の影響で計画が頓挫する。

戦後、昭和26年になり、改めて苦小牧工業港をつくる計画がでる。下は泥炭層、上は樽前山、恵庭岳の火山灰層という2層構造になっている勇払原野を掘り込み港をつくる、内陸掘り込み式という工法により港をつくらうという遠大な計画が持

ちあがったのだ。昭和26年から工事を開始して、昭和38年の9月には第1船がはいるので、かなりの急ピッチで工事がすすめられたことがわかる。この港をつくるために掘りあげた土が、イオンなどの商業施設がある明野地区の埋め立てに使われた。苫小牧工業港は、当初から工業用に造られ、それに合わせてトヨタやいすゞの工場が周辺にでき、現在は、工業都市のイメージが定着している。

天然ガス

現在の苫小牧を代表する事業となっているのは、天然ガスである。火山灰層と泥炭層の下、地下4000mから5000mの所、地球の核にあたる花崗岩の中に、天然ガスが大量に含まれている。苫小牧から穂別までは、戦前、戦時中は、油田も掘削していたが、現在は、油田よりも天然ガスが重視され、さかんに掘られている。ボーリングで5000m掘り進んで花崗岩に穴をあけ、そこから吹き上げてくる天然ガスを回収している。札幌の天然ガスは、ほとんどが苫小牧からパイプラインで運ばれたもの。王子製紙や他の企業もエネルギーを天然ガスに切り替え始めており、これからの苫小牧は、天然ガスで動いていくだろう。

3. 考古学的調査における苫小牧

苫小牧で考古学的に歴史がわかりはじめるのは、大昔の人たちが使った土器や石器のことについて、書かれている史料に拠る。

「覚生（オポップ）」

1845（弘化2）年に、松浦武四郎が蝦夷地を探検する。松浦は三重県出身。「北海道」の名付け親。北海道を6回探検しており、1回目の探検の際、苫小牧付近、勇払を回っている。この時の記録『初航蝦夷日誌』に、樽前から錦岡の間に「覚生（オポップ）」という記述がある。「オポップ」とは、アイヌの人たちの「槍（オプ）が見つかった場所」といういい伝えがあり、その地名がつけられたといわれている。苫小牧における最初の考古学的記述が松浦武四郎による「覚生」の記述ということになる。

坪井正五郎の北海道調査

1888（明治21）年、東京帝国大学人類学教室坪井正五郎先生が、北海道へ調査にくる。坪井は、

人類学教室に所属しているが、考古学の大先生で、当時、日本人の起源について研究をされていた。

アイヌの伝説のなかにコロポックルについての話がある。コロポックルとは、アイヌ語で「麓の下に住む小さな人」という意味。この伝説に出てくるコロポックルこそが日本人の起源だと坪井先生は考えられたわけだ。

明治21年9月、坪井先生は、北海道調査の感想を自らが主催する『人類学雑誌』に「石器時代の遺物遺蹟は、何者の手に成たか」というタイトルで報告する。このなかに「(7)胆振国勇払郡苫小牧アイヌの酋長の話」という項があり、「苫小牧坊主山に直径2間ほどの丸い竪穴が2つあり。コロポックルカムイというものの住いし跡という。このカムイは、小さい人にて、麓の葉一枚の下に十人もおりしという。アイヌが増殖するに随っていずこへか移り往けり。諸地方のアイヌに聞きて見れどそのゆくえ知りたる者無し」とある。

苫小牧坊主山に竪穴住居跡が2軒あったという記述があるが、擦文時代のものではなく、縄文時代だと考えられる。この坊主山とは、現在の王子製紙の裏にある、王子製紙所有の山のこと。今までに発掘調査は行われていないが、分布調査では縄文時代中期の土器が出土している。

明治、大正、昭和の初期の考古学に関することは、どこの町のどこから、どのような遺物が出ていると記した『遺跡地名表』が重要な情報源であった。坪井がこの記録を残したおかげで、『遺跡地名表』に苫小牧坊主山の記載が昭和初期まで記されていた。これがモース以降の近代的な考古学的報告としての記録といえる。

美々貝塚の調査

大正7年の話だが、苫小牧東尋常小学校の校長先生で田中正太郎という人がいた。この方は、その後町長を経て、市制最初の市長になった人。田中と、後に小学校の校長先生になった酒井仁之進とは、若い頃、小学校に郷土研究部をつくり、いろいろな調査をされた。『東尋常小学校郷土研究叢書』という本の「苫小牧町史 考古序論」のなかで、「美々貝塚の調査、土俗考」という報告がある。現在、美々貝塚は、千歳市の管轄となつて

おり、その後の調査は千歳市によって行われているが、一番最初の調査は、苫小牧市の人によって行われているのである。

大正12年から15年、苗穂と沼ノ端を結ぶ北海道鉄道の札幌線の工事がなされ、それに際して貝塚が発見されたのではないかと考えていたが、それ以前の大正7年に調査されていて、苫小牧では有名になっていたというわけである。1940年になると、田中、酒井の執筆により『苫小牧町史』が刊行される。この中に、先史時代という章があり、タブコブ遺跡についての記述もみられる。

4. 戦後の発掘調査

文化財保護法の成立

昭和25年に、文化財保護法ができる。この法律ができる前は、大昔の土器や石器は、何の許可もなく、いわば自由に掘ることができた。

ところが、松前城の火災や、法隆寺の火災などがつづき、既存の文化財をまもらなければならないという気運が高まったり、議員立法で文化財保護法ができたわけである。この法律がつけられた時に、はじめて埋蔵文化財という言葉が使われるようになった。埋蔵文化財とは、文字通り埋まっている文化財のことを指し、土の中、川、海の底などに埋もれているものをいう。

文化財保護法という法律ができることにより、許可がない調査ができない状況となった。

苫小牧市文化財保護条例の制定

文化財保護法に関連して、各都道府県で条例がつけられるようになり、北海道は、昭和28年7月に北海道文化財保護条例が、その2年後の昭和30年には、苫小牧市文化財保護条例ができた。この条例で、いろいろな文化財を保護して、活用しようという動きになったのである。

本格的な考古学的調査が行われるのは、昭和28年の北海道学芸大学の河野広道先生の平田遺跡の調査からである。

タブコブ遺跡の調査

その後、昭和30年につくられた苫小牧文化財保護条例に合わせて発掘調査を行ったのは、昭和38年、北海道大学の長瀬利夫先生によるタブコブ遺跡の調査になる。

遺跡の位置は、国道36号線を千歳から苫小牧に向かって走ると、植苗駅にまがる交差点があり、その右手の小高い山の上になる。「タブコブ」とは、「たんこぶやま、円山」という意味。ここを国道の工事に関連して大場先生にお願いして、発掘調査をしていただくこととなった。

苫小牧市へ奉職

昭和41年に、私が苫小牧に奉職した。これには少しいきさつがある。私は函館生まれの函館育ち。大学を卒業した後、地元に戻り、博物館に出入りしていた。その後ある保険会社に入社したが、その理由は新聞広告で東京に半年間研修に出してもらえろという特典をみつけたからだ。東京へ行き、仕事の他に時間をみつけては、上野の東京国立博物館や母校明治大学の博物館に顔を出していた。研修後、地元函館に戻り、2年間は保険会社に勤務をしていた。そんなおり、当時市立函館博物館長だった武内収太さんと同館学芸員だった吉崎昌一さんに「やはり大学で専攻した考古学の仕事がしたい」とお願いしたところ、ちょうど苫小牧市で、開基80周年をすぎ、新しい博物館をつくるというプロジェクトが動き出し、あたらしく人を採用するという話をもらった。これぞ渡りに船とばかりに応募し、採用となった。

図書館付属郷土博物室

最初の勤務地は、図書館付属郷土博物室。そこでは、毎月1回、樽前や静川、支笏湖の近くの丸山などへ、本を100冊もっていき、地域住民にみせる巡回文庫という仕事をしていた。当時は、まだ運転免許をもっていなかったのもので、教育委員会公用車の運転手さんにのせられ、各集落をまわっていた。本を届けて、住民にみてもらいはじめると、周りの野山は、だいたい遺跡なので、土器や石器を求めて、歩き回っていた。

沼ノ端丸木舟の発掘調査

私が苫小牧に就職して、一番最初に歴史に残る仕事といたら、少しおおげさかもしれないが、最初に取り組んだ仕事が、丸木舟の引き上げ作業になる。戦後、春日井、藤田先生など北海道教育大の地質学研究室の方々が、勇払原野の地質調査を行っている際に、勇払川にかかるといって、^{ねん}稔橋の80m下

流の河岸に丸木舟の一部分の見え隠れする状況が確認されたものである。地元の人たちは、この舟は樽前山の噴火により埋もれたアイヌの人たちの丸木舟だろうという予想をしていた。水が増えると消え、水が涸れると見える状況が続いていた。

私が昭和41年に奉職した年が、一番水が少なくなり、舟が河岸から1mほど見える状態になっていた。このままの状況で放置しておく、この舟は流されてしまう危険性が出てきたため、市から私に調査の指示が出たわけである。

そのとき、私は大学をでて2、3年の頃なので、発掘調査担当者をする資格がなく、担当者は、タブコブ遺跡を担当された大場先生にお願いした。

最初は、8mのグリットを設定して、火山灰層を掘って、すんなり舟を掘りあげようとして計画した。

ところが、発掘調査を開始した翌朝から、雨がシトシト降り出し、最後には舟が見えないどころか、土手の上まで水があがる水位になってしまった。このような状況では、発掘調査を継続することができず、3、4日、調査を中止して、様子を見ることになった。当時、私の上司だった方は、「これは川の神を鎮めなければならない」と、お酒を用意して、一升瓶をもって川にはいり、お願いを試みた。その効果があったのかはわからないが、翌日から徐々に川の水も減り、舟の姿が見える状況になってきた。天候が回復してから、発掘調査を再開するが、スコップで掘り進めようとしてもなかなか作業がすすまない。一番深いところは、あとでわかったのだが、4mほどの深さに達していた。そこで、作業の応援に潜水夫を依頼することになった。

翌日からは、毎日、潜水夫に手動で空気をおくるポンプを押す作業が続いた。潜水夫は、川にもぐるとジェットポンプをつかって、舟の周りの火山灰層を水流でよけていく。3艘の作業は、無事終了することができた。その次にとりかかった4艘目が、舟の縁に穴があげられ、側板（舷側版）がつづられたイタオマチップ（板綴舟）だった。この作業は、勤労奉仕隊が担当していたが、非常に苦戦した。もう1艘は、潜水夫が川の中で作業中にみつけたもので、のちに0号艇と名付けられ

た一番大きなもの。舟は、釧路市や旭川市などでも発見されているが、川のなかから掘りあげられたのは、これが最初の例となった。

舟を押す櫂には、アイヌの人たちの刻み目（イトクパヤシロシ）が施されており、その調査結果が明らかになると、連日、新聞、テレビ、雑誌の対応に追われることになった。

調査が終わり、川から図書館まで舟を運ぶことになった。当時の運び方では、クレーンでつりあげ、トレーラーで運ぶという方法がとられることになったが、仕事をひきうけることになった業者も、このような仕事をされるのは初めてだった。そこで運ぶ職員と、作業記録を残す撮影担当職員が参加し、作業が進められた。

舟の保存処理作業

無事図書館に移動された舟は、4年間かけて保存処理を行った。保存処理を担当されたのは、慶応大学教授の清水潤三先生。清水先生は、それまでに千葉で同じような埋没舟の保存処理を担当していた。千葉の場合は、うまくいかなかったが、苫小牧のものは、うまく処理を行うことができた。苫小牧の舟に使用したのは、床磨きに利用するリンレイワックスだった。私の毎日の仕事は、ガソリンをつかってワックスを溶かす作業からはじまり、溶かしたワックスを気化する直前に、舟に振りかけて作業をつづけた。

この丸木舟の発掘調査が、苫小牧市における埋蔵文化財の行政発掘調査の最初、私の苫小牧市での最初の調査ともなったわけだ。

勇払墓地、美々缶詰所の調査

昭和49年には、勇払墓地の調査を行った。前述した八王子千人同心の墓地で、日本ヒューム管の工場敷地内にある。事業が拡大して、ヒューム管を置く場所がなくなったため、勇払の共同墓地を別の場所に移転して欲しいという話しになった。衛生課が中心となり、高丘にできた市民墓地に移築することになった。墓のうわものは、そのまま移築したが、墓については調査が必要だった。

発掘調査の結果、遺体は30体ほどみつかったが、八王子千人同心の墓の下からは何も出てこなかった。どうやら千人同心の墓は、記念碑だったよう

だ。

同年に、美々の鹿肉缶詰所を調査した。苫小牧市にあった官営工場は、この鹿肉缶詰工場だけ。北海道のシカは、大雪山系で2つに分かれ、大雪山の南西部に生息するシカは、冬、雪の少ない日高地方に移動して、夏は後志・胆振地方へ戻るといふ移動生活を繰り返している。秋口になると、シカの大群が新千歳空港のあたりをとって日高の方に移動する。そこでウサクマイや蘭越のアイヌの人たちは、そのシカをねらって狩猟をしてきたわけだが、このシカを見込んで、開拓使は缶詰工場をつくったのだ。

もうひとつの理由として、当時多くのお雇い外国人が北海道各地で活躍していたことがあげられる。外国人が何を好んだかという、ステーキとワイン。ワインは、瓶に詰めてもってこることができたが、ステーキ用の肉は、持ち込むことが難しく、それでターゲットになったのが鹿肉だった。

鹿肉は、夏、青草を食べている間は、肉がくさくて食べられないが、青草を食べなくなった秋から冬の時期に脂肪がのっておいしくなる。当時は、保存する技術がないので、缶詰という方法がとられた。つくられた缶詰は、東京や海外で好評を博していた。

ところが、明治11年冬に、北海道は未曾有の大雪に見舞われる。北海道に生息していた8割方のシカが死滅してしまう。明治12年も大雪で、北海道のシカは、ほぼ全滅になってしまった。それで春先の胆振、日高の海岸線には、シカの屍が延々と連なっている光景がみられたそうだ。

これに目をつけて一番利益を得た職業は、鹿角を利用した漢方薬屋さん。シカの角は、落角では何の効果もない。生きているシカの角を粉にしてのむとが、精力剤となる。同じような効能は、オットセイのペニスにもあり、これを徳川家康も愛用したといわれている。このときに日本中の漢方薬屋が北海道に渡ってきて、シカの角を集めたという話だ。缶詰工場は、明治14年に天皇が行幸された際には、お休み処となったが、明治13年には製造ができなくなり、明治17年頃には、工場は廃止となってしまふ。

5. 苫東調査始まる

昭和48年に入り、いよいよ苫東の調査が本格化し、昭和48年から50年まで3年間かけて、分布調査を行った。苫東開発のきっかけは、田中角栄の日本列島改造論がでてきて、高度経済成長期に入ったときに、苫小牧工業港があり、そこそこ後背地もあるので、ここを拠点にして、一大ナショナルプロジェクトの鉄鉱、自動車工業を支える工業地帯をつくらうという気運が生まれたことによる。この情報は、私が分布調査をはじめた3年くらい前から入っていたため、苫小牧東部地域には、どのくらい遺跡があり、遺跡の内容はどのくらいかという確認はできていた。1万㎡のなか、この広さは東京の山手線の内側にあたる大きさになるが、私が調査に入る前は、この地域に10ヵ所程度しか遺跡は登録されていなかった。それが3年間の分布調査で4倍くらいの数に増えた。

大規模開発に対する発掘調査のはじまり

これと平行して、新千歳空港、これより少し早く昭和48年くらいからは、函館空港遺跡群の調査がはじまった。いわゆる大規模開発による北海道の発掘調査のはしりとなった。

恵庭市柏木川の調査

昭和45年に、恵庭市柏木川の調査が行われた。北海道縦貫自動車道にかかる発掘調査の最初となる。当時は、まだ財団センターも発足しておらず、道教委の担当者も藤本英夫さん、高橋稀一さんが主体になっておられた。

調査団長は、大場先生。調査員が、藤本さん、北大の吉崎先生、高橋稀一さん、そして私という顔ぶれだった。発掘の実戦部隊としては、江別の高橋正勝君、石狩の石橋孝夫君、道教委にいて、現在は独立している宮塚義人君、それから標津町の梶田光明君がいた。現場常勤は、私、高橋正勝君、石橋君。高橋正勝君は、ちょうど僕の後輩で、北海道教育大函館分校を出た後、考古学の夢を捨てきれず、明治大学に編入学した努力家。卒業した後は、八王子市教育委員会で調査を行ったのち、北海道に戻ってきた。その高橋君に薫陶を得たのは、宮塚君、梶田君。柏木川調査の頃は、両名ともまだ高校生だった。この調査の経験を生かし、

のちに宮塚君は道教委に、梶田君は根室標津に就職したのである。

北海道縦貫道は、現在森町鷺の木手前まで開通しているが、柏木川の調査から40年近くの年月が過ぎた。函館までの開通は、未定のようなが、これだけの歳月がかかっているのである。

苫東の調査

昭和51年から調査を開始したが、当初はあまり遺構、遺物がでない調査が続いた。出てくるのは、落とし穴（Tピット）と風倒木痕ばかり。遺物がでてきても攪乱層から出土するものが多い。そのような状況が3年間くらい続いた。

はじめて遺構、遺物が「当たった」のは、昭和55年の柏原16遺跡、昭和56年の静川22遺跡。最初に調査した地点は、住居跡などが多いが、その後の地点では、墳墓、墓や貝塚などがみつかるようになった。

ニナルカ遺跡の調査

遺跡は、苫小牧市静川に位置し、「ニナルカ」とは、アイヌ語で「低い丘陵が連なるところ」という意味。鶴川に向かう高速道路周辺、安平川を越えた辺りから左手に連なる場所。戦前に静川小学校を建設するとき丘陵の一部が切られており、その際に発見されていると考えられる。

数回にわたり調査しているが、昭和58年、59年に行った国道の改修工事に伴うニナルカの調査では、まず、最初に貝塚が発見された。通常貝塚というのは、美々貝塚のように、現在の海岸線から数十キロ内陸にはいつているものが多いが、ニナルカ遺跡の貝塚は、海岸線から数キロしかはなれていない。もう一つ重要なのは、この貝塚が営まれたのが、縄文時代早期、東釧路式の時期だという点。縄文時代早期の貝塚は、あまり残っている例がない。この貝塚からは、オオノガイという北方系の貝、アカニシ、シオフキなどの暖かい所にすむ貝、寒流系、暖流系、2種類の貝が出てきた。縄文時代早期、ニナルカの貝塚が営まれた頃は、冷たい海が暖かくかわっていき変わり目にあつたので、両方の貝が見つかったと考えられる。

また、オオノガイにベンガラをいれて、容器にしたもの。東釧路式土器にベンガラで彩色した

土器が出土している。色が施された土器としては、初期のものに入る。

静川22遺跡の調査

当初は、石油備蓄基地を海側につくる予定だったが、その場所がいっぱいになったので、北側に移ってきたもの。そのため、埋蔵文化財調査を行ったが、この場所には活断層がみつきり基地がつくられなかった。この遺跡からは、貝塚、シカの骨がまとまって出土したり、続縄文の墓が検出された。その中で、特に注目されたのは、縄文時代前期の貝塚で、いろいろな情報を得ることができた。

静川16遺跡の調査

昭和57年に、石油備蓄基地関連で行われた。この場所は、もともとラクヨウキノコなどもとれる、トドマツの良い林だった。

私たちが調査することになり、山の木をすべてきり、ブルドーザーで火山灰を除去し、包含層を出した。そうすると、台地の縁に沿って、窪んでいる部分が確認された。上の幅が1～2m。下の幅が50cm～1m。深さが深いところで2mほど。このような溝が延々138m続いてみつけた。このような遺構を、考古学的な用語では、「環濠」というが、「環濠」とは、通常、弥生時代になり、コメづくりがはじまると、自分たちのムラを外敵から守るために、つくられたもので、巡らした溝の中に水をはるもの、と考えられてきた。静川でみつけたのは、標高13mくらいのところにある。支笏火山灰層を掘り込んでつくられているため、水をはったとしても、すぐしみこんでなくなってしまふ。溝で区切られた内側には、大きな建物跡が2カ所あつた。隣の台地には、竪穴住居跡が30数件みつけた。そのため、溝と大きな建物跡の性格が問題となった。検討委員会もつくり、吟味していただいたが、結論には到らなかった。縄文時代にこのような「環濠」の例はなく、現在は埋め戻され、1987(昭和62)年1月、国の史跡となっている。

このような調査が、苫小牧市の発掘調査黎明期に私が取り組んできたものである。

北海道立埋蔵文化財センター年報12

平成22(2010)年度

平成23年4月30日発行

編集：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

発行：北海道立埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1

Tel : (011) 386-3231 Fax : (011) 386-3238

E-mail : mail@domaibun.or.jp

URL <http://www.domaibun.or.jp/>

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリ

〒061-1195 北広島市西の里507番地1

Tel : (011) 375-2116(代) Fax : (011) 375-2115

